

貝類

① 千葉県における貝類

千葉県の貝類相は、明治開国の頃から、東京湾をタイプ産地とする種もいくつもあるように、比較的良く調査されており、2,000種以上が報告されている（渡辺・伊豆, 1999; 成毛, 1999; 清水, 2001）。ただ、近年の正確な記録となるのかなり少ない。

千葉県各地域で進行している人間による自然環境の改変は、極めて広範囲に渡り、大面積である。その影響は、陸域、淡水域、海域のいずれにおいても顕著なものであり、貝類の生息環境にも人間活動の影響が及んでいるため、それぞれの生

息環境の保全が必要となってきている。

その中で、千葉県レッドデータブック（千葉県環境部自然保護課（編）, 2000: 以下、2000年版と記す）が出版され、96種を登載した。ただ、この時には、汽水・干潟域のものはリストに含めることができたが、上部浅海帯（潮下帯）に生息する／していた種は対象外であった。そこで、千葉県レッドリスト（千葉県環境財団（編）, 2006: 以下、2006年改訂と記す）では、新たな情報によるランクの検討と共に、上部浅海帯の種を多数登載した。

② 選定基準

本来的には、選定するにあたって、県内から報告のあったすべての種に対して、その証拠となる標本の分類学的な再検討を行い、その生息場所及び環境を再調査し、さらに県内全域の現況を把握し、今後の証拠となる標本を採集あるいは確認・標本化した上で、その減少傾向等の解析を行わねばならない。しかしながら、今回もレッドデータブック作成にあたっては、上記の目標に沿って千葉県内の文献からの各種ごとの集成を行えなかった。ただ、2000年版出版後、清水（2001）は、この文献を細かく網羅した見事な千葉県産のリストを出版した。そのため、基本的には、この清水（2001）のリストに準拠できることとなった。そして、改訂に当たっては、県内の現況を調査して頂くために数名の方に調査員をお願いし、情報を集積した。また千葉県立中央博物館で実施している房総の貝類誌や重点研究／海岸域における多様性の変化をさぐる等の現地調査や各種の文献に基づいて判定を行った。

今回は、陸、淡水、汽水、干潟のみならず、前述のように、上部浅海帯に生息する種も対象とし、これで全貝類群がカバーできたことになる。

今回の対象となった5つの類型はここでの便宜的な表現であることをお断りしておく。つまり、汽水域とした中には、塩分濃度の高い外洋の岩礁潮間帯に生息する海浜性の種を含めていたり、干潟にも必ずしも砂底や泥底のみならず岩礁潮間帯に生息する種も登載されている。また、同様に各種は干潟から上部浅海帯にかけて生息していたり、必ずしも上記の類型のみで示されるわけでは

ないので、ここでは基本的に黒住（1998）の各種の生息場所の類型に従った。

貝類の場合、千葉県などでは、約6,000年前のいわゆる縄文海進時に熱帯・亜熱帯性の種が分散してきて、その後絶滅するという現象が地質学的に詳細に検討されている（例えば松島, 1979）。また、1万年前以降には、人間活動の結果として残された貝塚も多数存在する。さらに、いわゆる自然環境も最終氷期が終わり陸域・海域とも現在と類似したものとなっている。レッドデータブックでの評価年代はこのような考えに基づき本来ならば、1万年前以降にすべきであると筆者は考えているが、今回はおよそ明治時代以降とした。ただ、県内の千葉市のレッドリスト作成時に述べたように（黒住, 2004）、近世以前のデータの集積から（黒住, 2003）、ほとんどの種が高度経済成長期までは生存していたと考えられているので、一部の種に関しては実際のデータが明治期以前のものも僅かに含まれている。

近年では、選定基準に、「絶滅確率」等の統計的な数値を求めることが多くなっている。例えば、この方法では、東京湾の干潟に生息していた種は、その大部分が埋め立てられたので、「絶滅確率」を考えると極めて大きなものになる可能性も高い。同様に、近年改変の著しい水田とその周辺環境に生息する種も、この確率が高くなる。しかしながら、改変されても、生き残れたり、新たに創出された人工海浜のような生息場所を利用できる種の存在など、それぞれの種によって対応の方策が異なっている。そのためにも、岡本・黒

住（1996）や黒住（2006）が千葉市の人工海浜で行ったような新たに作り出された生息場所へ各種ごとの分散の有無や生息量等を詳細に調査・検討した上で、実際のリストを作成していく

必要がある。

上述した選定基準により、今回は196種を選定した。

③ 保護を要する貝類の概要

ここでは、今回選定した貝類の種々の特徴について、生息場所を中心に述べたい。

1) 陸産貝類

まず、陸産貝類の多くの種は、乾燥に対する抵抗性が低く、森林の改変で林床が乾くことにより容易に絶滅する。そのため森林伐採等は、陸産貝類に影響の出ないような長期的な計画の元を実施されることが望ましい。

主に房総丘陵の人間による改変の少ない広葉樹林に生息する陸産貝類として、サドヤマトガイ、イブキゴマガイ、スルガギセル、オクガタギセル、ヒメギセル、タカキビ、レンズガイ、カドコオオベソマイマイ等が挙げられる。これまでのところ、これらの種は清澄山、三石山、鋸山、大福山、高岩山で確認されており、これらの地域を今後も保全していく必要がある。特に清澄山周辺では、シカによる林床植生の食害が著しく、乾燥化により多くの種が絶滅していると考えられる。陸産貝類は広葉樹林であれば比較的樹種を選択しないので、必ずしもその保全は植物群落とは対応しない。これらの種のほとんどが関東地方以西に分布するが、ヒメギセルのみが、東北地方のブナ林に多く、広い意味でブナ林型の分布を示す種と言えよう。そして、これらの種は、過去には低地にも生息していたのであろうが、現在は標高の高い地域にのみ残存している。主に標高の高い地域に立地している千葉県針葉樹林では、現在までの所、陸産貝類の固有種や遺存的な種は確認されていない（黒住ほか、1993）。陸産貝類からのみ見た場合、房総半島の針葉樹林の特殊性は認められない。

標高と関係なく千葉県全域の比較的改変の少ない林に生息する種として、ゴマオカタニシ、スジケシガイ、チュウゼンジギセル、キセルモドキ、ヒメカサキビ、オオウエキビ、カントウビロードマイマイ、キヨスミビロードマイマイが挙げられる。これらの多くが房総丘陵で確認されているが、県北部地域でも、チュウゼンジギセルが確認されており、人為的改変の度合いにより、残存している場所が異なっているものと考えられる。

標高の低い林に生息する種として、コシダカシタラガイ、ウメムラシタラガイ、トウキョウコオオベソマイマイ、オオタキコギセルがある。前2種は微小であり、そのために未だ確認地域が極めて少ないが、過去に生息していた地域が改変を多大に受けたために、絶滅した可能性も高い。トウキョウコオオベソマイマイは下総台地から匝瑳地域の、オオタキコギセルは県北部地域の斜面林の比較的良好な環境を示している。この斜面林では、近年、林の下草刈りが盛んに行われており、あたかもこれが生物の多様性を増大させるとの印象を与えている。しかし、黒住・岡本（1996）で指摘されたように、陸産貝類から見た場合、現在多くの場所で行われている斜面林の下草刈りは、無選択に斜面全域を刈る場合が多く、刈られた枝等も斜面内に置かれず収去されている。このような状況では、わずかに残存している陸産貝類も乾燥に対する耐性が低いため、絶滅してしまう懸念があり、下草刈りの際に環境を変化させないよう配慮することが重要である。

草地・海岸部に生息する種として、ナタネキバサナギガイ、ミジンマイマイ、スナガイがある。また低地の水辺の種として、ナガオカモノアラガイがある。これらの種の本来の生息場所は、埋め立てや改変、さらには海浜への車の乗り入れ等により危機的な状況にある。ただ、ミジンマイマイとスナガイは、その生息場所を都市公園等にも広げており、両種の出現した地点の現況により保全等の対策も異なる。

2) 淡水産貝類

淡水産の貝類は、多くの種が印旛沼、手賀沼、利根川から記録されていた。しかし、現在では、印旛沼、手賀沼の汚染は危機的な状況にあり、選定された種でも、ほとんどが絶滅してしまっている。このような沼は様々な生息場所を提供しており淡水産貝類には重要な生育環境であったが、特に大面積の止水域に生息するカラスガイは、現時点で生息が確認されている場所がほとんどない。

また、水田という止水域も淡水産貝類の生息環境として重要である。しかしながら、土地改良

事業による乾田化と農薬散布の影響で、他の生物群同様、生息している貝類が多大な影響を受けている。水田に広く分布し、密度も高いと考えられてきたマルタニシ、モノアラガイ、ヒラマキズマイマイの近年の減少は著しい。前記の沿の辺縁部も同様な止水環境を形成していたが、汚染や護岸工事等により、その環境は変質してしまっている。これらの種が残存している水田の環境保全には十分配慮することが重要である。

水田の用水路の緩やかな流水域も貝類にとっても好適な生息環境である。かつてはマツカサガイ、ヨコハマシジラガイ、イシガイが生育していたが、大多数の用水路が三面コンクリート張りになり、陸産のナガオカモノアラガイ等と共に、極めて多大な影響を被ってきた。また、この3種のイシガイ科の二枚貝とカラスガイは、グロクディウム幼生と呼ばれる特殊な幼生を魚類に付着させねば生活史が完結しない。一方、魚類のタナゴ類はこれらの貝類を産卵床として利用しており、この貝類と魚類のいわゆる共生関係が維持されなければ、一方のみの保護では他方を救うことは出来ない。環境の保全と共に、共生という視点も必要になってくる。

下総台地の湧水及びその流出河川にのみ生息する腹足綱のミズコハクガイと二枚貝綱のニホンマメシジミを選定した。この湧水を保全していくためには、単にその場の環境の保全のみならず、水量と水質の管理が必要となってくる。特に台地上に大型団地が形成されているような湧水では、造成時の流路の遮断や排水路の整備に伴う水量の増減や洗剤による洗車等による汚染など、団地での人間活動が湧水に大きな影響を与えていよう。

絶滅の危機にある淡水産のカタヤマガイは、人間に多大な影響を与える日本住血吸虫の中間宿主である。そのため、医学の面から、本種の根絶事業が展開され、千葉県を含めて日本全国で本種は激滅している。本種に関しては、医学との調整の元で、人工的な環境での保存も考慮する必要がある。

3) 汽水産貝類

汽水産として挙げた種は、以下の6つに生息場所から大別できる。

- a. 河口の砂泥底に生息するヤマトシジミ、
- b. 河口のアシ原に生息するヒロクチカノコ、クロヘナタリ、フトヘナタリ、ヨシダカワザンショウ、ムシヤドリカワザンショウ、オカミミガイ
- c. 河口のアシ原と飛沫帯の転石下に生息する

キュウシュウクビキレガイ、ナギサノシタタリ
d. 飛沫帯の転石下に生息するマクスジコミミガイ、カシノメガイ

e. 汽水域最奥部から沖積低地の淡水域に生息するミズゴマツボ

f. 河口の汽水域に定着し、淡水域を遡上するイシマキ

ヤマトシジミは、利根川河口等にのみ残存しており、漁業的に捕獲もされているが、河口堰の建設で激滅したのは周知の事象であり、県内の他地域ではほとんど絶滅してしまっている。河口のアシ原は、前述のごとく、東京湾の干拓等の影響を昔から受けており、絶滅した3種もこの場所に生息していたものである。この環境は干潟と連続しており、干潟の所でも述べる。キュウシュウクビキレガイ、ナギサノシタタリは発見されている場所は少ないが、今後、各地で確認されると考えられる。マクスジコミミガイとカシノメガイは、いずれも北限の分布地で、近年の正確な記録はなく、永続的な生活史を繰り返していない偶因分布の可能性も否定できないが、南房総の環境の好適な岩礁域に生息している可能性も高い。ミズゴマツボは、利根川下流で近年確認されている。イシマキは河口部に定着するので、河口部がコンクリート壁になったり、逆に上部のダム等で水量が減少し河口閉塞等によって変革されると、定着場所が消失してしまい、急激に減少する。そのため、現在生息している場所は、ほとんどなくなっている。河口域の改変時には、魚道だけではなく、このような貝類をも遡上できるような形態にするなどの配慮が望ましい。

4) 干潟の貝類

千葉県では、高度経済成長期に臨海部の埋め立て等の改変やいわゆる海洋汚染等により、大面積の干潟を有していた内湾である東京湾の沿岸は大きく変化してしまった。まだ、各種ごとの詳細な変遷史や東京湾自体のきめ細かな貝類相のチェックリストの作成・検討は行われていないが、黒住・岡本(1994a, 1996)は、模式図として、1万年前以降の東京湾における貝類種数の変遷を示した。それによると、外来種を除いて、以下の4つの画期が認められている。

- a. いわゆる縄文海進前後の熱帯・亜熱帯性種の分散と絶滅、
- b. 明治時代のアシ原の種の絶滅、
- c. 高度経済成長期の大部分の種の絶滅、
- d. 近年の有機スズ類によるいわゆるインボセックスによる数種の絶滅

これらの内、a. は、今回のレッドデータブックの取り扱い時間軸内ではないので除かれる。また、c. とd. に属する種は、干潟より深い上部浅海帯に生息する種が多い。b. のアシ原に生息する種は、汽水域でも簡単に述べた。c. の高度経済成長期による変革で、干潟の種とより深い上部浅海帯に生息する多くの種が絶滅や絶滅の危機に瀕しており、良く知られているハマグリもこの時期に絶滅した種である。

河口域のアシ原と干潟は、本来連続した環境で、現在では、木更津市小櫃川河口が自然の干潟として良く知られている。一方で、小面積であり人為的な影響を受けてはいるものの、市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖、夷隅町夷隅川河口、一宮市一宮川河口、銚子市利根川河口は、残存する生息環境として、維持・保全をはかることが重要である。外洋に面した海岸のポケット的な「内湾」において、近年、干潟産のムシロガイの生息が確認されており、このような内湾が干潟の種の個体群維持に重要であることも認識されねばならないであろう。

日本各地で、このような干潟は、埋め立てや水質汚染等の影響を直接的に受け、生息する貝類の減少をもたらしている。その他にも、河川上流部のダム建設や河口堰、沿岸域の構築物により、河川からの水量の減少や、海流の変化に伴うシルト等の微細な粒子の動きが干潟の貝類の減少に係わっている可能性も考えられる。つまり、シルトの供給量が減少し、河口域の泥質干潟が消失している訳である。さらに近年では、潮干狩りのアサリを有明海（及び朝鮮半島、中国等からも）から搬入しており、これに混じって千葉県においてもいくつかの種の定着が知られている（例えばカワアイ等：千葉県外来種対策（動物）検討委員会 2007）。さらにはハマグリ等の放流も行われている。今後、定着する種の中には、今回選定した種も含まれることが想定される。同種であっても、遺伝的な組成や生態的な側面が異なっている可能性も高く、このようなことが生じないような配慮をすることが望ましい。同時に、風呂田

（2000）に述べられているように、貝類の内湾干潟への再分散を阻止している要因の究明が必要である。

外洋に面した砂浜でも減少した種が認められている。ナミノコガイやクチベニガイである。また、同じく岩礁や転石地帯でもこのような種がある。その例は、カヤノミカニモリやヤタテガイである。これらの種の減少に関しても、有機スズを含む水質汚染が大きな影響を与えていると想定される。また、前述のシルトの動きも、砂中に堆積したシルトが水量減少により流されなくなる現象等が想定される。これらについても、今後の詳細な実証的な研究が必要である。

外洋に面した海岸として、砂浜では南房総市原岡や館山市北条が重要な地域として挙げられる。岩礁等では、富津岬から太東崎に至る地域に、ここにリストした種の残存生息地が散在しているものと考えられる。

5) 上部浅海帯の貝類

ほぼ干潟の種と同様であるが、生息場所が干潮時にも干上がらない部分であり、特に東京湾で多くの種が近年の確認ができていない。東京湾から激減／絶滅した種の多くは、砂泥底や泥底に生息する。そのため、必ずしも東京湾の内湾のみではなく、外海でも内湾と同様な堆積物底が存在する場合、確認されていることも多い。また、経験的に上部浅海帯の種は確実な生貝は得られておらず、死殻のみ確認され、報告されている例も多いと考えられる。その場合には、対象とした明治期以前の、いわゆる数千年前の完新世化石の可能性も残る。それぞれの報告の標本を確認することは不可能であり、松島（1974）の示した縄文海進期に南関東にまで分散してきて、その後急激に分布を縮小したチリメンユキガイ *Meropesta sinojaponica* Zhuang, 1983等の古い種は対象外とした。ただ、前述したように、それ以降も東京湾等に生存していたと考えられ、高度経済成長期まで残存していた可能性のある種は対象としている。

④ 情報不足種等

2000年版で情報不足とした記録のある(稲葉, 1975; 渡辺・成毛, 1988)のヤマキサゴ(*Wardemaria japonica* (A. Adams, 1861))とオオコウラナメクジ(*Nipponarion carinatus* Yamaguchi & Habe, 1955)、カタハガイ(*Pseudodon (Obovalis) omiensis* (Heimburg, 1884))は、やはり標本を確認できなかった。チョウセンスナガイ(*Gastrocopta (Sinalbinula) coreana* Pilsbry, 1917)とカタマメマイマイ(*Lepidopisum verrucosum* (Reinhardt, 1877)、キヌカツギハマシイノミガイ(*Melampus (Melampus) sincaporensis* Pfeiffer, 1855)、シイノミミミガイ(*Cassidula plecotrematoides* Möllendorff,

1901)、ヒメカノコガイ(*Clithon (Pictonerita) oualaniensis* (Lesson, 1831))、イリエツボ(*Sinusicola yendoi* (Yokoyama, 1927))は記録・標本とも見つけ出すことができなかった。一方、ハザクラ(*Psammotaea minor* (Deshayes, 1855))は内房や夷隅川河口から、ウスコミミガイ(*Laemodonta extratoides* Kuroda, 1956))は千葉市や袖ヶ浦から生息を確認されたが、それぞれ新たな分散として、今後の動態を見ることとし、対象から除いた。また、ワカウラツボは、前述したように明治期まで生存していた可能性が高いと考え、対象とした。

2006年改訂版で対象とした種のうち、マツシマツボ*Lucinestea matusimana* (Nomura, 1940)とハツザクラ*Nitidotellina pallidula* (Lischke, 1871)は同定が不確実だと考え、今回の対象から除いた。

⑤ 記述様式

選定された種は「共通評価基準及びカテゴリ」に従って、5つに区分した。貝類でも、個体のサイズが小形化するに従い、急速に発見率が低下してくる。小形のために、これまでに確認された生息場所が極めて限られている種も多数存在するものと考えられる。この中で、これまでに知られている生息地が同数であっても、関東地方他県での生息場所や生息量の現地調査や報告(例えば高橋 1984; 池田 1994; 川名 1997)を加味した。同様に干潟の種についても、サイズと通常の調査では確認できていない生息場所にすむ種に関しては、この状況を加味した。

配列は、X~Dのカテゴリに区分し、各区分の中は、腹足綱、二枚貝綱の順とし、科の配列は近年の分類体系に従った。記述は、種の特性として、殻形態を中心とし、一部近縁種との識別点等を取り上げ、最後に生息環境を示した。分布として、種の地理的分布を、県内の状況として、過去の記録や現在の生息状況等を示した。文献として、参考文献に挙げた千葉県内の文献と各種の具体的な文献を示した。種の特性と分布に関しては、岡田(1965)、波部(1977)、奥

谷(1986)、奥谷(2000)も参考にされた。なお、他分類群を含め種小名の確定できなかった種(sp.で表記されているもの)は対象外となっている。

また、一つの種につき、6ヶ所未満の記録の場合にはできるだけ詳細に地名を、6ヶ所以上の場合には市町村名を記録した。各種ごとの地名は、陸産・淡水産貝類については千葉県立中央博物館図書館の地名コード順に、汽水産・干潟の貝類については東京湾から内房、外房、銚子の順に示した。ただ、上部浅海帯のほとんど種では、前述した清水(2001)に詳細な文献が引用されており、中には入手しにくい報告書等も多かったため、引用文献としては「清水(2001)」とし、また詳細な産地を挙げなかった種も多い。

干潟の種に関しては、打ち上げられた死殻のみの記録が明らかな場合は、地名に*を付した。また同じく汽水と干潟の種に関しては、一部隣接した相模湾の池田(1994)の記述も示したものもある。分布図には、一部に完新世の化石を含んでいることも考えられる。

④ 参考文献

- 秋山章男 (1988) 干潟の底生生物—干潟におけるマクロベントス相とその特徴—。「小櫃川河口域自然環境学術調査報告書1988」(千葉県環境部自然保護課編), pp. 189-195. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
- 秋山章男・松田道生 (1988) 干潟の生物観察ハンドブック. 干潟の生態学入門. 東洋館出版社, 東京.
- 千葉県外来種対策(動物)検討委員会(編) (2007) 外来種(動物)の現状等に関する報告書. 72 pp. 千葉県生活環境部自然保護課, 千葉県.
- 千葉県環境部自然保護課(編) (2000) 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編. 438 pp. 千葉県環境部, 千葉.
- 千葉県環境財団(編) (2006) 千葉県の保護上重要な野生生物. 千葉県レッドリスト(動物編). <2006年改訂版>. 36 pp. 千葉県環境生活部.
- 天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査委員会(編) (1996) 平成5~7年度天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査事業報告書. 千葉県教育委員会, 千葉.
- Fukuda, H. (1994) Estuarine mollusks of the Edogawa drain, central Honshu, Japan. *Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist.* (16): 1-14.
- 風呂田利夫 (1980) 新浜湖の底生動物調査(1979年度). 「千葉県新浜水鳥保護区(行徳近郊緑地特別保全地区)生物調査報告V」(千葉県・新浜研究会編), pp. 10-27. 千葉県・新浜研究会, 千葉.
- 風呂田利夫 (2000) 内湾の貝類、絶滅と保全—東京湾のウミナナ類衰退からの考察—. 月刊海洋. 号外 20: 74-82.
- 風呂田利夫・鈴木嘉平 (1999) 東京湾奥部谷津干潟の1986-87年冬期における底質環境ならびにマクロベントスの生息状況と垂直分布. *日本ベントス学会誌* 54: 36-43.
- 風呂田利夫・山西良平・福田宏・森野浩 (1996) 東京湾奥部三番瀬北西域におけるマクロベントス相の分布特性. *千葉生物誌* 46: 1-7.
- 波部忠重 (1961) 続原色日本貝類図鑑. xiv + 183 + 42 pp. + 66 pls. 保育社, 大阪.
- 波部忠重 (1977) 日本産軟体動物分類学. 二枚貝綱/掘足綱. xiii + 372 pp. 図鑑の北隆館, 東京.
- 波部忠重・伊藤潔 (1965) 原色世界貝類図鑑.I.北太平洋編. viii + 176 pp. + 56 pls. 保育社, 大阪.
- 波部忠重・小菅貞男 (1967) 標準原色図鑑全集.3.貝. xviii + 223 pp. + 64 pls. 保育社, 大阪.
- 堀越増興 (1990) 房総半島最南部と伊豆大島の海浜打ち上げ貝類相から見た黒潮系暖水要素の卓越. *千葉大海洋生態系研究センター年報* 10: 38-49.
- 飯島明子・黒住耐二・風呂田利夫 (2002) 東京湾の人工潟湖に形成された絶滅危惧種の干潟産腹足類カワアイ *Cerithidea djadjarisensis* (Martin) (軟体動物門, 腹足綱) の個体群. *日本ベントス学会誌* 57: 34-37.
- 池田等 (1994) 相模湾から消えゆく貝類. *潮騒* だより 5: 6-7.
- 稲葉亨 (1955a) “吸上げ”の貝類. *千葉県生物学会会報* 5(2): 6-7.
- 稲葉亨 (1955b) 太海の貝(II). *千葉県生物学会会報* 5(5): 54-56.
- 稲葉亨 (1963a) 銚子市長崎を中心とした沿岸性貝類概観. *千葉生物誌* 13(2): 31-56.
- 稲葉亨 (1963b) 房州産現棲や貝塚の貝類について. 「千葉県史料.原始古代編.安房国」(千葉県編), pp. 43-67. 千葉県.
- 稲葉亨 (1964) 館山採集会. *千葉県生物学会会報* 14(2): 45-48.
- 稲葉亨 (1965) 銚子半島の貝. 「銚子の自然」(銚子市環境協会編), pp. 136-159. 銚子市環境協会, 銚子.
- 稲葉亨 (1975) Non-marine mollusks of Chiba Prefecture. 自刊.
- 稲葉亨 (1976) 布良の小貝. *ちりぼたん* 9(2): 表紙3面.
- 石山尚珍 (1966) 東京近海の現生貝類の調査. *地調月報* 18(5): 223-238.
- 石山尚珍 (1967) 千葉県(東京湾側)における遺骸群集の研究. *地調月報* 17(4): 341-359.
- Kato, M. and G. Itani (1995) Commensalism

of a bivalve, *Peregrinamor ohshimai*, with a thalassinidean burrowing shrimp, *Upogebia major*. J. Mar. Biol. Ass. UK 75: 941-945.

川名美佐男 (1997) 軟体動物 (陸産及び淡水産貝類). 「さいたまレッドデータブックー埼玉県希少野生生物調査報告書. 動物編ー」 (埼玉県環境部自然保護課編), pp. 281-295. 埼玉県環境部自然保護課, 浦和.

川名興 (2003) 大房岬 (富浦町多田良) 周辺の海産貝類. 千葉生物誌 52(2): 113-119.

小島英二 (1982) 利根川河口部貝類調査. 千葉県内水面水産試験場試験調査報告 5: 24-42.

小島茂明・小関祥子・飯島直子・木村妙子・大越健嗣・鈴木孝男・林育夫・風呂田利夫 (2008) 最近発見された東日本のカワアイ集団の遺伝的特性. Venus 67(1/2): 144.

近藤高貴 (1995) マツカサガイ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, II」 (社) 日本水産資源保護協会編, pp. 3-6, 115. (社) 日本水産資源保護協会, 東京.

Kondo, T. (1998) Revision of the genus *Inversiunia* (Bivalvia: Unionidae), Venus 57(2): 85-93.

黒住耐二 (1995) ウミニナ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, II」 (社) 日本水産資源保護協会編, pp. 73-78, 124. (社) 日本水産資源保護協会, 東京.

黒住耐二 (1997) オカミミガイ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, IV」 (社) 日本水産資源保護協会編, pp. 12-17, 111. (社) 日本水産資源保護協会 (編), 東京.

黒住耐二 (1998) 日本における絶滅の危機に瀕する海産貝類. 海洋と生物 20(1): 21-26.

黒住耐二 (1999) イタボガキは絶滅危惧種?. 九州の貝 (52): 23-31.

黒住耐二 (2000) 日本における貝類の保全生物学ー貝塚の時代から将来へー. 月刊海洋・号外 20: 42-56.

黒住耐二 (2003) 多摩川水系の貝類から見た自然環境の現状把握と保全に関する研究. (財) とうきゅう環境浄化財団. 研究助成・学術研究 31(226): 1-242. (財) とうきゅう環境浄化財団, 東京.

黒住耐二 (2004) 貝類. 千葉市の保護上重要な野生生物ー千葉市レッドリストー (財) 自然環境研究センター編, pp. 78-84. 千葉市環境局, 千葉.

黒住耐二 (2006) 貝類を中心とした小形動物からみた人工海浜の環境の評価と新たな海浜環境の創出. 「生物多様性を指標とした人工海浜および護岸の環境影響評価と新たな人工海岸創出の検討 (科研費報告書)」 (萩野康則・黒住耐二編), pp. 39-61. 千葉県立中央博物館, 千葉.

黒住耐二 (2010) バイー絶滅寸前から復活. ちば水辺の生命 149. 讀賣新聞地域版34面.

黒住耐二・成毛光之・渡辺富夫 (1993) 千葉県高宕山周辺の陸産貝類相とその特徴. 千葉中央博自然誌研究報告 2(2): 145-149.

黒住耐二・岡本正豊 (1994a) 千葉市原市の貝類. 「市原市自然環境実態調査報告書」 (市原市自然環境実態調査団編), pp. 7-34. 市原市環境部環境保全課, 千葉.

黒住耐二・岡本正豊 (1994b) 千葉市の貝類IIー貝類相に関する中間報告Iー. 「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告」 (千葉自然環境調査会編), pp. 270-301. 千葉市環境衛生局環境部, 千葉.

黒住耐二・岡本正豊 (1996) 千葉市の貝類2ー湾岸域の貝類相ー. 「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書」 (千葉自然環境調査会編), pp. 623-685. 千葉市環境衛生局環境部, 千葉.

黒住耐二・尾崎煙雄・大木淳一 (2004) 房総丘陵のダム湖における淡水産貝類の種組成と生態分布. 千葉中央博自然誌研究報告 特別号(6): 33-42.

前田和俊・松隈明彦・上島励 (1990) 国立科学博物館収蔵稲葉コレクション陸産貝類目録. 柏市教育委員会, 柏.

前田和俊・大熊量平 (1972) 陸貝採集地めぐり(29)ー房総三石山ー. ちりぼたん 7(3): 60-61.

増田修 (1996) ヒロクチカノコガイ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, III」 (社) 日本水産資源保護協会編, pp. 8-12, 80-81. (社) 日本水産資源保護協会 (編), 東京.

松島義章 (1979) 南関東における縄文海進に伴う貝類群集の変遷. 第四紀研究 17(4): 243-265.

- 成毛光之 (1985) 貝のなかま. 「房総の生物」(房総の生物編集委員会編), pp. 194-203. 河出書房新社, 東京.
- 成毛光之 (1999) 千葉県非海産貝類目録. 「千葉県動物誌」(千葉県生物学会編), pp. 62-73. 文一総合出版, 東京.
- 村岡健作・内藤武彦 (1991) 野村洋太郎氏寄贈貝類標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録 (5): 1-167.
- 小島裕子 (1972) みちくさ. みちくさ 5:11-16.
- 岡田要 (編) (1965) 新日本動物図鑑 [中]. 北隆館, 東京.
- 岡本正豊 (1993) 千葉県産貝類 (納付標本リスト). 「平成4年度標本資料収集動物・植物標本目録」(千葉県自然誌資料調査会編), pp. 5-12. 千葉県自然誌資料調査会, 千葉.
- 岡本正豊 (1994) 千葉県産貝類資料 (1993年度). 「平成5年度標本資料収集動物・植物標本目録」(千葉県自然誌資料調査会編), pp. 4-12. 千葉県自然誌資料調査会, 千葉.
- 岡本正豊 (1995) クロヘナタリ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, II」(社)日本水産資源保護協会編, pp. 79-82, 124-125. (社)日本水産資源保護協会 (編), 東京.
- 岡本正豊・黒住耐二 (1996) 千葉市の貝類Ⅰー人工海浜の貝類ー. 「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書」(千葉自然環境調査会編), pp. 581-622. 千葉市環境衛生局環境部, 千葉.
- 奥谷喬司 (編) (1986) 決定版生物大図鑑 貝類. 世界文化社, 東京.
- 奥谷喬司 (編) (2000) 日本近海産貝類図鑑. xlviii + 1173 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 大島喜平次 (1993) 南外房の貝. 145 pp. 自刊.
- 大嶋剛・風呂田利夫 (1980) 小櫃川河口干潟周辺における底生生物の分布. 「千葉県木更津市小櫃川河口干潟の生態学的研究Ⅰ」(東邦大学理学部海洋生物学研究室・千葉県生物学会編), pp. 45-68. 東邦大学理学部海洋生物学研究室・千葉県生物学会, 千葉.
- Oyama, K. (1973) Revision of Matajiro Yokoyama's type Mollusca from the Tertiary and Quaternary of the Kanto area. Palae. Soc. Japan, Spec. Pap. (17): 1-148, 57 pls. Oyama, K., K. Sakurai and Y. Takemura (1959) The Molluscan Shells. Vol. III, *Modiolus* (1),(2). Resources Exploitation Institute, Tokyo.
- 坂井昭 (1989) 失われたウミホウズキを求めて. 自刊.
- 笹生一雄 (1983) 千葉県南部の陸の貝と淡水の貝について. 冬虫夏草 19: 21-28.
- 清水利厚 (2001) 千葉県の軟体動物相. 千葉県水産試験場研究報告 (57): 1-159.
- Sorita, E. (1986a) Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto district, Honshu, Japan-I. A new subspecies of *Nipponochloritis pumila* (Gude, 1902) and a new subspecies of *N. bracteatus* (Pilsbry, 1902). Venus 45(2): 90-108.
- Sorita, E. (1986b) Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto district, Honshu, Japan-III. On *N. oscitans kiyosumienis* Azuma, 1982 and *N. kawanai* Sorita, 1980, with a conclusive remark. Venus 45(2): 186-193.
- 須藤藤彦 (2008) 手賀沼の水生生物. 水の館だより (66): 6.
- 立川浩之 (印刷中) 千葉県勝浦市吉尾周辺の潮間帯で採集され亜海産軟体動物. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 特別号(9) (印刷中)
- 立川浩之・黒住耐二・藍澤正宏 (2007) 和田隆治氏採集貝類標本目録. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 特別号(8): 1-55.
- 高橋茂 (1984) 群馬県陸産および淡水産貝類目録. 自刊.
- 多々良有紀・福田宏 (2009) 東京湾小櫃川河口産オウギウロコガイ (二枚貝綱: マルダレガイ目: ウロコガイ科). Molluscan Diversity 1(1): 12-17.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山岸良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏 (1996) 日本の干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan Science Report 3: 1-181.
- 渡辺富夫・伊豆守彦 (1999) 千葉県外房海域の海産貝類. 「千葉県動物誌」(千葉県生物

学会編), pp. 74-138. 文一総合出版, 東京.

渡辺富夫・成毛光之 (1988) 銚子現生貝類目録. 銚子・自然を親しむ会会報 4: 1-140.

Yamashita, H., M. Okamoto, M. Harato and H. Fukuda (1997) The present status and conservation values of endangered mollusks in tidal flats

and estuaries of Japan -1. *Tellina (Serratina) capsoides* (Bivalvia: Veneroida: Tellinidae). The Yuriyagai (5): 101-115.

柚原剛・多々良有紀・多留聖典 (2010) 東京湾岸人工水路で確認されたサザナミツボ (新生腹足上目: サザナミツボ科). Molluscan Diversity 1(2): 33-36.

X ヒロクチカノコ アマオブネ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Neritina (Dostia) violacea (Gmelin, 1791)

千：X-X-X

【種の特性】 殻高12mm、殻径17mm程度の半球形で、厚質、堅固。螺塔部は平巻で、極めて小さい。殻は灰紫色で網目斑を持ち、黄褐色の殻皮を有する。殻表は平滑。内唇滑層が広がり、殻口は半円形。フタは石灰質で、殻口を完全に塞ぐ。汽水域のアシ原周辺の転石・基物下に生息する。汽水産。

【分布】 東京湾(絶滅)、三河湾、瀬戸内海、有明海。中国沿岸。

【県内の状況】 船橋市等から記録があり、和田ほか(1996: p.89)には、アンケートにより木更津市小櫃川河口から本種の生息が報告されているが、どの時代のどのような状況のものか全く不明であり、近年の報告・調査では確認できていない。そのため、この記録を信じがたい。また、時代を特定できないが市川市江戸川放水路の標本もある。いずれにしても県内から絶滅した。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 増田(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ヒロクチカノコ

X イボウミニナ ウミニナ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Batillaria zonalis (Bruguère, 1792)

千：X-X-X

【種の特性】 殻高30mm、殻径10mm程度の塔形で、厚質、堅固。螺層に数本の細い肋を持ち、肋間は広い。結節は尖る。内唇の滑層瘤は弱くレール状。外唇は湾入する。体層に縦張肋を持たない。内湾奥部の潮間帯の泥底に生息する。

【分布】 北海道南部～琉球。インドネシア。

【県内の状況】 船橋市、*市原市、*木更津市、*富津市、*館山市、*和田町、*鴨川市、銚子市等から記録がある。特に東京湾奥部では、1950年代には、ほとんど無数とされていたが、近年の記録はなく、また干潟表面に生息する種で、発見は容易であり、絶滅したと考えられる。相模湾でも危惧とされる。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955a) / 稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 石山(1966) / 石山(1967) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989) / 池田(1994)

(黒住耐二)



イボウミニナ

X クロヘナタリ ヘナタリ科

国：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

Cerithidea (Cerithidea) largellerti (Philippi, 1848)

千：X-X-X

【種の特性】 殻高30mm、殻径10mm程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長しても殻頂部は磨滅するのみで、欠落しない。殻色は黒褐色から黄褐色まで変異し、種々の色帯を持つこともある。殻はやや薄質。各層には、20本程度のやや弱いが明瞭な縦肋を持ち、極めて弱い螺肋も有するが、平滑に見える。殻口外唇は肥厚せず、張り出さない。汽水域のアシ原の泥底に生息する。汽水産。

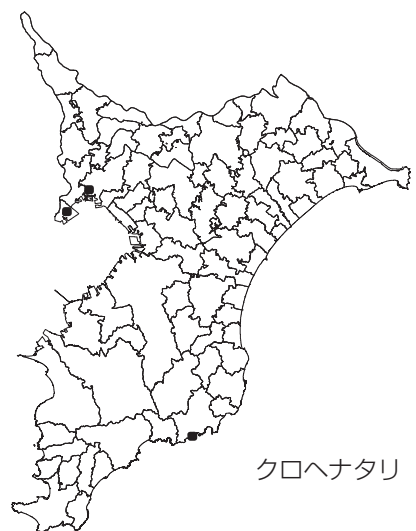
【分布】 東京湾(絶滅)、瀬戸内海、有明海。黄海。

【県内の状況】 東京湾と勝浦市から記録がある。和田ほか(1996: p.89)には、アンケートにより木更津市小櫃川河口から本種の生息が報告されているが、どの時代のどのような状況のものか全く不明であり、近年の報告・調査では確認できていない。そのため、この記録を信じがたい。いずれにしても県内から絶滅した。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1964) / 岡本(1995)

(黒住耐二)



クロヘナタリ

X シゲヤスイトカケギリ トウガタガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Turbonilla shigeyasui Yokoyama, 1927

【種の特性】 殻高5.8mm、殻径2mm程度の塔形、薄質、臍穴は開く。螺塔は高い。殻表には約20本程度の強い縦肋と8本程度の肋間の開かない螺肋を持つ。殻表は、粗面で、黄白色の殻皮を有する。内唇の歯は通常外部から見れない。この種として報告されているものには、複数種が含まれている可能性が高いが、内湾の潮間帯泥底に生息する種群として特徴的なものである。種の異同に係わらず、この種群に属する種の生息環境は、比較的良好である。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 詳細には知られていないようであるが、房総半島から記録があり、近年の報告がなく、本種の生息場所の变革が著しいので絶滅したと考えられる。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 Oyama(1973)

(黒住耐二)



シゲヤスイトカケギリ

X イソチドリ イソチドリ科

国：掲載なし
千：無-X-X

Amathina tricarinata (Linnaeus, 1767)

【種の特性】 殻長15mm、殻幅7mm、殻高7mm程度の略二等辺三角形の傘型で頂部に巻いた部分を持ち、厚質。殻表に3本の極めて強く、鋭く尖る肋を持つ。生時には厚い濁褐色の殻皮を有する。殻皮が剥離した個体は、やや透明感のある白色。頂部下にはやや厚い平坦部を持つ。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する二枚貝タイラギ等の腹縁部に付着する。

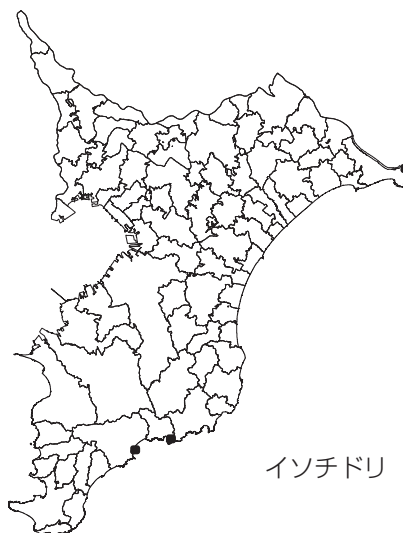
【分布】 房総半島～九州。インド～西太平洋。

【県内の状況】 銚子と外房から記録があるものの、生貝が確認されているかどうか不明。沖積層由来と考えられる個体の得られることが大半である。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、宿主となるタイラギ等の保全を行い、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 渡辺・成毛(1988) / 大島(1993)

(黒住耐二)



イソチドリ

X ウツセミガイ ウツセミガイ科

国：掲載なし
千：無-X-X

Akera soluta Gmelin, 1791

【種の特性】 殻高25mm、殻幅13mm程度の筒型で、螺塔は平巻、殻表に密で微細な螺溝を全面に巡らす。殻皮は淡黄褐色で薄い。本種はいわゆるアメフラシ類に属し、殻は極めて薄質で、生時には体内に完全に埋入するという。上部浅海帯の砂泥底に生息し、海藻の間にすむとされる。

【分布】 房総半島～九州。インド～西太平洋。

【県内の状況】 房総半島以南という記録があるものの、千葉県産の標本はほとんど知られていないようである。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 波部・小菅(1967)

(黒住耐二)



ウツセミガイ

X オカミミガイ オカミミガイ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Ellobium (Ellobium) chinense (Pfeiffer, 1855)

千：X-X-X

【種の特性】 殻高27mm、殻径15mm程度の長卵形、やや厚質、螺塔はドーム状、臍穴は閉じ、縫帯はない。殻皮は光沢の弱い濁黒褐色。縫合下に数本の螺溝を巡らす他は、平滑。外唇はやや肥厚するのみで、肩を形成せず、白色。内唇と軸唇に1歯を持ち、外唇に歯はない。汽水域のアシ原泥底の基物下に生息する。汽水産。

【分布】 東京湾(絶滅)、三河湾、瀬戸内海、有明海。中国沿岸。

【県内の状況】 和田ほか(1996; p.89) には、アンケートにより木更津市小櫃川河口から本種の生息が報告されているが、どの時代のどのような状況のものか全く不明であり、近年の報告、調査では確認できていない。そのため、この記録を信じがたい。いずれにしても県内から絶滅した。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 黒住(1997)

(黒住耐二)



オカミミガイ

X イタボガキ イタボガキ科

国：掲載なし

Ostrea denselamellosa Lischke, 1869

千：無-X-X

【種の特性】 殻長15cm、殻高15cm、殻幅5cm程度の垂方形、やや厚質、上面の右殻は平たく、下面の左殻はやや膨らむ。右殻の殻表には薄質で短い櫛皮状の突出部を持つ成長肋が密に存在する。左殻ではやや太い放射肋が明瞭である。左殻殻頂部で、海底の小石等に付着する。内湾の上部浅海帯砂泥礫底に生息する。

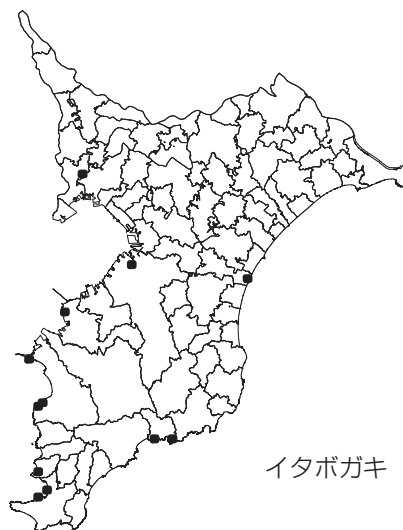
【分布】 陸奥湾~九州。東アジア。

【県内の状況】 東京湾を中心に外房域からも報告されているが、現在は古い死殻が確認されるのみである。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。また、内湾の小礫底の存在も不可欠である。

【引用文献】 黒住(1999)

(黒住耐二)



イタボガキ

X モクハチアオイ ザルガイ科

国：掲載なし

Lunulicardia retusa (Linnaeus, 1767)

千：無-X-X

【種の特性】 殻長15mm、殻高18mm、殻幅14mm程度の略三角形で、合弁の側面観はハート形、厚質。殻表に狭く浅い溝で区切られた平たい20本程度の放射肋を有し、肋上は粗面となる。殻頂下に大きな凹所を持つ。殻は陶白色。生時には体内に共生藻を持つ。やや内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。インド-西太平洋。

【県内の状況】 内房域から新鮮な死殻が複数得られており、これらは沖積層由来の化石の可能性もあるが、ここでは対象範囲内まで生息していたとして取り扱った。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、生息可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。その折、本種の光合成を阻害するような汚濁の生じることないようにすることにも配慮しなければならない。

【引用文献】 稲葉(1963b) / 清水(2001) / 川名(2003)

(黒住耐二)



モクハチアオイ

X マゴコロガイ カワホトトギス科

国：掲載なし
千：X-X-X

Peregrinamor oshimai Shoji, 1938

【種の特性】 殻長13mm、殻高5.5mm、殻幅10mm程度の亜方形、合併を背面からみると、ハート形、薄質。殻頂は前端に位置し、殻縁からわずかに突出する。殻皮は褐色で、薄い。殻表は平滑。歯は不明瞭。内湾の潮間帯泥底の甲殻類のアナジャコの腹面に寄生する。

【分布】 東京湾(絶滅)、伊勢湾、瀬戸内海、九州。

【県内の状況】 これまで知られていなかったが、近年、過去には東京湾にも生息しており、絶滅したことが明らかとなった。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、宿主の土着しているアナジャコの調査も併行して行い、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 Kato, M. and G. Itani (1995) / 和田ほか(1996)

(黒住耐二)



マゴコロガイ

X ユキガイ バカガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Meropesta nicobarica (Gmelin, 1791)

【種の特性】 殻長40mm、殻高25mm、殻幅15mm程度の長卵形、やや薄質。殻頂は前方に寄り、殻縁からわずかに突出する。殻表全面に密な放射肋を有する。白色。殻頂下の大きな弾帯受が特徴的。内湾の潮間帯砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~琉球。インド-西太平洋。

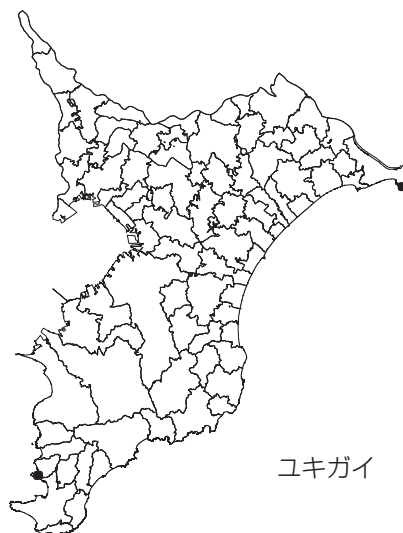
【県内の状況】 房総半島での生息の詳細な記録を見つけたことができなかった。本種は、関東地方等ではやや内湾の潮通しのよいアマモ場に生息していたものと思われる。相模湾でも絶滅とされる。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 奥谷(1986) / 池田(1994)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



ユキガイ

X イチョウシラトリ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Merisca diaphana (Deshayes, 1855)

【種の特性】 殻長35mm、殻高26mm、殻幅10mm程度の亜三角形、やや厚質。殻頂はほぼ中央に位置し、頂点となる。殻表は明らかで密な成長肋を持つ。殻頂から後端に褶を有し、成長肋はこの部分で立つ。陶白色。内湾の潮間帯泥底に生息する。

【分布】 東北地方~九州。

【県内の状況】 各地の報告はあるが、確実な生息記録は見つけれなかった。小櫃川河口等でも確認されておらず、絶滅したと考えられる。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 渡辺・成毛(1988) / 池田(1994) / Yamashita *et al.* (1997)

(黒住耐二)



イチョウシラトリ

X アオサギガイ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-X-X

Psammotreta praerupta (Salisbury, 1934)

【種の特性】 殻長5cm、殻高3.3cm、殻幅1.7cm程度の亜方形、薄質。殻頂は後方により、後部は細まり、前端は丸い。殻表は平滑で、弱い光沢がある。白色。内湾の上部浅海帯泥底に生息する。

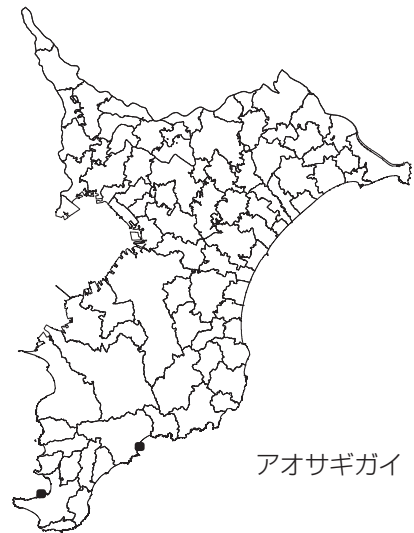
【分布】 房総半島~九州。東南アジア。

【県内の状況】 南房総から記録があるものの、近年の生息個体の確認は出来ていない。時に、沖積層の化石個体が打上げられていることもある。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



アオサギガイ

X フジナミガイ イソシジミ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Soletellina boeddinghausi (Lischke, 1870)

【種の特性】 殻長10cm、殻高6.5cm、殻幅2.5cm程度の楕円形、やや薄質、腹縁は丸みを帯びる。殻頂はやや前方により、頂点となる。殻表はほぼ平滑で、光沢のある殻皮を持つ。殻色は淡紫色で、白色の輪帯や後部に2本の放射彩を持つ以外、単色。殻頂後部に歯丘が明か。やや内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

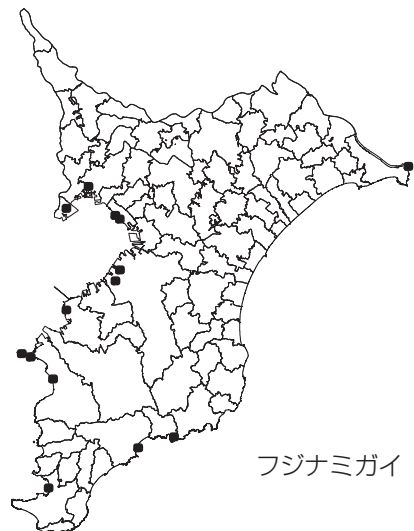
【分布】 房総半島~九州。

【県内の状況】 船橋、*市原市八幡・姉ヶ崎、*富津市富津・*富津岬、銚子などから記録されている。本種は、大形の種で、1950年代の船橋では、「現棲は少ない2~5尋(現在の生息数は少なく、水深3.6~9mに生息する)」と記録されており、絶滅したと考えられる。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955a) / 石山(1967) / 小島(1972) / 小島(1982) / 池田(1994)

(黒住耐二)



フジナミガイ

X シオヤガイ マルスダレガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Anomalocardia squamosa roemeri (Dunker, 1861)

【種の特性】 殻長30mm、殻高22mm、殻幅17mm程度の卵三角形、厚質、堅固、腹縁は丸みを帯び、内側は刻まれる。殻頂は前方に寄り、頂点となる。殻表は放射肋と成長肋を持ち、顆粒状で、光沢はない。灰青色。内湾の砂泥底に生息する。

【分布】 相模湾~九州。インド-西太平洋。

【県内の状況】 *館山湾でのみ記録されている。本種は、紀伊半島以南に分布するとされるが、相模湾からも記録され、絶滅したことが知られている。もしかすると、明治時代以前に絶滅した可能性もあるが、今後の詳細な絶滅年代の決定が必要であろう。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、近年西日本では回復が認められているので、新たな分散をモニタリングすることが望ましい。

【引用文献】 坂井(1989) / 池田(1994)

(黒住耐二)



シオヤガイ

X シラオガイ マルスダレガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Circe (Circe) scripta (Linnaeus, 1758)

【種の特性】殻長40mm、殻高37mm、殻幅15mm程度の円形、厚質、腹縁は丸みを帯びる。殻頂はやや前方に寄り、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を有し、殻頂部には分岐した肋を持つ。黄褐色で、褐色の幅広い放射彩を持つことが多い。やや内湾の潮通しのよいアマモ場に生息する。

【分布】房総半島～九州。インドー西太平洋。

【県内の状況】*富浦町等の記録が見られただけであった。本種の生息場所が消失し、絶滅したと考えられる。相模湾でも絶滅とされる。

【保護対策】絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、生息の可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。その場合、藻場の形成も必要かもしれない。

【引用文献】坂井(1989) / 池田(1994)

(黒住耐二)



シラオガイ

X イオウハマグリ マルスダレガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Pitar (Pitarina) sulfureus Pilsbry, 1904

【種の特性】殻長25mm、殻高23mm、殻幅16mm程度の卵三角形、やや薄質、腹縁は丸みを帯びる。殻頂はやや前方に寄り、突出しない。殻表には成長肋を持つが、やや平滑な粗面。黄白色で、生時には泥を殻表に付着させる。やや内湾の潮通しのよいアマモ場に生息する。

【分布】房総半島～琉球。中国沿岸。

【県内の状況】房総半島の詳細な記録を見つけたことができなかった。本種は、中形の種で、生息環境の消失と共に、絶滅したと考えられる。

【保護対策】絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、生息の可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。その場合、藻場の形成も必要かもしれない。

【引用文献】奥谷(1986)

(黒住耐二)



イオウハマグリ

X オキアサリ マルスダレガイ科

国：掲載なし
千：X-X-X

Gomphina (Macridiscus) aequilatera (Sowerby, 1825)

【種の特性】殻長50mm、殻高37mm、殻幅20mm程度の亜三角形、厚質、腹縁は直線的。殻頂はやや前方に寄り、頂点となる。殻表は平滑で、光沢は弱い。灰青色等、種々の色彩を呈し、放射彩を持つこともある。内湾の潮通しのよい砂泥底に生息していたものと考えられる。九十九里浜等の外洋の砂底に生息するコタマガイと同種とされることもあるが、本種は小形で、腹縁が直線的なことにより識別される。

【分布】房総半島～九州。台湾、中国沿岸。

【県内の状況】東京湾から内房・外房で確認されている。本種は、内湾に生息する中形の種であり、時に食用となる。近年の記録がなく、絶滅したものと思われる。

【保護対策】絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、生息の可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】石山(1967) / 岡本・黒住(1996) / 清水(2001) / 立川ほか(2007)

(黒住耐二)



オキアサリ

X ハマグリ マルスダレガイ科

Meretrix lusoria (Röding, 1798)

国：掲載なし
千：X-X-X

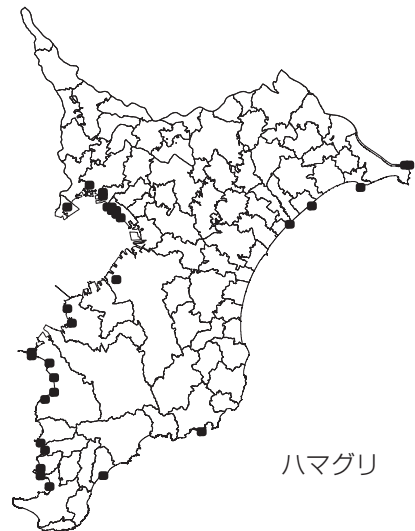
【種の特性】 殻長6cm、殻高5cm、殻幅3cm程度の卵三角形、やや厚質、腹縁は丸みを帯びる。殻頂はやや前方に寄り、頂点となる。殻表は平滑で、光沢は強い。褐色等、種々の色彩を呈し、放射彩を持つこともある。内湾の潮通しのよい砂泥底に生息する。

【分布】 北海道南部～九州。朝鮮半島南岸。

【県内の状況】 県内各地から報告があり、1960年代には和田町でも生貝が得られているが、一度県内からは絶滅したと考えられる。2000年以降、小櫃川河口干潟等で本種の生体が確認されているが、これらは養殖・蓄養群に由来するものであろう。また和田ほか(1996)も東京湾の葛西沖ではハマグリが経年的に観察されるとしているが、これらは放流個体由来と想定される。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、現在定着している放流起源の移入群と東京湾土着群の遺伝的な差異を検討する努力を行うことが望ましい。

【引用文献】 石山(1966) / 石山(1967) / 小島(1972) / 秋山・松田(1974) / 大嶋・風呂田(1980) / 小島(1982) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989) / 田中(1994) / 池田(1994) / 風呂田・鈴木(1999)
(黒住耐二)



ハマグリ

X ウラカガミ マルスダレガイ科

Dosinia (Dosinella) angulosa (Philippi, 1847)

国：掲載なし
千：無-X-X

【種の特性】 殻長5cm、殻高4.5cm、殻幅2cm程度の円形だが、後端と後腹部が僅かに角張り、やや薄質。殻頂は突出せず、ほぼ中央に位置する。後背縁の楕面は明瞭に区分されず、この部分の成長肋はやや板状に発達する。殻表には密な成長肋を持つ。通常、青灰色。内湾の上部浅海帯泥底生息する。

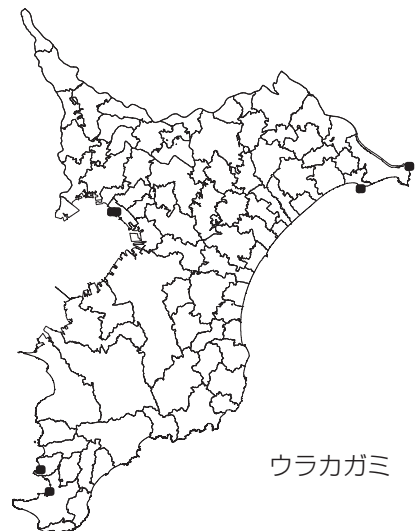
【分布】 本州～九州。

【県内の状況】 東京湾から銚子までいくつかの地域で記録があるものの、現在では古い死殻を確認できる程度である。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、生息の可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 黒住・岡本(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



ウラカガミ

A ミヤコドリ ユキスズメガイ科

Cinnalepeta pulchella (Lischke, 1871)

国：準絶滅危惧 (NT)
千：A-A-A

【種の特性】 殻長10mm、殻幅7mm、殻高4mm程度の笠形で、薄質。側面観は膨らむ。殻頂は後端に位置する。殻表には細かく、鋭利な肋を密に有する。暗褐色。内側の後縁は平らになる。潮間帯上部の還元的な環境の転石下に生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 富津市の記録しか見いだせなかった。ただ、生息場所が特殊であり、このような環境がすべて調査されたとは考えられないので、まだ生息している可能性を残している。相模湾では絶滅とされる。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底転石下に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 奥谷(1986) / 池田(1994) / 清水(2001)

(黒住耐二)



ミヤコドリ

A カヤノミカニモリ オニノツノガイ科

国：掲載なし
千：A-A-A

Clypeomorus humilis (Dunker, 1861)

【種の特性】殻高18mm、殻径10mm程度の長卵形で、厚質、堅固。螺層に3本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。殻色は、緑灰色で、結節上は黒褐色。外唇下端は水管部へ伸びず、水管は短い。体層に縦張肋を持つが、背面に縦張肋を持たない。やや内湾の潮間帯の岩隙底に生息する。

【分布】房総半島～琉球。台湾。

【県内の状況】*富津市湊、*館山市富崎、銚子(オオシマカニモリとされたのは本種と考えられる)等から記録があるが、やや内湾の潮間帯中部の転石下等に生息するので、隔離された小個体群が内房に残っている可能性もある。相模湾でも絶滅とされる。

【保護対策】本種の生息環境であるやや外海の岩隙潮間帯の環境に変化のないようにすることが望ましい。

【引用文献】石山(1967) / 渡辺・成毛(1988) / 池田(1994)
(黒住耐二)



カヤノミカニモリ

A フトヘナタリ ヘナタリ科

国：準絶滅危惧 (NT)
千：A-A-A

Cerithidea (Cerithidea) rhizophorum A. Adams, 1855

【種の特性】殻高40mm、殻径14mm程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長すると殻頂部が欠落する。殻色は白色から黒褐色まで変異し、細い色帯を持つことが多い。殻は厚質。各層には、20本程度の縦肋を持ち、7本程度の螺肋との交点は結節を形成し、殻表は布目状となる。殻口外唇は肥厚し、張り出す。アシ原の泥底に生息する。汽水産。

【分布】仙台湾～九州。朝鮮半島西岸、中国沿岸。

【県内の状況】市川市江戸川放水路と木更津市小櫃川河口から記録があり、岬町三軒屋川河口の標本も収蔵されている。しかし、生貝が複数個体確認されていた小櫃川河口では、幼貝の定着はほとんど見られない。相模湾では絶滅とされる。

【保護対策】本種の生息環境である内湾・河口干潟等のアシ原を保全することが望ましい。

【引用文献】大嶋・風呂田(1980) / 池田(1994) / Fukuda(1994) / 岡本(1995) / 風呂田(2000)
(黒住耐二)



フトヘナタリ

A ヘナタリ ヘナタリ科

国：準絶滅危惧 (NT)
千：A-A-A

Cerithidea (Cerithideopsilla) cingulata (Gmelin, 1791)

【種の特性】殻高25mm、殻径12mm程度の塔形で、厚質、堅固。螺層に3本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。縫合下の肋が他の2本より太い。通常肋間は狭く、黒色となる。殻色は、黄色の地に黒色の色線を巡らす。外唇下端は水管部へ伸びる。体層に縦張肋を持つ。内湾奥部の潮間帯の砂泥底に生息する。

【分布】房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】船橋市、*千葉市幕張、*市原市八幡・姉ヶ崎、木更津市小櫃川河口、*館山市船形・坂田から記録がある。1950年代の船橋市では、ほとんど無数とされるほどであったが、最後まで残っていた小櫃川河口の個体群では、新規加入がないようである。

【保護対策】本種の生息環境である内湾の泥底潮間帯を保全することが望ましい。

【引用文献】稲葉(1955a) / 石山(1967) / 秋山・松田(1974) / 大嶋・風呂田(1980) / 秋山(1988) / 坂井(1989) / 風呂田(2000)
(黒住耐二)



ヘナタリ

A カワアイ ヘナタリ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis (K. Martin, 1899)

千：A-A-A

【種の特性】 殻高35mm、殻径13mm程度の塔形で、厚質、堅固。螺層に3本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。3本の肋は同程度の太さ。通常肋間は広く、彩色されない。殻色は、濃褐色の単色。外唇下端は水管部へ伸びない。体層に縦張肋を持たない。内湾奥部の潮間帯の泥底にのみ生息する。

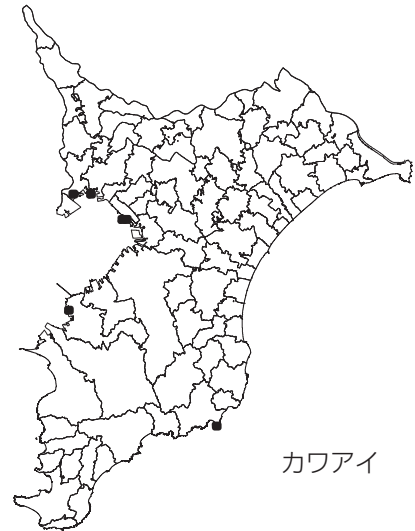
【分布】 房総半島～琉球。東南アジア。

【県内の状況】 船橋市と木更津市小櫃川河口から記録があるのみであった。1950年代の船橋市では、ほとんど無数とされるほどであったが、1994年に小櫃川河口で1個体確認された他は記録がない。しかし、最近市川市新浜で確認され、改定版では土着か移入かの判断が難しいとしたが、その後の研究で移入群であることが明らかになっている。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の泥底潮間帯を保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955a) / 池田(1994) / 岡本(1995) / 飯島ほか(2002) / 小島ほか(2008)

(黒住耐二)



カワアイ

A ウミニナ ウミニナ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Batillaria multiformis (Lischke, 1869)

千：A-A-A

【種の特性】 殻高30mm、殻径13mm程度の塔形で、厚質、堅固。螺層に数本の太い肋を持ち、肋間は狭い。結節は丸い。内唇の滑層瘤は強く、発達する。外唇は湾入しない。体層に縦張肋を持つ。直達発生。内湾奥部の潮間帯の泥底に生息する。近似種のホソウミニナは、内唇の滑層瘤は弱く発達せず、体層に縦張肋を持たず、間接発生を行う。

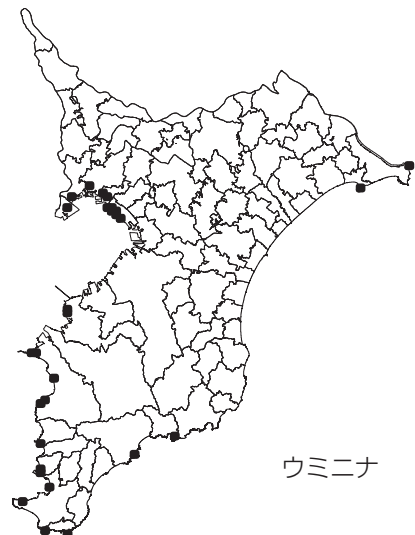
【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 東京湾から内房の各地と銚子から記録がある。1950年代の船橋市では、ほとんど無数とされるほどであったが、現時点において生息が確認されているのは、谷津干潟と富津干潟等である。ただ近年小櫃川河口付近でも本種の生息が認められ、個体群が回復しつつあるのかもしれない。相模湾でも激減とされる。

【保護対策】 本種の生息する干潟環境を、現状のまま保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955a) / 稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 石山(1967) / 小島(1972) / 秋山・松田(1974) / 大嶋・風呂田(1980) / 小島(1982) / 渡辺・成毛(1988) / 秋山(1988) / 坂井(1989) / 池田(1994) / 黒住(1995) / 風呂田(2000)

(黒住耐二)



ウミニナ

A ウネハマツボ ウキツボ科

国：掲載なし

Alaba hungerfordi Sowerby, 1894

千：無-A-A

【種の特性】 殻高5mm、殻径1.5mm程度の先の細くなる塔形で、やや薄質。縫合は弱くくびれ、各層にはやや密な斜めの縦肋を持つ。体層殻底で明瞭であるが、やや密な螺肋も全面に存在する。内湾上部浅海帯のアマモ等の葉上に生息する。

【分布】 北海道南部～九州。中国南部

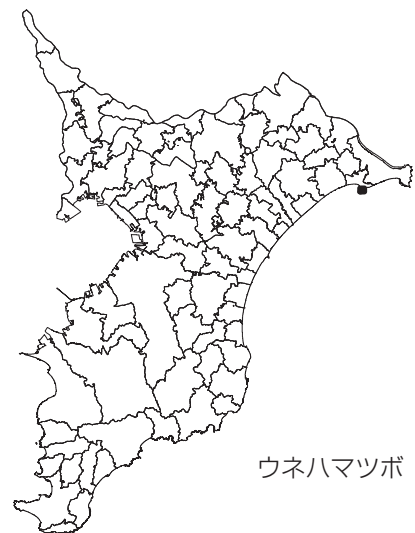
【県内の状況】 飯岡の記録があるだけであり、東京湾でも古い死殻が得られている程度である。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の藻場を保全することが望ましい。

【引用文献】 渡辺・成毛(1988)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



ウネハマツボ

A シマモツボ スナモチツボ科

Finella purpureoapicata (Preston, 1905)

国：掲載なし
千：無-A-A

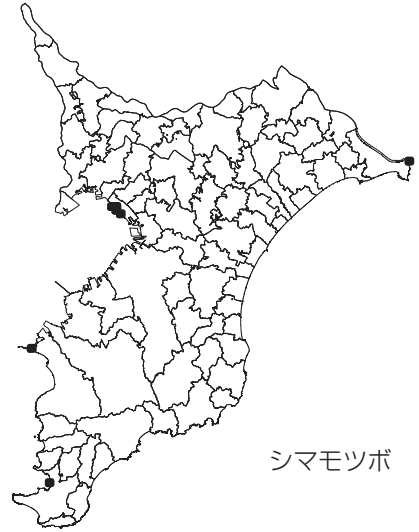
【種の特性】 殻高7mm、殻径1mm程度の細長い塔形で、やや厚質。殻口下部に水管溝はない。各層には3本程度のやや密なとがった結節を持つ螺肋を有する。縫合はくぼむ。色彩は、通常白色の地色の縫合下に褐色の色帯を巡らす。内湾の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。東アジア。

【県内の状況】 館山湾と銚子等の記録があり、東京湾では生息の可能性の高い死殻が多く得られているものの、近年の生貝の確認はほとんどない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)
(黒住耐二)



シマモツボ

A ワカウラツボ ワカウラツボ科

Iravida (Fairbankia) sakaguchii (Kuroda & Habe, 1954)

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
千：無-A-A

【種の特性】 殻高4.5mm、殻径2mm程度の紡錘形、やや厚質、縫合はほとんどくぼまず、体層は大きく、全体の3/5を占め、臍穴は閉じる。殻皮は通常赤褐色で時に還元層の黒色に染まる。殻表全面に密な螺溝を持つ。成貝の外唇は僅かに肥厚する。内湾汽水域の潮間帯上部のアシ原の転石下に生息する。

【分布】 伊勢湾~有明海。

【県内の状況】 千葉市で古い死殻が得られているだけで、同市では絶滅とされる。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の転石を有する砂泥底が維持され、アオサ等の潮間帯堆積による極度の還元条件にならないようにすることが望ましい。

【引用文献】 黒住(2004)
(黒住耐二)



ワカウラツボ

A カタヤマガイ イツマデガイ科

Oncomelania hupensis nosophora (Robson, 1915)

国：絶滅危惧ⅠA類 (CR+EN)
千：A-A-A

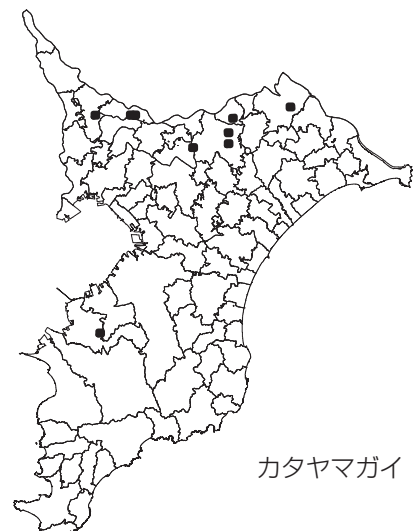
【種の特性】 殻高7.5mm、殻径2.8mm程度の塔形、やや厚質、螺塔は高く、全体の2/3を占め、臍穴は裂け目状に開く。殻皮は光沢の強い栗褐色。殻表は平滑。外唇は肥厚し、殻口は卵形で、歯状突起を持たない。低地部の止水域の泥底に生息する。淡水産。本種は日本住血吸虫の中間宿主となる。

【分布】 本州(関東地方以西)、九州。

【県内の状況】 木更津市、印旛沼、柏市、我孫子市、成田市、栄町、佐原市、下総町から記録がある。日本住血吸虫の中間宿主のため、医学的に日本全国で本種の根絶活動が行われ、千葉県でも木更津市牛袋以外には生存していないと考えられる。

【保護対策】 本種の生息環境であるコンクリート等で固められない自然水路を永続的に確保することが望ましい。詳細な調査により、生息地が極めて小面積であった場合は、日本住血吸虫の感染のないことを確認の上、人為的環境下での繁殖をせざるを得ないかもしれない。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 岡本(1993) / 成毛(1999)
(黒住耐二)



カタヤマガイ

A マメタニシ エゾマメタニシ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Parafossarulus manchouricus japonicus (Pilsbry, 1901)

千：A-A-A

【種の特性】 殻高1.3mm、殻径7mm程度の卵形、やや薄質、体層が全体の2/3を占め、臍穴は裂け目状に開く。殻頂は通常浸食され、消失する。殻皮はやや光沢のある緑黄褐色。体層に10本程度の明瞭な螺肋を持つ。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。白色で石灰質のフタを持つ。低地部の止水域の泥底に生息する。淡水産。

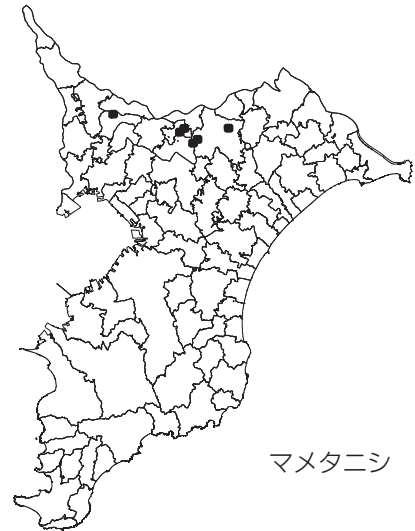
【分布】 本州(東北地方以南)、九州。

【県内の状況】 手賀沼、成田市松崎(印旛沼)、本埜村甚兵衛沼から記録がある。しかし、近年の記録はほとんどなく、わずかに利根川流域で確認されているのみである。

【保護対策】 本種の生息する水体の富栄養化・水質悪化等の生じないことが望まれる。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



マメタニシ

A サザナミツボ サザナミツボ科

国：掲載なし

Elachisina ziczac Fukuda & Ekawa, 1997

千：無-A-A

【種の特性】 殻高1.8mm、殻径0.8mm程度の長めの卵形、薄質、縫合はほとんどくぼまず、体層は大きく、全体の2/3を占め、臍穴は僅かな裂け目状。殻皮は淡黄褐色。殻表全面に、和名の由来となった密なジグザク状(さざ波模様)の螺溝を持つ。成貝の外唇は僅かに肥厚する。内湾汽水域の潮間帯泥底の深く埋没した転石下に生息する。

【分布】 東京湾~九州。

【県内の状況】 千葉市で古い死殻が得られているだけであるが、東京湾内ではごく最近も生息が確認されているので、残存/新たな分散の両方が考えられよう。

【保護対策】 本種の生息環境である汽水域から低塩分濃度の砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 黒住(2004) / 袖原ほか(2010)

(黒住耐二)



サザナミツボ

A イトコシタダミ イソマイマイ科

国：掲載なし

Lissotesta sobrina (A. Adams, 1861)

千：無-A-A

【種の特性】 殻高0.5mm、殻径2mm程度の極めて平たい円盤形で、やや厚質。殻全体に彫刻がなく、半透明白色・平滑で光沢を持つ。螺塔はほぼ突出しない。臍孔は狭いが深く開く。内湾の上部浅海帯の泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。日本海中部。

【県内の状況】 館山湾と東京湾の記録があったが、生貝は未確認かもしれない。

【保護対策】 本種の生息できる内湾の砂泥底を確保することが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



イトコシタダミ

A シラギク イソマイマイ科

国：掲載なし
千：A-A-A

Pseudoliotia pulchella (Dunker, 1860)

【種の特性】 殻高1.5mm、殻径3mm程度の円盤形で、厚質、堅固。体層には3本の螺肋があり、これと放射肋が交わり、殻表は格子目状となる。陶白色であるが、生時は付着物で黒褐色に見えることもある。内湾奥部の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底の礫下等に生息すると考えていたが、外海に面した海洋でも新鮮な死殻が得られており、生息域は広いのかもしれない。

【分布】 東北地方～九州。

【県内の状況】 銚子や東京湾・南房からの記録しか見つけられなかったが、過去に東京湾に生息していたことは確実である。本種は、小形であることから見落とされている可能性もある。

【保護対策】 本種の生息できる砂泥底の転石地等を確保することが望ましい。

【引用文献】 渡辺・成毛(1988) / 立川(印刷中)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



シラギク

A アラウズマキ イソマイマイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Pygmaerota duplicata (Lischke, 1872)

【種の特性】 殻高2mm、殻径4mm程度の円盤形で、厚質、堅固。体層に2本の螺肋が融合した極めて強い肋を巡らし、体層の肩部・底部も明瞭に角張る。その他にも微細な螺肋を有する。臍孔は小さいが深く明瞭。殻は半透明白色だが、生時には付着の酸化鉄で彩色されている。主に内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂泥底の礫下等に生息する。

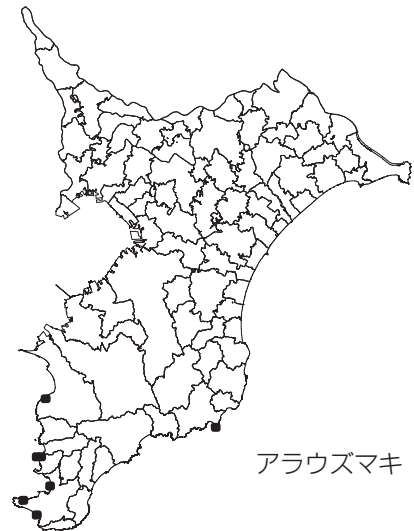
【分布】 房総半島・男鹿半島～九州。

【県内の状況】 館山から勝浦で報告されている。

【保護対策】 本種の生息できるやや内湾の砂泥底の転石地等を確保することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



アラウズマキ

A イソマイマイ イソマイマイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Sigaretornus planus (A. Adams, 1850)

【種の特性】 殻高3.5mm、殻径10mm程度の低い円錐形、やや厚質、堅固。螺塔は極めて低いが明瞭。殻全体に密な螺溝を巡らす以外は平滑。体層下面は弱く角張り、底面は平坦。臍孔は大きく、深い。主に内湾の上部浅海帯砂泥底のウロコムシ類等の巣穴内に生息する。

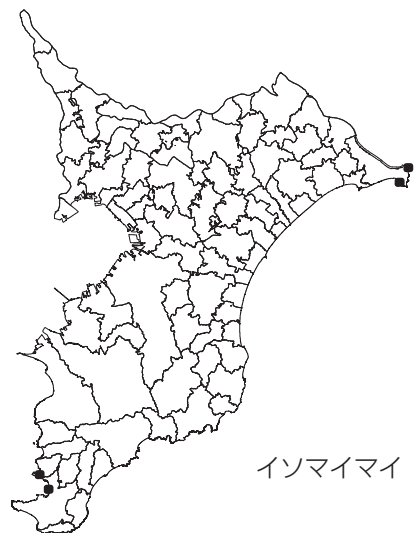
【分布】 房総半島・能登半島～九州。熱帯インド-西太平洋

【県内の状況】 館山から銚子で報告されており、近年には館山で比較的新鮮な死殻が確認されている。

【保護対策】 本種の生息できるやや内湾の砂泥底を確保することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



イソマイマイ

A ミズゴマツボ ミズゴマツボ科

国：準絶滅危惧 (NT)

千：A-A-A

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

【種の特性】殻高5mm、殻径2.9mm程度の卵円形で、中形、やや厚質、やや堅固。体層が殻高の2/3を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、やや細かい点刻からなる螺旋溝を持つ。殻口は円形で、革質のフタが殻口を完全に塞ぐ。汽水域最奥部から沖積低地の淡水域の泥底に生息する。汽水産から淡水産。

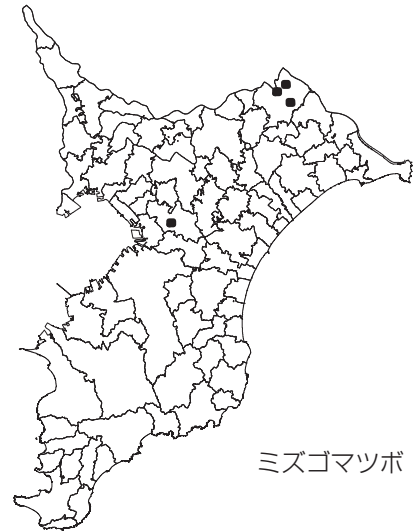
【分布】東北地方～九州。

【県内の状況】千葉県若葉区大草町、佐原市水郷大橋から記録がある。小櫃川河口から本種が報告されているが、ウミゴマツボと考えられるので、記録からは除いてある。記録のある2ヶ所ではほぼ絶滅に近い。ただ、本種は特殊な環境に生息し、近年利根川河口でも確認されている。

【保護対策】本種の生息地は極めて限られているので、現状のままで維持されることが望ましい。

【引用文献】稲葉(1975) / 成毛(1985) / 黒住・岡本(1996) / 黒住(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ミズゴマツボ

A アダムズタマガイ タマガイ科

国：掲載なし

千：無-A-A

Cryptonatica adamsiana (Dunker, 1860)

【種の特性】殻高20mm、殻径18mm程度の球形、厚質、堅固。淡灰褐色の殻色で、生時は薄い濁褐色の殻皮を被る。殻口は濁赤褐色で、小さな臍盤も同じ色に染まる。臍孔は狭いながら、明瞭に開く。フタは石灰質で、外唇側に1本の溝を持つ。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

【分布】房総半島・能登半島～九州

【県内の状況】館山湾から銚子で記録があり、富浦町の古い死殻も収蔵されているものの、近年では新鮮な死殻も確認できていない。

【保護対策】本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】稲葉(1963a,b)

(黒住耐二)



アダムズタマガイ

A ホンセンマイドオシ センマイドオシガイ科

国：掲載なし

千：無-A-A

Aclis loveniana A. Adams, 1861

【種の特性】殻高9mm、殻径1.6mm程度の細長い塔形、薄質、臍穴はない。縫合はやや深くくぼむ。幼時は、竜骨状の肋が明瞭だが、成長に伴い弱くなり、成貝体層では密な螺旋肋を多数有することになる。殻は半透明白色。上部から中部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】東京湾～九州。

【県内の状況】2006年改訂版ではセンマイドオシとしたが、同定をホンセンマイドオシに変更した。東京湾の記録のみしか確認できなかった。

【保護対策】本種の生息環境である内湾泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】波部(1961)

(黒住耐二)

A ヒモイカリナマコツマミガイ ハナゴウナ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Hypermastus lacteus (A. Adams, 1863)

【種の特性】 殻高5mm、殻径2mm程度の細長い塔形、薄質、やや堅固、臍穴はない。縫合はくぼまず、側面観は直線的。殻頂の胎殻は突出する。殻表に構造を全く持たず、半透明白色で、平滑・強い光沢を持つ。内湾の潮間帯泥底のヒモイカリナマコに内部寄生するという。

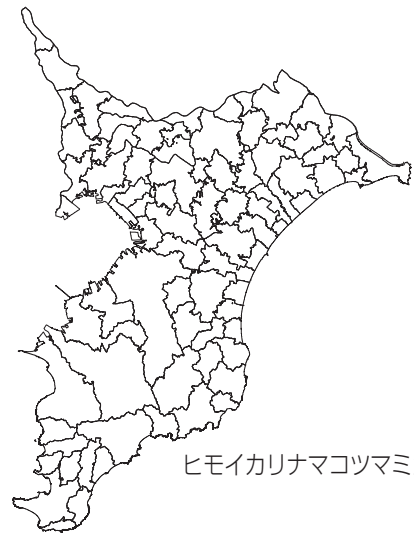
【分布】 東京湾~九州までの内湾。

【県内の状況】 千葉市の人工海浜で生息の可能性を否定できない程度の標本が得られているのみである。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996: ツマミガイの一種として報告)

(黒住耐二)



ヒモイカリナマコツマミガイ

A ヘソアキゴウナ ハナゴウナ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Niso hizenensis Kuroda & Habe, 1950

【種の特性】 殻高12mm、殻径4mm程度の細長い塔形、螺層数は極めて多く、厚質、堅固、臍穴は明瞭に開き、その周辺は強く角張る。殻表は平滑で、強い光沢を有する。体層周辺は弱く角張る。殻口縁は明褐色で、同色の色帯を3本持ち、周縁のものは細いが明瞭。上部浅海帯の砂底に生息する。

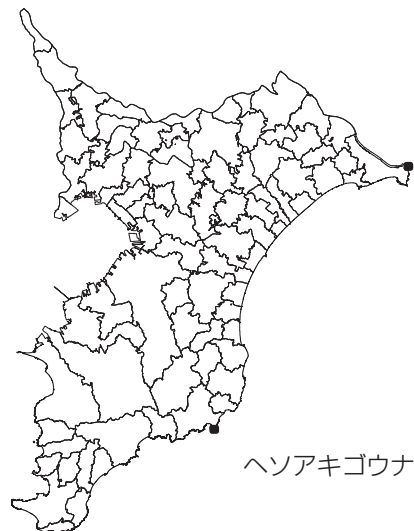
【分布】 房総半島~九州。

【県内の状況】 勝浦と銚子から記録されており、館山でも比較的新鮮な死殻が最近も得られている。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ヘソアキゴウナ

A マルテンスマツムシ フトコロガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Mitrella (Indomitrella) martensi (Lischke, 1871)

【種の特性】 殻高15mm、殻径15mm程度の細長い塔形、厚質、堅固。縫合は僅かにくぼむ。体層は鈍い角となり、短い水管を持つ。殻底に弱い明瞭な螺肋がある以外、平滑。褐色の太く不明瞭な稲妻斑を持つ。内湾奥部の潮間帯下部から上部浅海帯の海草上などに生息する。

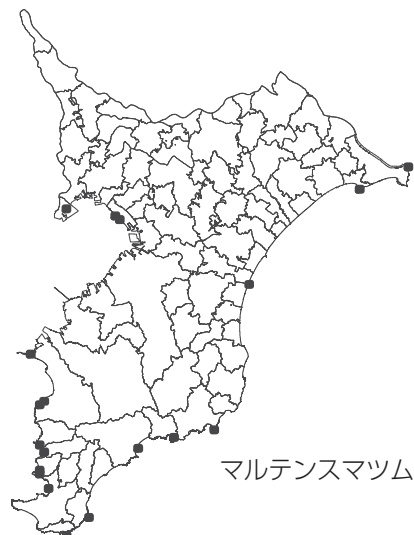
【分布】 北海道南部~九州。

【県内の状況】 浦安から銚子までに記録があるものの、東京湾奥部に多い種であったが、現在は全く生貝が確認されていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底藻場に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



マルテンスマツムシ

A スミスシラゲガイ フトコロガイ科

国：掲載なし
千：無－A－A

Mitrella (Indomitrella) yabei (Nomura, 1935)

【種の特性】 殻高8mm、殻径3mm程度の細長い塔形、厚質、堅固。縫合はほとんどくぼまない。上部螺塔に、やや密で明瞭な縦肋を持つ。体層は鈍い角となり、短かく、直線的な水管を持つ。内湾奥部の上部浅海帯の海藻上などに生息する。

【分布】 三陸地方～九州。

【県内の状況】 東京湾から古い死殻が得られている程度で、現在の生息は確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996)

(黒住耐二)



スミスシラゲガイ

A クダマキマツムシ フトコロガイ科

国：掲載なし
千：無－無－A

Pyreneola pleurotomoides (Pilsbry, 1895)

【種の特性】 殻高10mm、殻径4mm程度の細長い紡錘形、やや薄質、堅固。縫合はほとんどくぼまない。水管部が伸び、その部分に螺肋を持つ以外は平滑で、やや光沢がある。殻色は褐色系の網目斑を色帯状に持つ。外海の部浅海帯の海藻上などに生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 館山湾から外房に記録があるものの、現在では古い死殻もほとんど確認できない。ただ、伊豆半島では、ごく最近も生貝が撮影されているので、今回掲載した。ただ、今後新たな定着群が認められることも考えられる。

【保護対策】 本種の生息環境である岩礁域の海藻帯が永続的に存在できるようにすることが望ましい。

【引用文献】 奥谷(2000) / 清水(2001) / 立川ほか(2007)

(黒住耐二)



クダマキマツムシ

A テングニシ テングニシ科

国：掲載なし
千：無－A－A

Hemifusus tuba (Gmelin, 1781)

【種の特性】 殻高15cm、殻径7mm程度のやや細い菱形、厚質、やや脆い。縫合は段差となり、肩部に比較的密な尖った結節を持つ。生時は、緑黄褐色の厚い殻皮を有する。主に内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

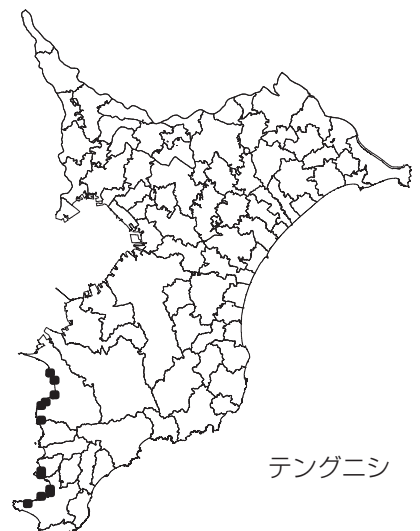
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房から多くの記録があるものの、20年前の時点で、本種卵囊の「ウミホオズキ」が僅かに認められただけとなっている。

【保護対策】 有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 坂井(1989) / 清水(2001)

(黒住耐二)



テングニシ

A イボヒメトクサ タケノコガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Terebra (Granuliterebra) bathyraphe (Smith, 1875)

【種の特性】 殻高15mm、殻径3mm程度の錐形、厚質。縫合は段差となり、肩部に比較的密な尖った結節を持つ。生時は、緑黄褐色の厚い殻皮を有する。主に内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 鹿島灘~九州。東アジア。

【県内の状況】 東京湾をタイプ産地とし、東京湾ではやや古い死殻が比較的多く、銚子でも記録があるものの、近年生貝はほとんど得られていない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 渡辺・成毛(1988)

(黒住耐二)



イボヒメトクサ

A タクミニナ タクミニナ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Mathilda sinensis (Fischer, 1867)

【種の特性】 殻高10mm、殻径3mm程度の錐形、厚質。縫合はくびれ、各層に2本の強いものとその上下に弱い1本の螺肋を持つ。肋間には密で弱いが明瞭な縦肋も存在する。主に内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

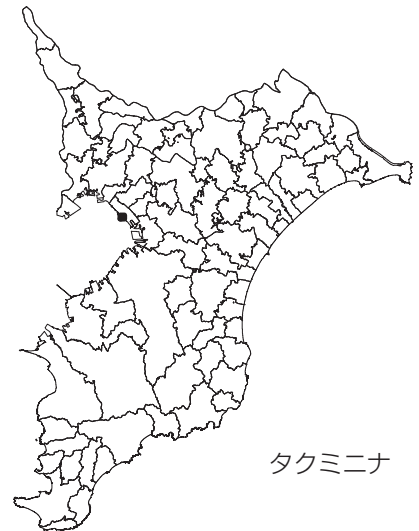
【分布】 房総半島~九州。インド-西太平洋。

【県内の状況】 東京湾のやや古い死殻しか正確な記録を確認できなかった。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996)

(黒住耐二)



タクミニナ

A マキモノガイ イソチドリ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Leucotina diana (A. Adams in H. & A. Adams, 1853)

【種の特性】 殻高35mm、殻径14mm程度の太い塔型で、やや厚質。体層は殻高の約1/2を占め、周辺は丸い。縫合は段差状となる。殻表に明瞭で密な螺肋を持つ。臍孔は閉じ、軸唇は斜め。殻は透明感の悪い白色。内湾上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 三陸地方~九州。

【県内の状況】 東京湾がタイプ産地であるが、近年の記録はなく、勝浦と銚子の記録があるだけである。

【保護対策】 本種の生息できるやや内湾の砂泥底を確保することが望ましい。

【引用文献】 渡辺・成毛(1988) / 大島(1993)

(黒住耐二)



マキモノガイ

A ツマベニカイコガイダマシ スイフガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Eocylichna braunsi (Yokoyama, 1920)

【種の特性】 殻高10mm、殻径3.3mm程度の細長い円筒形で、厚質。側面観は直線状。厚質。螺塔は埋れし、角を持ってくぼみ、開口する。軸唇に強い褶がある。上下端に密で明瞭な螺溝を持つが、中央部は平滑。白色で、殻皮は黄白色で、上下端は濃紅褐色。内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。別名ツマベニクダタマガイ。

【分布】 三陸地方~九州。東アジア。

【県内の状況】 銚子の記録しか確認できなかったが、沖積層の化石の可能性も高いが東京湾からも本種が得られている。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ツマベニカイコガイダマシ

A カミスジカイコガイダマシ スイフガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Cylichnatys angusta (Gould, 1859)

【種の特性】 殻高7mm、殻径3.5mm程度の僅かに上部に細くなる円筒形で、薄質。螺塔は埋れし、くぼみが開口しない。軸唇に歯はない。殻表には細いさざ波状の螺溝を密に巡らす。殻は半透明白色で、弱い光沢がある。内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 北海道南部~九州。東アジア。

【県内の状況】 銚子の記録と東京湾等のやや古い死殻の確認があるものの、近年の生息は確認されていない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 黒住・岡本(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



カミスジカイコガイダマシ

A ツララガイ スイフガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Acteocina decorata (Pilsbry, 1904)

【種の特性】 殻高6mm、殻径2.5mm程度の円筒形で、やや薄質。体層が殻長の大部分を占めるが、螺塔は明瞭で、段差を有し、縫合は溝状にくぼむ。軸唇上部に弱い褶を持つ。殻表には全面に弱い螺溝がある。殻は黄白色。内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 三陸地方~九州。東アジア。

【県内の状況】 銚子の記録のみであった。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ツララガイ

A トウキョウシリブトカイコガイダマシ ヘコミツラガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Retusa (Pyrrunculus) tokyoensis (Habe, 1950)

【種の特性】 殻高3.8mm、殻径1.7mm程度の細い洋梨型で、やや薄質。螺塔は内部に埋し、開口する。体層側面は直線的。殻全面に密な螺溝を有し、特に殻底部では明瞭。半透明濁白色で、光沢は弱い。内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 東京湾～瀬戸内海。

【県内の状況】 東京湾をタイプ産地とするものの、その後の記録がほとんどない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



トウキョウシリブトカイコガイダマシ

A ヒメコメツブ ヘコミツラガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Retusa (Sulcoretusa) minima Yamakawa, 1911

【種の特性】 殻高3mm、殻径1.6mm程度の短円筒形で、やや厚質、堅固。全て体層で、螺塔は巻き込む。体層側面は直線的か、僅かに中央部がくぼむ。体層上縁に稜や突出した肋を持たない。弱い成長肋以外に彫刻はない。半透明濁白色で、光沢は弱い。内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 三陸地方～九州。東アジア。

【県内の状況】 銚子の記録があるだけだが、東京湾でも古い死殻が得られている。近年の生貝標本を確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 黒住(2003)

(黒住耐二)



ヒメコメツブ

A マキシジコミミガイ オカミミガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)
千：A-A-A

Laemodonta monilifera (H & A.Adams, 1854)

【種の特性】 殻高5.5mm、殻径3.4mm程度のやや菱形で、厚質、臍穴はほとんど閉じ、周縁は角張らず、縫帯を持たない。淡黄褐色。殻表に規則的で粗い螺肋を持ち、螺肋上はほとんど顆粒状にならない。外唇は強く張り出す。内唇に強い2歯、軸唇にも強い1歯があり、外唇内側にも強い2歯を持つ。やや外洋の潮間帯上部の転石下に生息する。

【分布】 房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】 鴨川市太海、銚子市から記録がある。しかし、近年の記録はないようで、今後の詳細な調査が必要である。外洋の変革の少ない海岸に残存している可能性もある。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや外洋の岩隙地を保全し、併せて泥の堆積が生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955b) / 稲葉(1975) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



マキシジコミミガイ

A カシノメガイ オカミミガイ科

国：掲載なし
千：A-A-A

Allochroa layardi (H. & A. Adams, 1855)

【種の特性】 殻高5.5mm、殻径2.9mm程度の細長い紡錘形、やや薄質、臍穴はない。濃褐色の地に白帯を巡らし、光沢がある。殻表には、細かく、規則的な螺溝を持つ。外唇は肥厚しない。内唇に薄い2歯、軸唇にも薄い1歯があり、外唇内側下部に極めて弱い1歯を持つ。外洋の岩礁潮間帯上部の間に生息する。

【分布】 房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】 白浜町長尾川から記録がある。しかし、近年の記録はないようで、今後の詳細な調査が必要である。外洋の変革の少ない海岸に残存している可能性もある。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の岩礁域潮間帯に改変の生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



カシノメガイ

A スジケシガイ オカミミガイ科

国：掲載なし
千：A-A-A

Carychium noduliferum Reinhardt, 1877

【種の特性】 殻高2mm、殻径0.9mm程度の塔形、やや厚質、螺塔は高く、全体の2/3を占め、臍穴は閉じる。殻皮は光沢の弱い黄白色。殻表に明瞭な成長肋を持つ。外唇は肥厚し、内側に弱い歯を持つ。内唇と軸唇に1歯がある。比較的自然度の高い森林の林床のリター下に生息する。陸産。

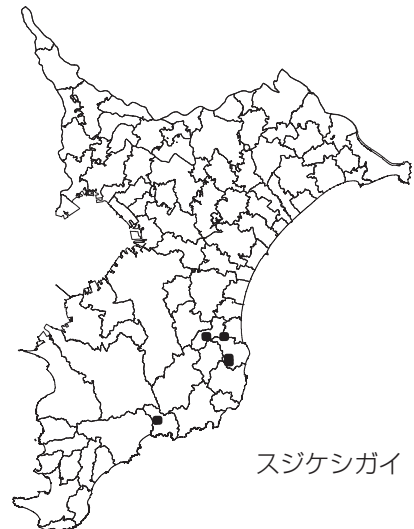
【分布】 本州(東北地方以南)、四国。

【県内の状況】 岬町鴨根と陸沢町岩井等から記録がある。殻が微小なため、まだ県内から発見される可能性もあるが、森林の変革により絶滅する可能性も高い。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 成毛(1999)

(黒住耐二)



スジケシガイ

A ミズコハクガイ ヒラマキガイ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
千：A-A-A

Gyraulus soritai (Habe, 1976)

【種の特性】 殻高1.5mm、殻径4mm程度の円盤形、薄質。淡黄褐色で、弱い光沢を有する。殻表には、極めて弱い成長肋が認められる他は、平滑。日本産の本属の他種とは、本種は小形であることと、初期螺層の形態が上下で異なり、平巻の陸産貝類のような臍穴状を呈することによって、識別される。止水域の水草等の基物に付着する。淡水産。

【分布】 本州(関東地方以西)、四国。

【県内の状況】 千葉市若葉区和泉町から記録がある。今後、下総台地の湧水から確認される可能性も高いが、湧水環境の改変により、即座に絶滅すると考えられる。

【保護対策】 本種の生息する湿地環境を、富栄養化や干上がること等のないようになすことが望ましい。

【引用文献】 黒住・岡本(1996)

(黒住耐二)



ミズコハクガイ

A ナタネキバサナギガイ サナギガイ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Vertigo eogea Pilsbry, 1919

千：A-A-A

【種の特性】 殻高1.8mm、殻径1.1mm程度の卵形、やや薄質。濃褐色で、弱い光沢を有する。殻表には、極めて弱い成長肋が認められる他は平滑。外唇は肥厚する。内唇に2-3歯、軸唇に1歯、外唇にも数歯を持つ。日本における本属の分類学的な検討は遅れており、殻が微小であることのみならず、日本各地において生息確認地域が極めて少ない属である。関東地方では、沖積低地の水辺からナタネキバサナギガイやミスギワキバサナギガイが、低山からキバサナギガイが報告されている程度である。千葉県でも、今後水辺、河川敷、海岸草地から本属の種が発見されると思われる。本属の分布は、最終氷期以降縮小しているものと考えられ、その過程の中に現在が位置づけられるものと考えられる。

【分布】 北海道~九州。

【県内の状況】 これまで千葉県内から本属の記録はなかったが、千葉市中央区青葉町の斜面林から初めて確認された。

【保護対策】 本種の生息する周期的に攪乱の生じるような環境を比較的広い面積で確保し、併せて下草刈り等で極度に乾燥することないように配慮することが望ましい。

【引用文献】

(黒住耐二)



ナタネキバサナギガイ

A スルガギセル キセルガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) surugensis (Pilsbry, 1902)

千：A-A-A

【種の特性】 殻高15mm、殻径3.8mm程度の細長い紡錘形、厚質、淡黄褐色の殻皮を持つが、剥げやすい。螺塔部は細く、体層・次体層が太くなる下膨れ形。殻口は外側へ張り出す。殻口の上板の左に刻みを持ち、下板は長く、上板近くで奥へ潜り込み、下軸板は明瞭で、その周囲の殻口縁は皺状となる。腔壁は主壁と腹面に寄った入型の月状壁からなる。主に低地の自然度の高い森林の倒木下に生息する。陸産。

【分布】 千葉県南部、神奈川県、静岡県東部。

【県内の状況】 鋸山等からのみ記録がある。比較的小形であり、小面積の森林に残存している可能性もある。まだ県内から発見される可能性もあるが、森林の変革により絶滅する可能性も高い。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫地を存在させることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



スルガギセル

A オクガタギセル キセルガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) dorcas (Pilsbry, 1902)

千：A-A-A

【種の特性】 殻高27mm、殻径6mm程度の蛹形、厚質、淡黄褐色の殻皮を持つ。螺塔部は太く、殻頂は丸みを帯びる。殻口は外側へ張り出さず、丸く、殻口縁は体層に付く。殻口の上板に刻みを持たず、下板はやや突出し、上板との半分の長さで、上板側は尖らない。下軸板は不明瞭で、殻口に出現しない。腔壁は主壁と右側面の点状の壁からなる。自然度の高い森林の倒木下に生息する。陸産。

【分布】 千葉県南部、関東西部、中部地方。

【県内の状況】 天津小湊町清澄山、君津市三石山、市原市梅ヶ瀬大福山からのみ記録がある。各地で、少数の個体しか確認されていないようである。森林の変革により絶滅する可能性も高い。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫地を存在させることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 笹生(1983) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



オクガタギセル

A ヒメギセル キセルガイ科

Mundiphaedusa ("Vitriphaedusa") *micropeas* (Möllendorff, 1882)

国：掲載なし
千：A-A-A

【種の特性】殻高11mm、殻径2.2mm程度の全体に細長い紡錘形、やや薄質、淡黄白色の殻皮を持つ。体層部では細かな成長肋が明瞭。殻口は外側へ張り出さず、長く、殻口縁は体層からわずかに遊離する。上板は明らかで、下板は長く、上板近くで奥へ潜り込み、下軸板は明瞭だが、殻口縁に現れない。腔壁は主壁と右側面の1個の点状の壁からなる。自然度の高い森林の倒木下に生息する。陸産。

【分布】北海道南部、東北地方、関東山地、千葉県南部、三浦半島、中部地方。

【県内の状況】市原市梅ヶ瀬大福山からのみ記録がある。比較的小形であり、小面積の森林に残存している可能性もある。森林の変革により絶滅する可能性も高い。

【保護対策】本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、大形の倒木を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】黒住・岡本(1994a) / 成毛(1999)

【写真】P.188

(黒住耐二)



ヒメギセル

A ケガイ イガイ科

Trichomya hirsutus (Lamarck, 1819)

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】殻長40mm、殻高25mm、殻幅23mm程度のやや細長い三角形、やや厚質、腹縁は直線的で、背部は緩やかなカーブを描く。生時の殻表は、黄褐色の樹枝状の殻皮で覆われる。殻皮下には密な分岐する放射肋がある。殻頂下に隔板はない。主にやや外海の上部浅海帯の岩礁裂け目奥部に生息する。

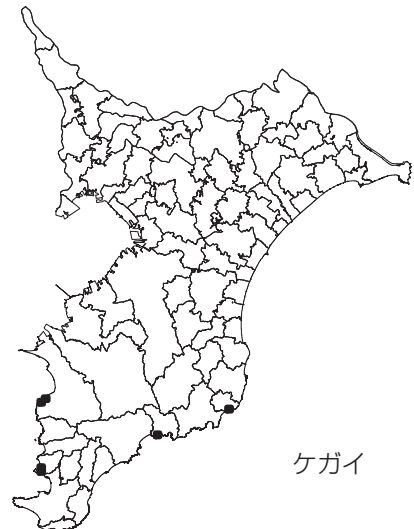
【分布】福島県~九州。

【県内の状況】富津市から御宿町でいくつかの記録がある。近年の生体は確認されていないと思われる。

【保護対策】本種の生息地である岩礁域に砂泥の堆積の生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】清水(2001)

(黒住耐二)



ケガイ

A カラスノマクラ イガイ科

Modiolus hanleyi (Dunker, 1882)

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】殻長5cm、殻高4.3cm、殻幅2.8cm程度の垂方形、やや薄質。殻頂は前方により、前端はやや切断状、腹縁は直線的で、後部は広がり、緩やかに曲がる。殻表は平滑で、黄褐色の薄い殻皮を持ち、毛状にならない。主にやや内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。別名ハンレイヒバリ。

【分布】東京湾~九州。

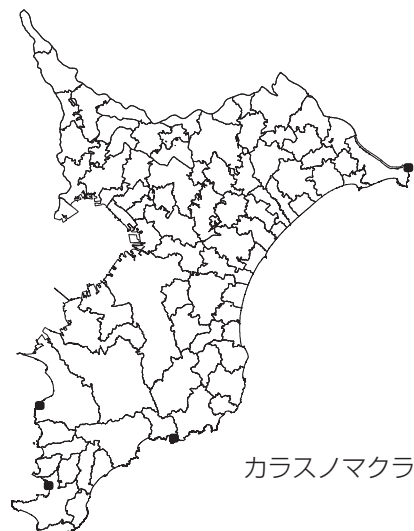
【県内の状況】東京湾と館山市から記録がある。過去の記録では、近似種のツヤガラスと混同されていることもある。

【保護対策】本種の生息環境であるやや潮通しの良い砂泥底が永続できるようにすることが望ましい。

【引用文献】Oyama *et al.* (1959) / 立川ほか(2007)

【写真】P.188

(黒住耐二)



カラスノマクラ

A タイラギ ハボウキガイ科

Atrina (Servatrina) pectinata (Linnaeus, 1767)

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長25cm、殻高16cm、殻幅5cm程度の三角形で、背縁は直線的、腹縁は緩やかにカーブし、後部は幅広く、切断状。殻頂は尖り、そこから細くて弱い、不明瞭な10本程度の成長肋が出る。成長肋上に鱗片はない。殻はやや厚質だが、割れやすい。紫褐色の単色で、殻頂部は淡色となる。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

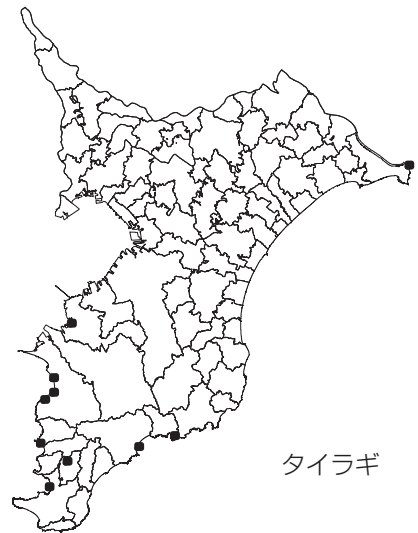
【分布】 福島県~九州。東アジア。

【県内の状況】 東京湾から銚子まで多くの記録があったものの、現在では各地でほとんど生息が確認できていない。ただ、ごく近年、東京湾で新鮮な殻が得られており、絶滅している訳ではないようである。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにし、幼貝の捕獲と漁獲時の底質の攪乱を最小限にすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



タイラギ

A カラスガイ イシガイ科

Cristaria plicata (Leach, 1815)

国：準絶滅危惧 (NT)
千：A-A-A

【種の特性】 殻長25cm、殻高12cm、殻幅8cm程度の垂菱形、やや薄質。殻頂は前方に寄り、殻縁からわずかに突出する。殻皮は成貝では黒褐色で、幼貝では緑褐色。殻表は成長肋を有する他は、平滑。殻頂下に側歯を持つことで、ドブガイ類と簡単に識別できる。主に低地部の湖沼の止水域の泥底に生息する。淡水産。

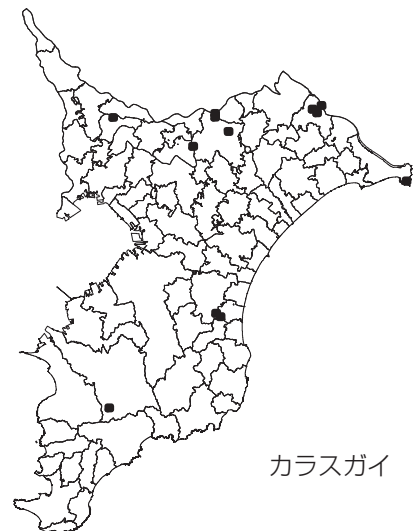
【分布】 北海道~九州。朝鮮半島、中国。

【県内の状況】 横芝町、印旛沼、手賀沼、成田市、小見川町、銚子市、利根川等から記録がある。横芝町坂田では絶滅が確認される一方、君津市豊英ダムでは本種の生息が確認され、手賀沼では北千葉導水由来と想定される外来群が定着している。

【保護対策】 生息地の湖沼の水質を改善し、生息環境の砂泥底の保全が望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 増田(1994) / 谷城・小野沢(1994) / 成毛(1999) / 黒住ほか(2004) / 須藤(2008)

(黒住耐二)



カラスガイ

A イセシラガイ ツキガイ科

Anodontia streamsiana Oyama, 1954

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長6cm、殻高5.5cm、殻幅3.5cm程度の円形、薄質、背縁はやや直線的で、特に後端はやや尖る。殻頂は中央に位置し、突出する。殻表には、成長線が弱い凹凸をつくる。光沢はない。濁白色で、生時には淡褐色の、薄い殻皮を持つ。内湾の上部浅海帯泥底に生息する。

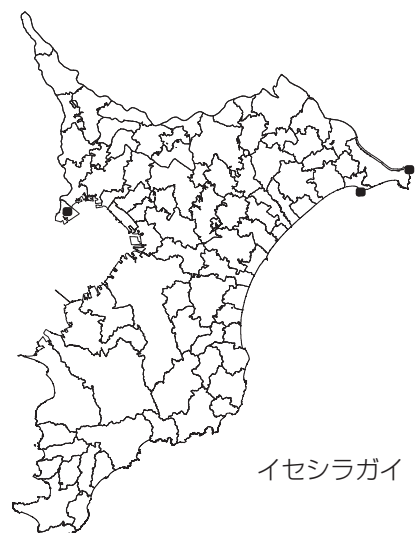
【分布】 陸奥湾~九州。

【県内の状況】 東京湾から銚子まで記録があるが、近年では勝浦のポケットビーチで殻皮の残る新鮮な死殻が確認できてきている程度である。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



イセシラガイ

A シオガマ フタバシラガイ科

Cycladicama cumingii (Hanley, 1844)

国：掲載なし
千：無 - A - A

【種の特性】 殻長40mm、殻高37mm、殻幅25mm程度の円形、やや薄質。殻頂は僅かに前方に寄り、頂点となり、傾き、前背縁にくぼみをつくる。殻表には成長肋の凹凸があるものの、平滑。濁白色で、生時には褐色の殻皮を被る。内湾の上部浅海帯泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。東アジア。

【県内の状況】 館山湾と銚子の記録があるものの、近年の生息は確認されていない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



シオガマ

A マンゲツシオガマ フタバシラガイ科

Cycladecama lunaris (Yokoyama, 1927)

国：掲載なし
千：無 - A - A

【種の特性】 殻長8mm、殻高7mm、殻幅1.7mm程度の円形、やや薄質。腹縁のカーブは強い。殻頂はほぼ中央に位置し、ほとんど突出しない。殻表には成長肋の凹凸があるものの、平滑。濁白色。内湾の上部浅海帯泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房から記録があるだけであったが、ごく最近、富津沖で生貝が確認された。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



マンゲツシオガマ

A マルヘノジガイ ブンブクヤドリガイ科

Nipponomysella oblongara (Yokoyama, 1922)

国：掲載なし
千：無 - A - A

【種の特性】 殻長4mm、殻高2.5mm、殻幅2mm程度の長卵形で、殻頂は後方により、僅かに突出し、後背縁は少しくぼむ。後部はやや切断状。薄質。殻頂は前方により、殻縁からわずかに突出する。殻表は平滑。半透明白色。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息し、クモヒトデ類と共生するとされる。

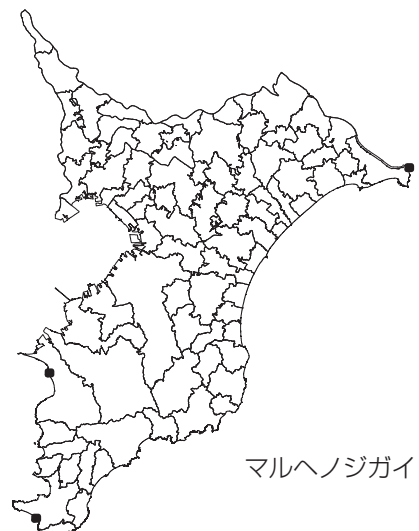
【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 磯根崎と銚子等の記録があるものの、近年の確認例はほとんどない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



マルヘノジガイ

A オウギウロコガイ ウロコガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Galeommella utinomii Habe, 1958

【種の特性】殻長5mm、殻高3.5mm、殻幅2mm程度の楕円形、極めて薄質。殻頂は少し前方により、ほとんど突出しない。殻表には、粗く太い成長肋が肋と同程度の肋間を持って全面に存在する。殻色は半透明白色。内湾の上部浅海带砂泥底に、他生物と共生して生息するらしい。

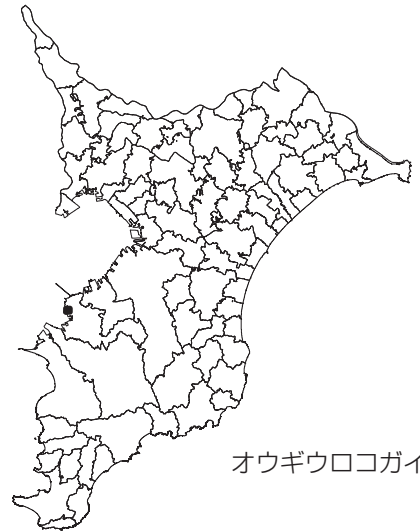
【分布】房総半島~九州。

【県内の状況】東京湾から記録があったが、その後報告がなかった。近年、高度経済成長期以降の生息記録が報告された。

【保護対策】本種の生息できる内湾の砂泥底を確保することが望ましい。

【引用文献】波部(1977) / 多々良・福田(2009)

(黒住耐二)



オウギウロコガイ

A イソカゼ イソカゼ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Basterotia gouldi (A. Adams, 1864)

【種の特性】殻長10mm、殻高8mm、殻幅6mm程度の亜方形、やや薄質だが、堅固。殻頂は中央よりやや前方に位置し、かなり巻き込んだように見える。主歯が強い。殻表には微顆粒を持つが、不明瞭で、全体的に成長脈で弱くうねる感じがする。内湾の上部浅海带砂泥底の転石下に生息する。

【分布】房総半島~九州。

【県内の状況】銚子の記録しか確認できなかったが、東京湾で古い死殻も得られている。

【保護対策】本種の生息できる内湾の砂泥底の転石地を確保することが望ましい。

【引用文献】稲葉(1963)

(黒住耐二)



イソカゼ

A チゴトリガイ ザルガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Fulvia hungerfordi (Sowerby, 1901)

【種の特性】殻長10mm、殻高9mm、殻幅6mm程度の円形で、後部は伸び、後端はやや切断状。極めて薄質。殻頂は少し前方により、突出する。後部の伸展部に弱いが明瞭な10本程度の放射肋を持つ他は、平滑。殻色は淡紅褐色で濃淡がある。内湾の上部浅海带泥底に生息する。

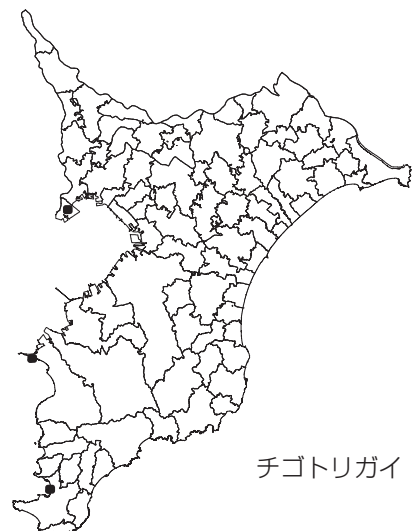
【分布】房総半島~九州。中国南部。

【県内の状況】浦安・富津岬と館山湾から記録されているが、館山湾の記録は再確認が必要かもしれない。泥底に生息する種で、近年の東京湾奥部の各種調査で確認されていない。

【保護対策】本種の生息環境である泥底に負荷のかからない状況にすることが望ましい。

【引用文献】清水(2001)

(黒住耐二)



チゴトリガイ

A アリソガイ バカガイ科

Coelomactra antiquata (Spengler, 1802)

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長12cm、殻高8.5cm、殻幅5.5cm程度の低い二等辺三角形で、殻頂はほぼ中央に位置する。やや薄質で、脆い。腹縁は緩やかなカーブとなる。殻表には弱い成長肋を持つものの、ほぼ平滑に見える。殻頂部は淡紫色で、腹縁に向かい褐色がかかる。生時は、濁褐色の殻皮を被る。外海の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。東アジア。

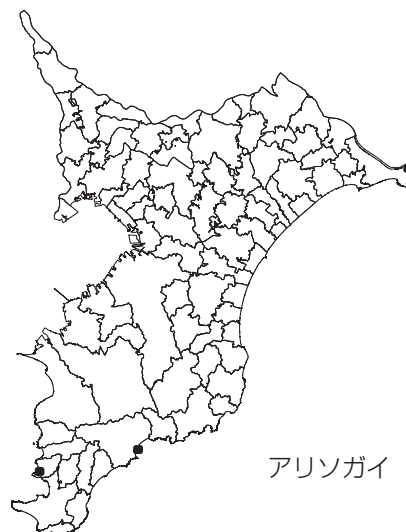
【県内の状況】 鴨川と銚子の記録があるものの、近年は激減していた種である。ごく最近内房でかなり新鮮な殻が得られて得ている。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



アリソガイ

A オオトリガイ バカガイ科

Lutraria maxima Jonas, 1844

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長12cm、殻高6cm、殻幅2.6cm程度の細長い楕円形で、前部に細くなる。殻頂は前方により、突出しない。後背縁は直線的。やや厚質だが、脆い。合弁状態で、前後端が少し開く。殻表は、ほぼ平滑。濁白色で、生時には褐色の殻皮をかぶる。やや外海の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。東アジア。

【県内の状況】 内房から銚子まで、比較的広く分布し、確認されていた種であるが、近年では新鮮な殻もほとんど得られなくなってしまっている。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



オオトリガイ

A カモジガイ バカガイ科

Lutraria arcuata Reeve, 1854

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長6cm、殻高3cm、殻幅1.5cm程度の細長い楕円形で、後部に細くなる。殻頂は前方により、少し突出する。後背縁は少し反りかえる。やや薄質。合弁状態で、前端は狭く、後端は広く開く。殻表は、ほぼ平滑。濁白色で、生時には褐色系の殻皮をかぶる。やや外海の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。東アジア。

【県内の状況】 館山湾と小湊から記録されているだけであるが、富浦町でもやや新鮮な殻が得られている。広く、比較的普通に分布すると推測されるが、現在ではほとんど見ることができなくなってしまっている。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



カモジガイ

A ミルクイ バカガイ科

Tresus keenae Kuroda & Habe, 1950

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長15cm、殻高10cm、殻幅6.5cm程度の楕円形で、後端はやや切断状。殻頂は前方により、僅かに突出する。後背縁は丸みを帯びた直線状。厚質だが、やや脆い。合弁状態で、前端は狭く、後端は広く開く。殻表は、成長肋による凹凸があるものの、ほぼ平滑。濁白色で、生時には濃褐色の殻皮をかぶる。内湾の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 北海道南部~九州。東中国海北部。

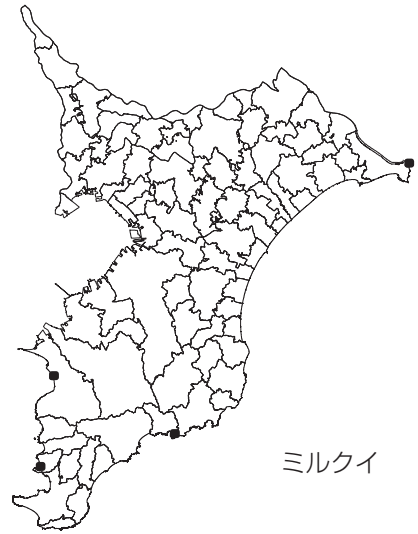
【県内の状況】 東京湾を中心に銚子まで記録されており、東京湾は本種の重要な生息地であった。しかし、近年では富津市で僅かに漁獲されるだけで、東京湾内を含め、他地域で確認することはほとんどなくなっている。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにし、幼貝の捕獲と漁獲時の底質の攪乱を最小限にすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

【写真】 P.188

(黒住耐二)



ミルクイ

A ヤチヨノハナガイ バカガイ科

Raeta pellicula (Reeve, 1854)

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】 殻長40mm、殻高35mm、殻幅18mm程度の卵形で、後部は伸びてやや尖る。合弁状態で、後端が少し開く。極めて薄質。殻表には、やや太く、明瞭な成長肋が密に存在する。半透明白色。内湾の上部浅海带細砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。東アジア。

【県内の状況】 浦安から記録があるだけで、近年の三番瀬関連の詳細な調査でも発見されていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



ヤチヨノハナガイ

A チドリマスオ イソハマグリ科

Donacilla picta Dunker, 1877

国：掲載なし
千：A-A-A

【種の特性】 殻長11mm、殻高7mm、殻幅4mm程度の亜三角形、やや厚質。殻頂は後方に寄り、頂点となる。殻表は平滑で、光沢を有する。黄緑色で、種々の放射彩を持つ。殻頂下に小さな弾帯受と歯がある。やや内湾の潮間帯の淘汰の良い砂底に生息する。

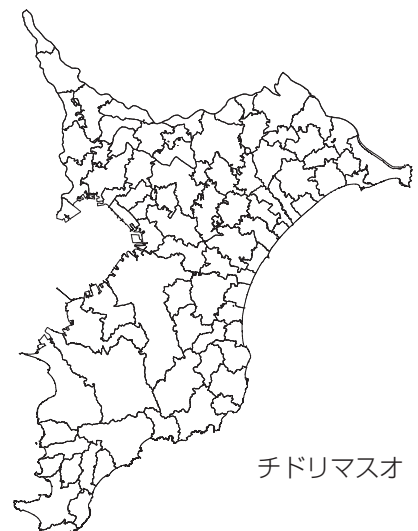
【分布】 房総半島~琉球。

【県内の状況】 房総半島からの詳細な記録を見つけだすことができなかった。本種は、小形の種で、やや内湾の潮通しが良く、淘汰の良い粗粒砂底に生息していたものと思われる。内房から外房のポケットビーチに残存している可能性がある。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 奥谷(1986)

(黒住耐二)



チドリマスオ

A クチバガイ イソハマグリ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Coecella chinensis Deshayes, 1855

千：A-A-A

【種の特性】 殻長20mm、殻高14mm、殻幅8mm程度の楕円形、やや厚質。殻頂は中央にあって、殻縁からわずかに突出する。殻表は成長肋により粗面を呈する。黄褐色の殻皮を持つが、殻頂部では剥離していることが多い。殻色は白色。殻頂下に小さな弾帯受と歯がある。内湾の潮間帯の砂礫底に生息する。

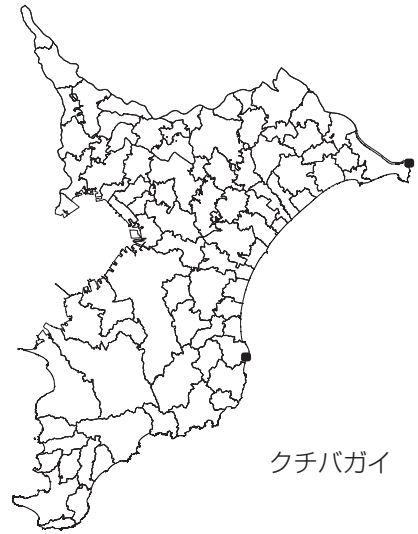
【分布】 房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】 銚子からの記録しか見つけられなかったが、近年、夷隅川河口で生貝が得られた。この群は、新たに定着したのかもしれない。

【保護対策】 本種の生息環境である河口干潟の環境が保全されることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 渡辺・成毛(1988)

(黒住耐二)



クチバガイ

A オオマテ マテガイ科

国：掲載なし

Solen grandis Dunker, 1861

千：無-A-A

【種の特性】 殻長15cm、殻高3cm、殻幅2cm程度の極めて細長い方形で、殻頂は前端に位置する。背側は完全な直線。後端は丸みを帯びる。前端は斜めの切断状。殻色は年輪状の不明瞭な濃部を持つ淡褐色。殻皮は厚く濃褐色。外海の上部浅海带砂底に生息する。

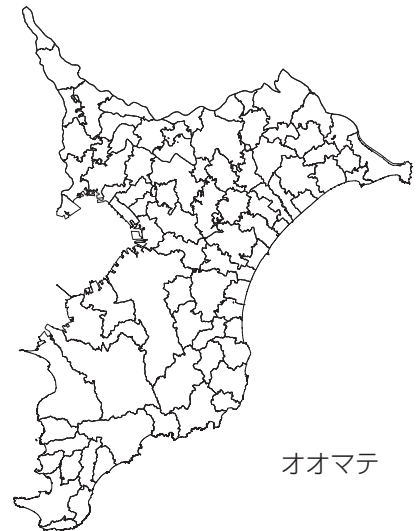
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房から銚子まで広く分布が確認されていたものの、一時期ほとんど確認できなかった。ごく最近九十九里浜で確認されるようになってきた。

【保護対策】 本種の生息環境である外海の砂底を保全し、消波ブロック等の設置時には配慮されることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 立川ほか(2007)

(黒住耐二)



オオマテ

A バラフマテ マテガイ科

国：掲載なし

Solen roseomaculatus Pilsbry, 1901

千：無-A-A

【種の特性】 殻長50mm、殻高10mm、殻幅6.5mm程度で、背側に湾曲する。殻頂は前端に位置し、後端は少し丸みを帯びた切断状で、前端は殻頂と直角になる。殻色は、濃紅色の不規則な点斑を密に散らし、特に後部で著しい。内湾の上部浅海带アマモ場等に生息する。

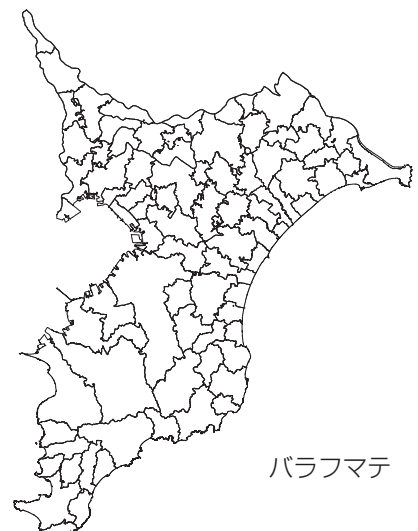
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 過去に館山湾と小湊から記録されているのみで、現在ではほとんど見ることのない種である。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



バラフマテ

A ユキノアシタ ユキノアシタ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Cultellus albida (Adams & Reeve, 1850)

【種の特性】 殻長7cm、殻高2cm、殻幅0.9cm程度で、細長いクサビ型、やや薄質。後端に向かって腹縁がカーブする。背縁は直線的。殻頂は前方により、突出しない。内肋を持たない。前後端は狭く開く。殻表は平滑。殻色は濁白色で、黄褐色で光沢のある殻皮を持つ。やや内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。東アジア。

【県内の状況】 房総半島以南と記録されているものの、千葉県産の標本は「安房」とラベルされた古いコレクション中のもの以外、確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 波部(1977) / 清水(2001)

(黒住耐二)



ユキノアシタ

A ヒラザクラ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Tellinides ovalis (Sowerby, 1825)

【種の特性】 殻長40mm、殻高25mm、殻幅6.5mm程度の楕円形、薄質。殻頂は僅かに後方により、突出しない。殻表は、弱い成長肋が認められるものの平滑で、光沢がある。年輪状に紅色に彩色され、不規則な白色放射彩がある。やや外海の上部浅海帯細砂底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。インド-西太平洋。

【県内の状況】 県内から明確な地点のわかる記録はないものの、旧安房水産高校に所蔵されていた「安房」の生貝標本(戦後のものと推測される)が確認された。ただ、近年の生息は確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ヒラザクラ

A クモリザクラ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Angulus vestalioides (Yokoyama, 1920)

【種の特性】 殻長50mm、殻高30mm、殻幅12mm程度の垂方形、後部は切断状、やや薄質。殻頂は後方により、ほとんど突出しない。殻表は、弱い成長肋が認められるものの平滑で、光沢がある。僅かに褐色がかった白色。内湾の上部浅海帯細砂底に生息する。

【分布】 北海道南部~九州。

【県内の状況】 外房と銚子から記録されているものの、東京湾からも得られている。ただ、近年の生貝確認はほとんど行われていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 黒住(2003)

(黒住耐二)



クモリザクラ

A アミメザクラ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Clathrotellina pretium (Salisbury, 1834)

【種の特性】 殻長20mm、殻高15mm、殻幅8mm程度の卵形、やや薄質。殻頂はほぼ中央にあり、頂点となる。後部は三角状で、やや尖る。殻表には、細いが尖った放射肋がやや粗にあり、肋間は極めて広い。細い成長肋も広い肋間と共に存在し、全体として網目状になる。光沢はない。黄白色。やや内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島～沖縄。西太平洋。

【県内の状況】 館山湾から記録があり、近年でもやや新鮮な殻が得られているものの、生貝は未見である。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底、特にやや外海の藻場に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



アミメザクラ

A ユウシオガイ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：A-A-A

Moerella rutila (Dunker, 1860)

【種の特性】 殻長23mm、殻高16mm、殻幅9mm程度の長卵形、薄質。殻頂はやや前方により、頂点となる。後部がやや伸びる。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢を有する。白色、黄色、桃色等の単色。内湾の潮間帯砂泥底に生息する。

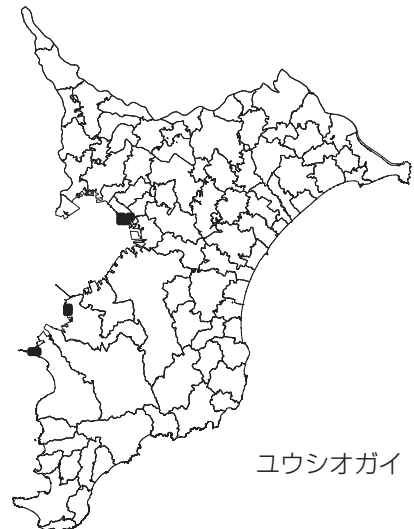
【分布】 東北地方～九州。黄海、中国沿岸。

【県内の状況】 *千葉市幕張*市原市八幡・姉ヶ崎、*木更津市桜井・小櫃川河口、*富津市富津・富津岬、銚子(ニッコウガイとされたものは本種と思われる)から記録がある。幕張で過去には高密度であったことや小櫃川河口では1975年には見られたが、1987年には見られていないことが報告されている。近年、神奈川県で本種の生貝が得られており、新たに分散してくる可能性や、アサリ放流に伴って定着することも考えられる。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 石山(1967) / 小島(1972) / 秋山・松田(1974) / 小島(1982) / 秋山(1988) / 池田(1994)

(黒住耐二)



ユウシオガイ

A アワジチガイ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Macoma (Psammacoma) awajiensis (Sowerby, 1914)

【種の特性】 殻長40mm、殻高25mm、殻幅12mm程度の歪んだ菱形、やや薄質で、脆い。後部には明瞭な角を有し、前縁は丸みを帯びる。殻頂は後方により、頂点となる。殻表は、平滑。僅かに褐色がかかった白色。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

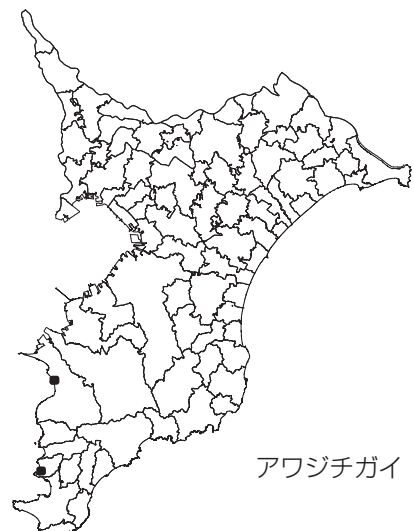
【分布】 房総半島～九州。中国。

【県内の状況】 富津沖等から記録があるものの、現在ほとんど古い死殻さえ確認できていない。

【保護対策】 絶滅確認を行なうと共に、新たな分散をモニタリングし、可能性が低い場合、他地域からの導入も検討することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



アワジチガイ

A ヨセギザクラ アサジガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

larca japonica A. Adams, 1864

【種の特性】殻長10mm、殻高9mm、殻幅5mm程度の長卵形、薄質。殻頂はやや前方により、丸く見える。後部は伸び、後端は丸い。殻表には中央から後方にかけて密な斜めの彫刻を持つ。半透明白色で、やや弱い光沢を有する。外海の上部浅海帯、淘汰の良い砂底に生息する。

【分布】房総半島~九州。台湾。

【県内の状況】*布良から記録されているのみである。

【保護対策】本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】稲葉(1976)

(黒住耐二)



ヨセギザクラ

A タガンデモドキ フナガタガイ科

国：掲載なし
千：A-A-A

Trapezium (Neotrapezium) sublaevigatum (Lamarck, 1819)

【種の特性】殻長30mm、殻高22mm、殻幅14mm程度の長方形、やや薄質。殻頂は前方により、殻縁からわずかに突出する。殻表は成長肋により多少粗面を呈し、後背縁は時に棘状となる。楕面を形成しない。灰白色の地に紫の放射彩を持つ。やや外洋の潮間帯の礫底に生息する。

【分布】房総半島~琉球。西太平洋。

【県内の状況】*市原市姉ヶ崎からの記録しか見つけれなかった。河口域の先端部の調査が詳細に行われれば、絶滅とすることができよう。

【保護対策】本種の生息環境である内湾の転石地帯に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】石山(1967)

(黒住耐二)



タガンデモドキ

A ウネナシトマヤガイ フナガタガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)
千：B-A-A

Trapezium (Neotrapezium) liratum (Reeve, 1843)

【種の特性】殻長30mm、殻高15mm、殻幅10mm程度の長方形、やや薄質。殻頂は前方により、殻縁からわずかに突出する。殻表は成長肋により多少粗面を呈し、後背縁は時に棘状となる。明瞭な楕面を形成する。灰白色の地に紫の放射彩を持つ。内湾の潮間帯の礫底に生息する。

【分布】東北地方~九州。台湾。

【県内の状況】*市原市八幡、*富津市富津岬、銚子から記録があり、過去においては、内湾のマガキに付着しているのが多数確認された種である。2000年版では江戸川放水路の個体群を土着群と考えていたが、その後本種は明らかに急激に東京湾奥部で分布を広げ、移入群であると考え、2006年改訂版ではランクを上げた。

【保護対策】本種の生息環境である内湾の転石地帯に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 石山(1967) / 小島(1972) / 黒住(2006)

(黒住耐二)



ウネナシトマヤガイ

A マシジミ シジミ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Corbicula leana Prime, 1864

千：無-C-A

【種の特性】 殻長25mm、殻高23mm、殻幅14mm程度のやや低い垂三角形、やや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を有し、殻皮は帯緑褐色で、不明瞭な褐色斑を散らすことが多い。光沢は弱い。内面腹縁部は紫色で、他は年輪状に淡紫色に染まるものの、白色。淡水域の砂礫底に生息する。

【分布】 本州～九州。

【県内の状況】 県内各地から記録されていたものの、近年の外来種、タイワンシジミ(広義)の急激な分布拡大で大部分の地域で本種が見られなくなっている。ただ、殻形態からマシジミと同定されるものは現時点でも確認できてはいる。

【保護対策】 移入種のタイワンシジミとの競争を避けるようにし、困難な場合は人為的な隔離を行なうことが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 千葉県外来種対策(動物)検討委員会(2007)

(黒住耐二)



マシジミ

A ミジンシラオ マルスダレガイ科

国：掲載なし

Microcirce dilecta (Gould, 1861)

千：無-A-A

【種の特性】 殻長3.5mm、殻高3.5mm、殻幅2mm程度の長卵形、後端は少し尖る。やや薄質。殻頂は前方に位置し、突出し、背縁にくぼみをつくる。殻表には、前後背縁に弱い成長肋を有する他は平滑。小月面は大きい。腹縁は刻まれない。内湾の上部浅海带泥底に生息する。

【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 内房で記録されているものの、最近の記録は皆無である。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ミジンシラオ

A フスマガイ マルスダレガイ科

国：掲載なし

Clementia vatheleti Mabilie, 1901

千：無-A-A

【種の特性】 殻長7cm、殻高6cm、殻幅3.5cm程度の卵形、極めて薄質。殻頂は前方により突出する。後背縁は長く直線的。腹縁は緩やかにカーブする。殻表には、太く腹縁側が高くなった輪肋が粗であるが、規則的に存在する。灰白色。内湾の上部浅海带泥底に生息する。

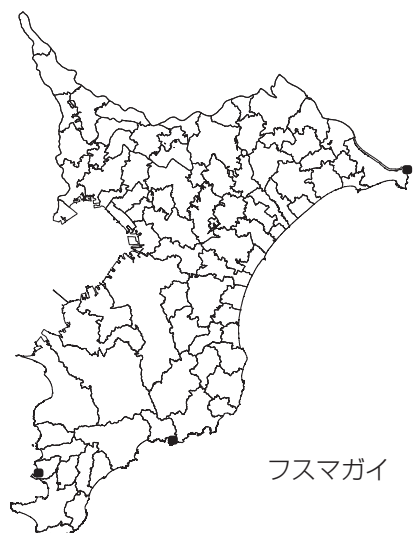
【分布】 陸奥湾～九州。

【県内の状況】 外房から銚子で記録されているが、東京湾の古い死殻も収蔵されている。現在では、新鮮な死殻も確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



フスマガイ

A クシケガイ イワホリガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Rupellaria fabagella (Lamarck, 1818)

【種の特性】 殻長15mm、殻高10mm、殻幅10mm程度の長卵形、厚質、腹縁は僅かに丸みを帯びる。殻頂はやや前方による。殻表には、粗く、強い分岐しない放射肋が、狭い肋間を持って存在し、光沢はない。殻色は白色。やや内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の泥岩中に生息するとされる。

【分布】 房総半島～九州。インド-西太平洋。

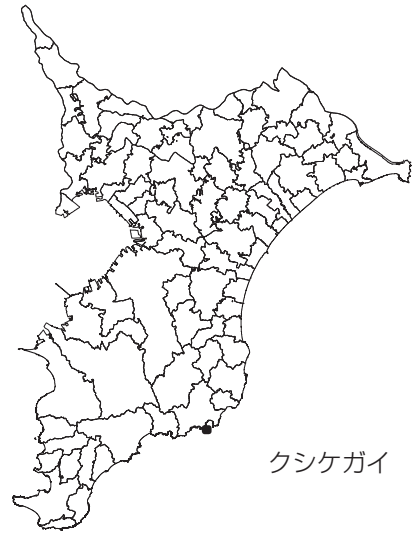
【県内の状況】 詳細な記録を見つけだすことができなかったが、勝浦市で古い死殻が得られている。

【保護対策】 本種の生息できる環境を保全することが望ましい。

【引用文献】 波部(1977)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



クシケガイ

A チヂミガイ イワホリガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Lajonkairia divaricata (Lischke, 1872)

【種の特性】 殻長25mm、殻高23mm、殻幅14mm程度の円形、薄質。殻頂はほぼ中央に位置し、少し突出する。殻表には極めて細かく分岐し、時にジグザクになる放射肋が全面に存在し、成長肋は目立たず、光沢がある。殻色は半透明白色で、内面も彩色されない。生時には殻表に砂泥を付けるようである。やや内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息するとされる。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 東京湾がタイプ産地であるが、近年の記録を見つけることができなかった。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



チヂミガイ

A クシケマスオ オオノガイ科

国：掲載なし
千：無-A-A

Venatomya truncata (Gould, 1861)

【種の特性】 殻長20mm、殻高16mm、殻幅8mm程度の卵形、薄質。殻頂は少し前方により、ほとんど突出しない。後腹縁は少し尖る。殻表全面には、細くて肋間の開く細い放射肋を持つ。弾帯受は小さい。殻色は白色。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。東中国海。

【県内の状況】 浦安から記録があり、千葉市からやや古い死殻が確認されているものの、生貝の記録は近年見当たらない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の砂泥底環境に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



クシケマスオ

A ハマカゼ オオノガイ科

Paramya reculzii (A. Adams, 1864)

国：掲載なし
千：無-A-A

【種の特性】殻長10mm、殻高6.5mm、殻幅3.5mm程度の亜方形、後部が幅広くなる。やや薄質。殻頂は前方により、少し突出する。殻表は、成長肋にそって凹凸のある他は平滑。弾帯受は極めて小さい。殻色は濁白色。内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

【分布】東京湾~九州。

【県内の状況】東京湾の記録があるものの、近年の生息は確認されていない。

【保護対策】本種の生息環境である内湾の砂泥底環境に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】波部(1977)

(黒住耐二)



ハマカゼ

A コオキナガイ ソトオリガイ科

Laternula (Laternula) boschasina (Reeve, 1864)

国：掲載なし
千：A-A-A

【種の特性】殻長24mm、殻高15mm、殻幅13mm程度の亜方形、極めて薄質、腹縁は直線的。後部は細くなり、後背縁は直線的、後端は尖る。殻頂はやや前方に寄り、突出し、裂け目がある。殻表は微細な顆粒に被われるが、平滑に見える。殻皮は不明瞭。内湾の潮間帯泥底に生息する。

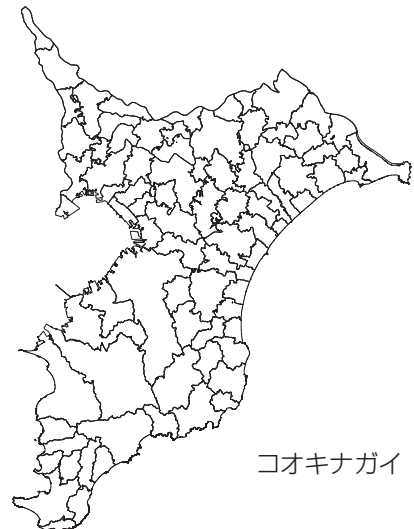
【分布】房総半島~琉球。西太平洋。

【県内の状況】詳細な記録を見つけたことができなかった。本種は、小形の種で、近似種のソトオリガイの幼貝と混同されている可能性が否定できないので、この点が詳細に検討されたならば、絶滅したと考えられる。相模湾では絶滅とされる。

【保護対策】本種の生息環境である内湾泥底に負荷の生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】波部(1977) / 池田(1994)

(黒住耐二)



コオキナガイ

A ツボミ ユキノカサ科

Patelloida conulus Dunker, 1861

国：準絶滅危惧 (NT)
千：B-B-A

【種の特性】殻長6.7mm、殻幅5.4mm、殻高5.1mm程度の笠形で、やや薄質。側面観はやや膨らむ。殻頂は後方へ寄る。殻表はほぼ平滑で、光沢がなく、種々の灰褐色の放射彩を有する。内面周縁は暗褐色のまだらで、上部は青白色、中央は黄褐色。干潟の潮間帯にすむウミナナ等に付着する。

【分布】北海道南部~九州。中国沿岸。

【県内の状況】*木更津市桜井、*富津岬、小櫃川河口、銚子から記録があり、富津の生貝標本も収蔵されている。ウミナナの減少のためか、現在では極めて稀である。ごく最近東京湾で生貝が確認されたものの、移入群の可能性も想定される。

【保護対策】本種の生息地を現状のまま保全すると共に、生息するウミナナ類の減少を食い止め、他地域からの移入をモニタリングすることが望まれる。

【引用文献】稲葉(1963) / 石山(1967) / 小嶋(1972) / 大嶋・風呂田(1980) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989)

(黒住耐二)



ツボミ

B イシマキ アマオブネ科

国：掲載なし
千：A-B-B

Clithon (Clithon) retropictus (Martens, 1897)

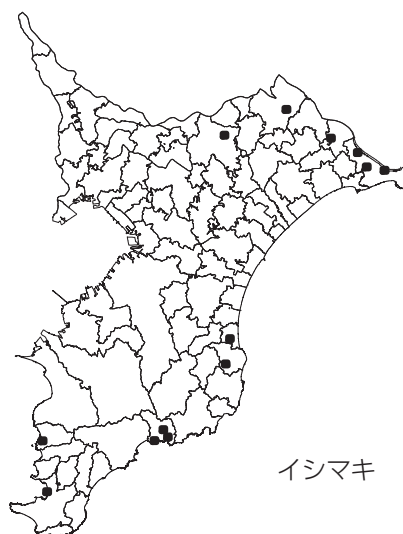
【種の特性】 殻高18mm、殻径14mm程度の半球形で、厚質、堅固。螺塔部はわずかに突出し、小さい。殻は灰褐色で白色の三角斑を持ち、濁褐色の殻皮を有する。殻表は平滑。内唇滑層が張り出さない。殻口は半円形。フタは石灰質で、殻口を完全に塞ぐ。河口部の汽水域礫底に定着し、淡水域を遡上する。汽水産から淡水産。

【分布】 房総半島～琉球。中国南部。

【県内の状況】 県内各地から記録がある。保田川、大風沢川、三軒屋川、一宮川、利根川のいずれの場所でも、減少が著しく、近年確認された河川でも数個体しか見られていない。銚子市では1988年で、最近少なくなったとされ、保田川でも1970年代にもう見られなくなっている。2000年からいくつかの新分布地が確認されたので、改定版でランクを落とした。

【保護対策】 本種の定着域である河口域が閉塞しないように恒常的な流量を確保し、また礫等の硬質底を存在させ、水質の悪化がないように配慮することが望ましい。

【引用文献】 秋山・松田(1974) / 稲葉(1975) / 笹生(1983) / 成毛(1985) / 渡辺・成毛(1988) / 池田(1994) / 西脇(1996) / 成毛(1999)
(黒住耐二)



B ゴマオカタニシ ゴマオカタニシ科

国：準絶滅危惧 (NT)
千：B-B-B

Georissa japonica Pilsbry, 1900

【種の特性】 殻高2mm、殻径1.6mm程度の卵円錐形、やや薄質、堅固。体層が全体の2/3を占め、臍穴は閉じる。縫合は深い。殻色は光沢のない淡紅褐色。殻表に密で明瞭な螺溝を持つ。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。フタを持つ。森林の林床のリター下や礫下に生息する。陸産。

【分布】 関東地方～琉球。

【県内の状況】 君津市三石山から記録がある。微小なため、今後各地で発見される可能性もある。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫地を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



B サドヤマトガイ ヤマトニシ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Japonia sadoensis Pilsbry & Hirase, 1903

【種の特性】 殻高5mm、殻径7mm程度の円錐形、薄質。体層が全体の3/5を占め、臍穴は広く開く。縫合は深い。体層の殻表に2列の針状毛を密に巡らし、成長脈も密で突出する。暗褐色。殻口縁は肥厚せず、円形。フタを持つ。森林の林床のリター下や礫間に生息する。陸産。

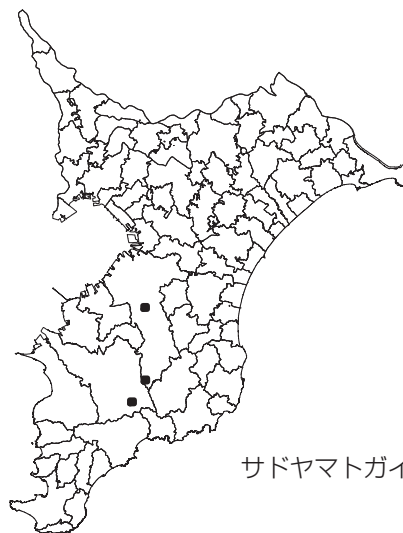
【分布】 関東地方～九州。

【県内の状況】 君津市三石山、市原市梅ヶ瀬から記録がある。比較的小形であり、自然の良く残った森林から発見される可能性がある。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、小礫地環境が持続されることが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / 黒住・岡本(1994a) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



B イブキゴマガイ ゴマガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Diplommatina (Sinica) collarifera collarifera Schmacker & Böttger, 1890

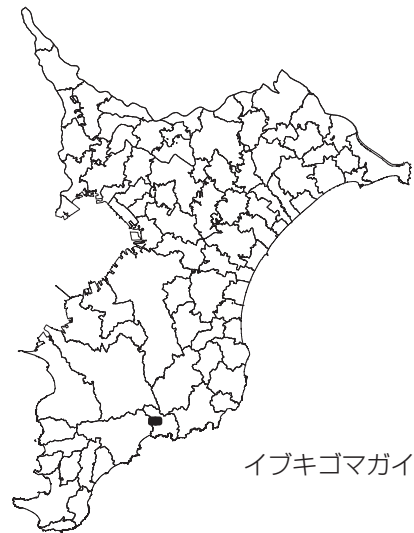
【種の特性】殻高4mm、殻径2mm程度の蛹形、厚質、堅固。体層が全体の1/3を占め、臍穴は狭く開く。体層腹面内部に腔襖を持つ。縫合はやや深い。殻色は光沢のない淡紅褐色。殻表に弱い明らかな成長肋を持つ。殻口軸唇に歯状突起を持つ。フタがある。森林の林床のリター下に生息する。陸産。

【分布】本州(関東地方、中部地方、近畿地方東部)。

【県内の状況】天津小湊町清澄寺から記録がある。しかし、1983年当時で、近年現地調査で見られず、とされる。

【保護対策】本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫地を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】笹生(1983)



イブキゴマガイ

B コベルトカニモリ(コオロギ) オノツノガイ科

国：掲載なし
千：A-A-B

Cerithium kobelti Dunker, 1877

【種の特性】殻高25mm、殻径10mm程度の塔形で、厚質、堅固。螺層に3本の肋を持ち、縦肋と交わり、弱い結節状となる。殻色は、黄褐色から緑灰色まで変化し、結節上は淡色。外唇下端は水管部へ伸び、水管はやや長い。体層に縦張肋を持つが、背面に縦張肋を持たない。やや外洋の潮間帯の岩礫底に生息する。

【分布】房総半島~九州。台湾。

【県内の状況】*富浦町多田良、*館山市船形・坂田、銚子から記録があったが、ごく最近勝浦市で生貝が確認された。残存の可能性もあるが、新たに能動分散してきた可能性が高いと判断している。そのため、ランクを変更した。

【保護対策】本種の生息環境である外海の岩礫潮間帯の環境に変化のないようにすることが望ましい。

【引用文献】稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 石山(1967) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989) / 立川(印刷中)

【写真】P.189

(黒住耐二)



コベルトカニモリ
(コオロギ)

B ヨシダカワザンショウ カワザンショウガイ科

国：絶滅危惧Ⅱ類(VU)
千：B-B-B

Angustasiminea yoshidayukioi (Kuroda, 1959)

【種の特性】殻高3.2mm、殻径2.2mm程度の円錐形で、やや薄質、やや堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻は光沢のある淡栗色。殻表は平滑。臍穴は狭く開き、その周囲は黄色帯を巡らすように見える。潮上帯のアシ原に生息する。汽水産。

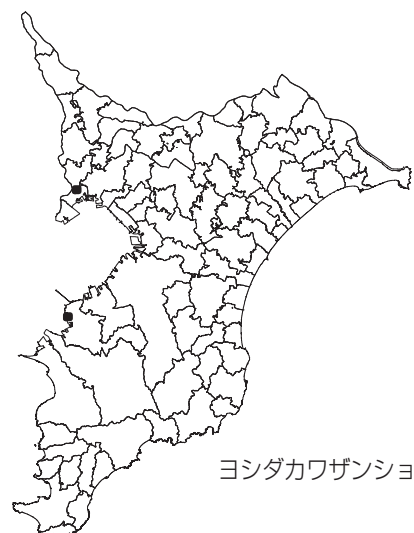
【分布】東京湾~九州。

【県内の状況】市川市江戸川放水路、木更津市小櫃川河口から記録がある。微小であるため、確認地点が少なく、生息地域も限られる。個体数も多くはない。

【保護対策】本種の生息環境である潮上帯のアシ原と海岸前縁の草本群落に人為的攪乱が及ばないようにし、両者が連続し続けるようにすることが望ましい。

【引用文献】Fukuda(1994) / 黒住(2006)

(黒住耐二)



ヨシダカワザンショウ

B フドロ スイショウガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Strombus (Dolomena) marginatus robustus Sowerby, 1874

【種の特性】 殻高6cm、殻径3.5cm程度の垂菱形で、厚質、堅固。体層が殻高のほとんどを占め、螺塔は小さいが尖る。外唇は僅かに張り出し、上部は螺塔側へ巻き込むようになる。肩部に弱く丸みを帯びた稜を持つ。体層底面に密な螺肋を持つが、他はほぼ平滑。淡褐色で、不明瞭な白斑等がある。やや外海の上部浅海带砂泥底に生息する。

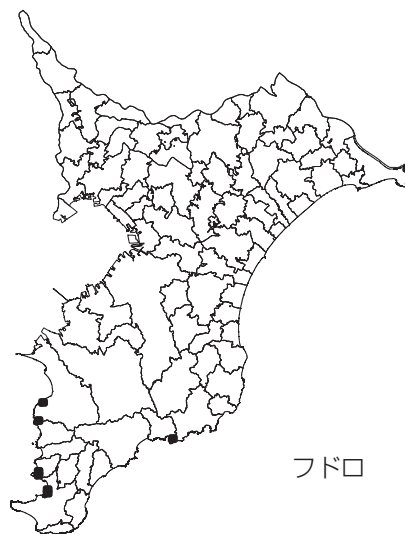
【分布】 房総半島以南~九州。

【県内の状況】 内房から銚子の各地で記録されているが、近年の生貝確認はほとんどない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



フドロ

B シドロ スイショウガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Strombus (Doxander) japonicus Reeve, 1851

【種の特性】 殻高7cm、殻径3.5cm程度の垂菱形で、厚質、堅固。体層が殻高の2/3を占め、螺塔は尖る。外唇は大きく張り出し、上部は湾入する。螺塔肩部に弱い明瞭な稜を持ち、細かい縦肋で刻まれる。体層底面に密な螺肋を持つが、他はほぼ平滑。淡褐色で、不明瞭な白斑等がある。やや外海の上部浅海带砂泥底に生息する。

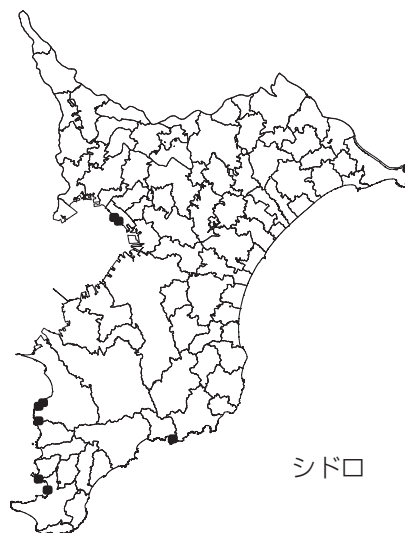
【分布】 房総半島~九州。

【県内の状況】 東京湾でのやや古い死殻の確認を含め、内房から銚子の各地で記録されているものの、生貝は時折得られる程度で、減少が著しい。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 黒住・岡本(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



シドロ

B ハナゴウナ ハナゴウナ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Eulima bifasciata (A. Adams, 1863)

【種の特性】 殻高12mm、殻径2.3mm程度の極めて細長い塔形、螺層数は多く、やや薄質、堅固、臍穴はない。縫合は全くくぼまない。体層は殻高の1/3程度。外唇縁は肥厚しない。殻表は彫刻等を持たず、平滑で、強い光沢を有する。各層に2本の明褐色の色帯を有し、その間に褐色彩を有することもある。上部浅海带の砂底に生息する。

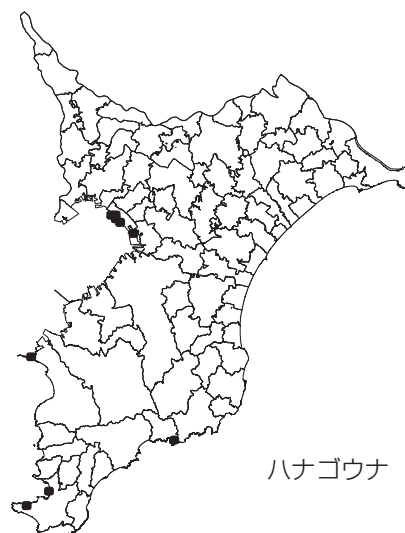
【分布】 房総半島・佐渡島~九州。東中国海。

【県内の状況】 館山湾と小湊から記録されており、東京湾でも比較的新鮮な殻が多く得られている。しかし、生貝は未確認である。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



ハナゴウナ

B シロハリゴウナ ハナゴウナ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Eulima maria (A. Adams, 1861)

【種の特性】殻高15mm、殻径3.6mm程度の極めて細長い塔形、螺層数は多く、やや薄質、堅固、臍穴はない。縫合は全くくぼまない。体層は殻高の1/4程度。外唇縁は肥厚しない。殻表は彫刻等を持たず、平滑で、強い光沢を有する。半透明白色で色帯等を一切欠く。上部浅海帯の砂底に生息し、ナマコ類に寄生すると言われる。

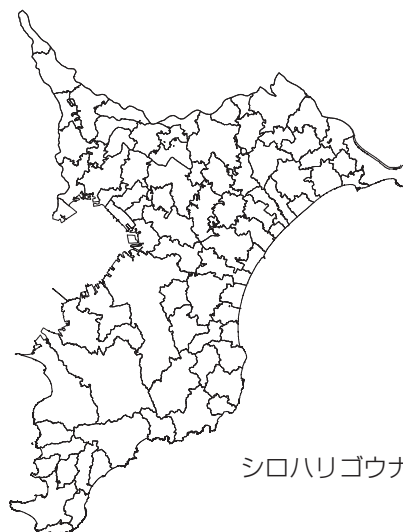
【分布】房総半島・佐渡島～九州。東中国海

【県内の状況】銚子の記録があるだけだが、東京湾でも古い死殻が得られ、館山湾ではごく最近新鮮な死殻が得られている。

【保護対策】本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



シロハリゴウナ

B カゴメガイ アッキガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Bedevea birileffi (Lischke, 1871)

【種の特性】殻高25mm、殻径11mm程度の細い菱形で、厚質、堅固。体層は大きく殻長の2/3を占める。殻表全面に密で間隔のあく螺肋を持ち、縦肋もあり、弱い格子目となる。縦肋は肩部で結節となる。殻色は紫褐色で、時に不明瞭な白斑等を有する。内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】房総半島～九州。

【県内の状況】館山湾から銚子までに過去の記録があり、富山町では近年生貝が得られている。東京湾では古い死殻しか確認されていない。

【保護対策】有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】清水(2001)

(黒住耐二)



カゴメガイ

B オウウヨウラク アッキガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Ceratostoma inornata (Récluz, 1851)

【種の特性】殻高30mm、殻径17mm程度の紡錘形で、厚質、堅固。体層は大きく殻長の4/5を占める。体層に10本程度の翼状になった縦肋があるが、内湾や潮間帯に生息するものではその発達が悪い。螺肋も有する。殻色は褐色。内湾から外海の潮間帯から上部浅海帯の岩礫底に生息する。地名に因んだ和名表記を、オオウからオウウに改めた。

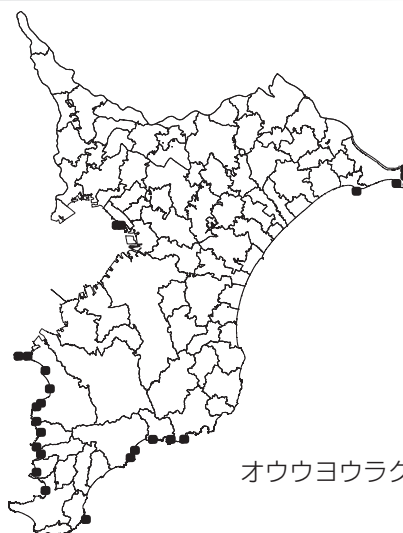
【分布】北海道～九州。黄海。

【県内の状況】*富津市富津岬、*飯岡町、銚子等から記録されている。本種には、いくつもの「地方型」が知られている多形的な種である。千葉県においては、東京湾に生息していた型は絶滅し、内房から外房の岩礁域でもほとんど見られず、銚子に生息する型はまだ健在である。

【保護対策】有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 石山(1966) / 小嶋(1972) / 渡辺・成毛(1988)

(黒住耐二)



オウウヨウラク

B トワイト エゾバイ科

Siphonalia fusoides (Reeve, 1846)

国：掲載なし
千：無-B-B

【種の特性】 殻高35mm、殻径20mm程度の紡錘形で、やや薄質だが、堅固。体層は殻長の3/4を占める。縫合はくびれる。臍帯はやや弱く、臍孔はない。殻表には細い螺肋が全面を覆う。肩部に結節を持たない。殻色は明褐色で、不規則な白斑がある。やや外海の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

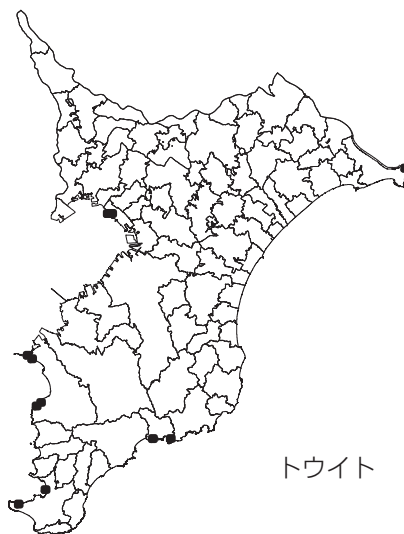
【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 内房から銚子まで広い範囲で確認されていたが、近年激減している。

【保護対策】 有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



トワイト

B バイ バイ科

Babylonia japonica (Reeve, 1842)

国：掲載なし
千：無-B-B

【種の特性】 殻高7cm、殻径4cm程度の紡錘形で、厚質、堅固。体層は殻長の2/3を占める。縫合は段差を持つ。軸唇はほぼ垂直で、狭い臍孔がある。殻表は平滑で、3本の色帯となることもある濃褐色の点斑が全面にある。生時には、濃褐色系の殻皮を被る。内湾からやや外洋の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

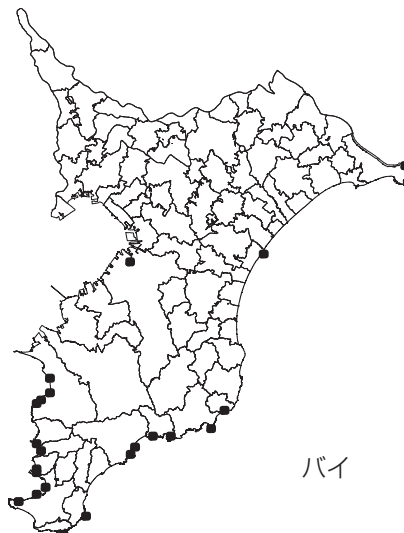
【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 東京湾から内房・外房・九十九里・銚子と広範な地域から報告されていたが、近年環境ホルモンによる激減が知られており、県内でもほとんど見られなくなっていた。しかし、2000年以降、東京湾・九十九里で生貝が確認され、回復傾向にあるのではないかと考えられる。

【保護対策】 有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 黒住(2010)

(黒住耐二)



バイ

B マクラガイ マクラガイ科

Oliva mustelina Lamarck, 1811

国：掲載なし
千：無-B-B

【種の特性】 殻高40mm、殻径20mm程度の円筒形で、極めて厚質。螺塔は平巻で、縫合は溝状になる。軸唇には多くの歯がある。殻表には彫刻がなく、平滑で、強い光沢がある。殻全面に紫褐色の細かいジグザグ斑を持つ。殻口内は濃紫色。やや外海の潮間帯下部から上部浅海帯の砂底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。東アジア。

【県内の状況】 内房等から記録があるものの、新鮮な死殻等の確認されることは極めて稀である。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の砂泥底を保全し、消波ブロック等の設置時には配慮されることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



マクラガイ

B ヤタテガイ フデガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Strigatella scutulata (Gmelin, 1791)

【種の特性】 殻高28mm、殻径12mm程度の紡錘形で、厚質、堅固。体層は殻長の2/3で、縫合は浅く、螺塔は直線的。体層の上下に比較的密な螺溝を巡らすほかは、平滑。殻表は濃褐色に黄白色の縦縞や縫合下に色帯を有し、やや光沢を持つ。軸唇に褶を持つ。やや外洋の潮間帯下部の岩礫底に生息する。

【分布】 房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】 安房地域でいくつかの記録があり、一時激減していたが、最近では勝浦市で比較的安定して生貝が確認されている。

【保護対策】 本種の生息環境である岩礫潮間帯に改変の及ばないようにすることが望ましい。

【引用文献】 坂井(1989) / 池田(1994) / 立川(印刷中)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



ヤタテガイ

B トカシオリイレ コロモガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Cancellaria (Habesolatia) nodulifera Sowerby, 1825

【種の特性】 殻高6cm、殻径4cm程度の垂菱形で、厚質、堅固。体層が殻高の大部分を占め、螺塔は小さく尖る。縫合下は平坦部となり、肩部に結節のある螺肋を持つ。体層には10本程度の強い螺肋があり、縦肋も明瞭。臍帯は弱い明瞭で、臍孔が狭く開く。殻は淡褐色で、光沢はほとんどない。やや外海の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 北海道南部～九州。東アジア。

【県内の状況】 内房から銚子で記録があるものの、現在生貝の得られることは少ない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



トカシオリイレ

B ベニイモ イモガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Conus (Stephanoconus) pauperculus Sowerby, 1834

【種の特性】 殻高25mm、殻径12mm程度の逆円錐形で、殻径はやや小さく、堅固。紫灰褐色の地に、途切れて点状斑になる細い色帯を多数巡らす。体層下部に不明瞭な白帯の存在することが多い。殻底に顆粒列を持たない。外海の上部浅海带の砂礫底に生息する。

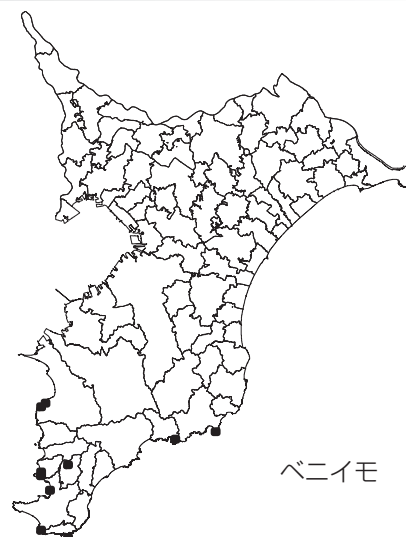
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 富津市から天津小湊でいくつかの記録がある。近年に生体は確認されていないと思われる。

【保護対策】 本種の生息地である外海の砂礫底を内包する岩礁息の保全が望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ベニイモ

B トクサガイ タケノコガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Trebra (Brevimyrella) japonica (Smith, 1873)

【種の特性】 殻高35mm、殻径8mm程度の錐形で、厚質、堅固。体層は殻長の1/3程度で、縫合はくびれない。殻表には多くの縦肋があり、他は平滑で、光沢を有する。淡褐色の地に、周縁部に濃褐色の色帯がある。やや内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。別名ヒメトクサ。

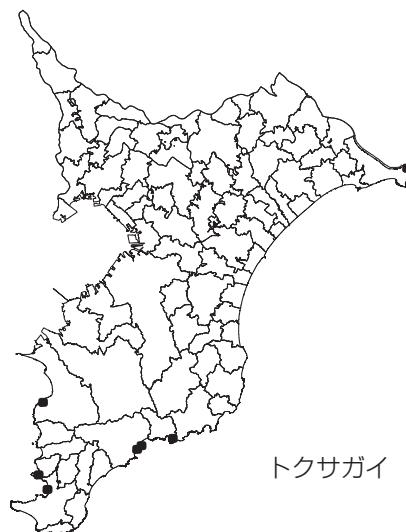
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 館山湾と銚子等から記録されているが、東京湾でもやや古い死殻が確認されており、生貝の記録は極めて少ない。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の砂泥底環境に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



トクサガイ

B クチキレガイ トウガタガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Orinella pulchella (A. Adams in H. & A. Adams, 1853)

【種の特性】 殻高15mm、殻径5.3mm程度の搭型で、厚質、堅固。体層は殻長の1/3程度で、縫合は狭いおれ込みとなる。臍孔はない。殻表は平滑で、光沢を有する。黄褐色の地に、周辺と底面に明瞭な細い濃褐色の色帯を持つ。軸唇に褶がある。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 陸奥湾～九州。

【県内の状況】 東京湾から銚子まで記録があるが、近年では東京湾の調査で生貝が確認されている程度で、各地で激減している。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



クチキレガイ

B ミガキクチキレ トウガタガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Agatha virgo (A. Adams, 1860)

【種の特性】 殻高12mm、殻径3.5mm程度の極めて細長い紡錘形、薄質。体層は殻高の約1/2占める。縫合は僅かにくぼむ。殻表には彫刻を持たず、平滑で弱い光沢がある。軸唇に弱い褶を持つ。半透明白色。やや内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 館山湾の記録だけが知られているが、東京湾では古い死殻が得られている。ごく最近、銚子沖で生貝が確認された。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996) / 清水(2001)

(黒住耐二)



ミガキクチキレ

B ヒメゴウナ トウガタガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Monotygmia eximia (Lischke, 1872)

【種の特性】 殻高20mm、殻径6mm程度の細長い塔型で、やや厚質。体層は殻高の約1/3を占め、周辺は丸い。縫合は僅かにくぼむ。殻表は明瞭で密な螺肋で覆われる。臍孔は閉じ、軸唇に褶はない。生時の殻は褐色系。内湾上部浅海帯の砂泥底に生息する。

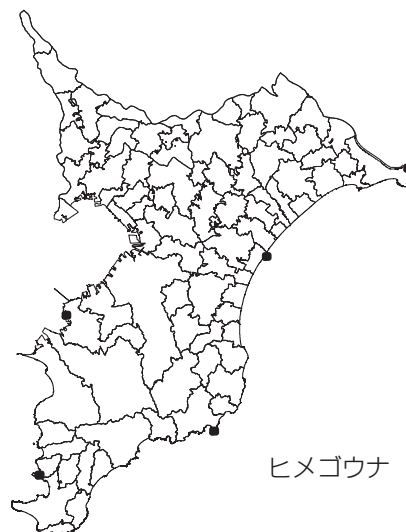
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 東京湾をタイプ産地として、銚子まで記録があるものの、近年新鮮な死殻も確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ヒメゴウナ

B ムラクモキジビキガイ キジビキガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Japanacteon nipponensis (Yamakawa, 1911)

【種の特性】 殻高17mm、殻径8mm程度の長卵形で、やや厚質。体層は殻長の4/5で、縫合はやや浅い。殻表全面に密な螺溝を巡らす。淡黄色の地に、密な黒斑を持つ。軸唇はねじれる。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 銚子と東京湾からの記録しか見つけられなかったが、小形なことから発見率が低いものと考えられる。近年、木更津市小櫃川河口でも確認されている。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の砂泥底環境に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1965) / 岡本・黒住(1996) / 和田ほか(1996)

(黒住耐二)



ムラクモキジビキガイ

B コヤスツララガイ クダタマガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Didontoglossa koyasensis (Yokoyama, 1927)

【種の特性】 殻高3.5mm、殻径1.4mm程度の短円筒形で、薄質。体層は殻長の5/6で、殻頂は平巻状。縫合は溝状に開く。殻表はほぼ平滑で、生時には漆塗り状の殻皮を持つ。軸唇に褶を持たない。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

【分布】 東北地方～九州。

【県内の状況】 木更津市小櫃川の記録しか見つけられなかったが、殻が微小なことから発見率が低いものと考えられる。近年でも、小櫃川河口でも生息が確認されている。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾干潟を保全することが望ましい。

【引用文献】 和田ほか(1996)

(黒住耐二)



コヤスツララガイ

B マツシマコメツブガイ ヘコミツラガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Decorifer matusimanus (Nomura, 1940)

【種の特性】 殻高3.5mm、殻径1.7mm程度の短円筒形で、薄質。体層は殻長の4/5で、螺塔は低い塔形。縫合は溝状に開かない。殻表はほぼ平滑で、生時には薄い淡黄褐色の殻皮を持つ。軸唇に褶を持たない。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

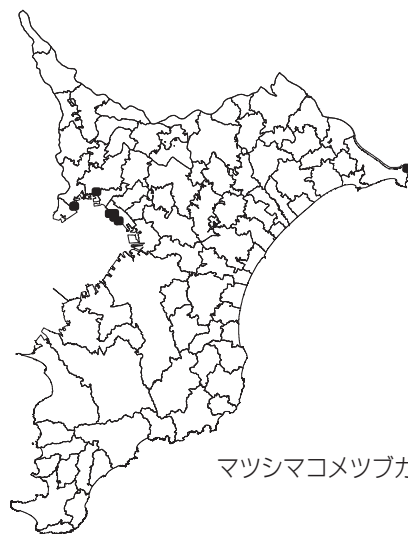
【分布】 東北地方～九州。

【県内の状況】 浦安市行徳沖三番瀬、木更津市小櫃川河口(コメツブガイで報告されたのは本種と考えられる)、*富津岬、銚子から記録がある。小櫃川河口では、1975年に確認されたが、1987年には確認されていない。ただ、近年、三番瀬でも確認されている。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の砂泥底潮間帯を保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 小島(1972) / 大嶋・風呂田(1980) / 渡辺・成毛(1988) / 秋山(1988) / 風呂田ほか(1996)

(黒住耐二)



マツシマコメツブガイ

B ヒラマキミズマイマイ ヒラマキガイ科

国：情報不足 (DD)
千：D-D-B

Gyraulus chinensis spirillus (Gould, 1859)

【種の特性】 殻高1.8mm、殻径6mm程度の円盤形、やや小型、薄質。淡黄褐色で、弱い光沢を有する。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の1/2程度。体層周縁に弱い角を持ち、殻皮突起は不明瞭。水田等の止水域の水草等の基物に付着する。淡水産。

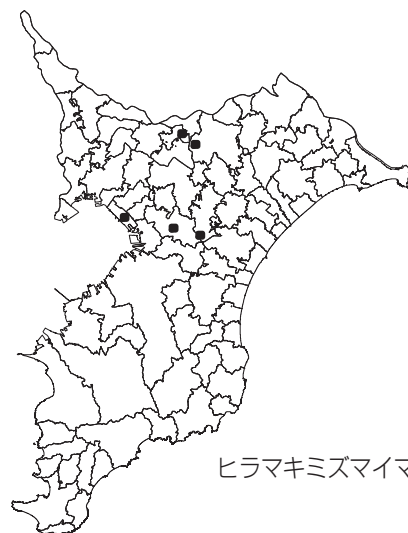
【分布】 北海道～琉球。

【県内の状況】 手賀沼、成田市、本埜村、千葉市若葉区中野町から記録がある。しかし、千葉市などでは現在はほとんど見られず、県内各地の水田では激減している。近年の記録がかなり少なかったため、ランクを上げた。ただ、近年、極めて形態の類似した外来種が定着している可能性も高い。

【保護対策】 本種の生息環境である水田や湿地等の水体を、富栄養化や干上がること等のないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 黒住・岡本(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ヒラマキミズマイマイ

B トウキョウヒラマキガイ ヒラマキガイ科

国：掲載なし
千：D-D-B

Gyraulus tokyoensis (Mori, 1938)

【種の特性】 殻高1.9mm、殻径7.5mm程度の円盤形、やや大型、薄質。淡黄褐色で、弱い光沢を有する。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の1/2程度。体層周縁に強い角を持ち、殻皮突起は明瞭。水田等の止水域の水草等の基物に付着する。ヒラマキミズマイマイとの識別は困難である。淡水産。

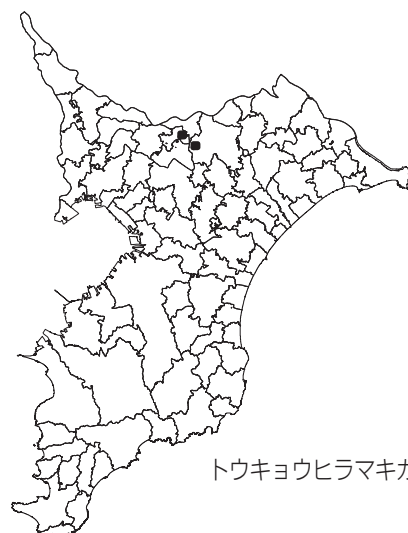
【分布】 関東地方～琉球。

【県内の状況】 本埜村から記録がある。ヒラマキミズマイマイと同様に激減しているものと考えられる。最近の記録・標本を確認できなかったため、ランクを上げた。

【保護対策】 本種の生息環境である水田や湿地等の水体を、富栄養化や干上がること等のないようにすることが望ましい。

【引用文献】 成毛(1985) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



トウキョウヒラマキガイ

B チュウゼンジギセル キセルガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) sericina (Möllendorff, 1882)

千：B-B-B

【種の特性】 殻高18mm、殻径5mm程度の太短い蛹形、厚質、淡褐色の殻皮を持つが、剥げている場合が多い。殻口は丸く、殻口縁は体層からわずかに遊離する。上板は明らかで、下板は長く、上板近くで奥へ潜り込み、下軸板は時に殻口縁に現れるが、通常見えない。腔壁は主壁と右側面の1個の点状の壁からなる。林床のリター下や礫間に生息する。陸産。

【分布】 関東山地北・西部、千葉県、三浦半島。

【県内の状況】 館山市、鋸山、君津市、長南町、佐倉市、佐原市、下総町等から記録がある。カワムラギセルの名で報告されたものも、同種である。良く自然の残った森林に生息する。確認地点が少なく、今後の追加も少ないと考えられる。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫地を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 前田ほか(1990) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



チュウゼンジギセル

B タカキビ ベッコウマイマイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Coneuplecta praealta (Pilsbry, 1902)

千：B-B-B

【種の特性】 殻高3.5mm、殻径2.5mm程度の高い円錐形、薄質。体層周縁に弱く鈍い角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、殻表はほぼ平滑で、光沢を有する。外唇は肥厚・反転しない。林床のリター下に生息する。陸産。

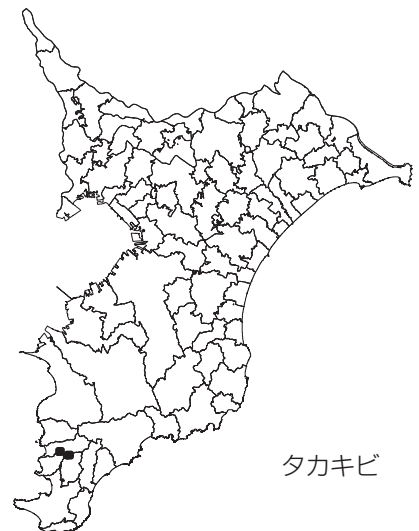
【分布】 本州(関東地方以西)～九州。

【県内の状況】 富山から記録がある。微小なため確認地点が少ないものと考えられるが、環境の良い森林に生息している。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



タカキビ

B ヒメカサキビ ベッコウマイマイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Trochochlamys subcrenulata subcrenulata (Pilsbry, 1901)

千：C-B-B

【種の特性】 殻高2.2mm、殻径3mm程度のソロバン玉形、薄質。体層周縁に強く突出した角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。栗色で、やや光沢を持ち、殻表は平滑。外唇は肥厚・反転しない。林床のリター下に生息する。陸産。

【分布】 東北地方南部～九州。

【県内の状況】 木更津市、君津市三石山から記録がある。微小なため確認地点が少ないものと考えられるが、環境の良い森林に生息している。2000年以降の調査でも確認できなかったため、ランクを上げた。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 小島(1972) / 稲葉(1975) / 前田ほか(1990) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ヒメカサキビ

B オオウエキビ ベッコウマイマイ科

国：情報不足 (DD)

Trochochlamys fraterna (Pilsbry, 1900)

千：C-B-B

【種の特性】 殻高3mm、殻径2mm程度の蛹形、薄質。螺塔は高く、各層はやや膨らみ、体層周縁にやや強い角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。黄褐色で、やや光沢を持ち、殻表は平滑。外唇は肥厚、反転しない。林床のリター下に生息する。陸産。

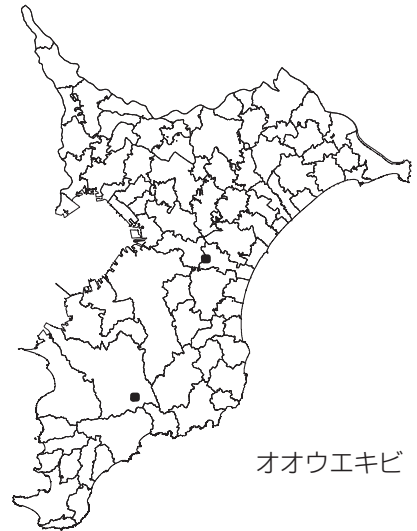
【分布】 関東地方～九州。

【県内の状況】 君津市三石山等から記録がある。微小なため確認地点が少ないものと考えられるが、環境の良い森林に生息している。2000年以降の調査でも確認できなかったため、ランクを上げた。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 小畠(1972) / 稲葉(1975) / 前田ほか(1990) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



オオウエキビ

B ウメムラシタラガイ ベッコウマイマイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Coneuplecta (Sitalina) japonica (Habe, 1964)

千：B-B-B

【種の特性】 殻高1.5mm、殻径2.1mm程度の低円錐形、薄質。体層周縁はやや強い角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、光沢はなく、殻表に数本の螺状肋を持つ。外唇は肥厚・反転しない。林床のリター下に生息する。陸産。

【分布】 関東地方～九州。

【県内の状況】 白浜町根本から記録がある。微小なため確認地点が少ないものと考えられるが、環境の良い低地の森林に生息している。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 成毛(1999)

(黒住耐二)



ウメムラシタラガイ

B レンズガイ ベッコウマイマイ科

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Otsepsis japonica (Möllendorff, 1885)

千：B-B-B

【種の特性】 殻高7.5mm、殻径13.5mm程度のソロバン玉形、薄質。体層周縁に強く突出した角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。栗色で、光沢弱く、殻表は平滑。外唇は肥厚・反転しない。林床のリター下に生息する。陸産。

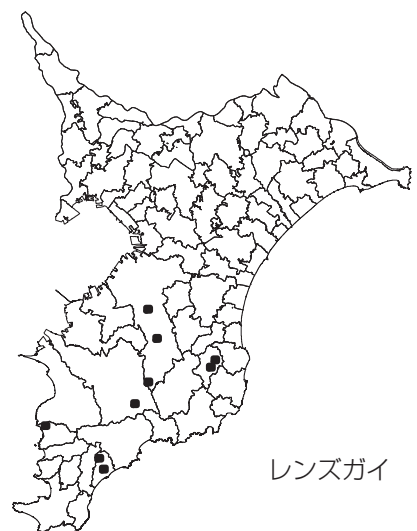
【分布】 本州(関東地方南部、中部地方)、九州。

【県内の状況】 鋸山、和田町、市原市、君津市三石山、夷隅町から記録がある。環境の良い森林に生息している。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 前田ほか(1990) / 黒住・岡本(1994a) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



レンズガイ

B カドコオオベソマイマイ オナジマイマイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Aegista proba goniosoma (Pilsbry & Hirase, 1904)

千：B-B-B

【種の特性】 殻高7mm、殻径11mm程度のソロバン玉形、やや薄質。体層周縁に明瞭だが、弱い角を持つ。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇は肥厚、反転する。林床のリター下に生息する。陸産。

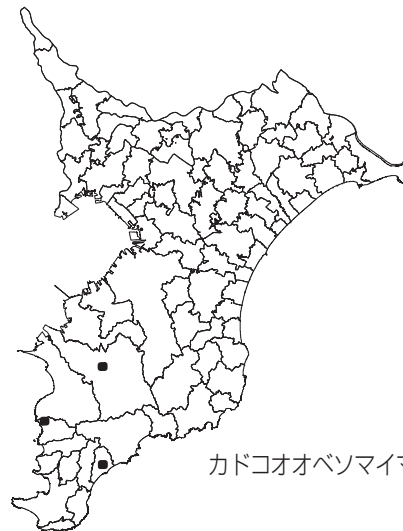
【分布】 東北地方南部、関東地方、中部地方。

【県内の状況】 鋸山、和田町、君津市松節から記録がある。和田町からコオオベソマイマイの名で報告されたものは本種であると考えられる。ただ、今回示した分布域を含め、種の再検討が必要である。房総丘陵の自然度の高い森林にのみ生息する。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 前田ほか(1990) / 黒住ほか(1993) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



カドコオオベソマイマイ

B キヌタレガイ キヌタレガイ科

国：掲載なし

Petrasma pusilla (Gould, 1861)

千：無-B-B

【種の特性】 殻長10mm、殻高4mm、殻幅3mm程度の細長い筒型。殻頂は後端に近く、突出しない。前後縁は丸い。靱帯は内在する。生時には強い光沢を持つ濃褐色の殻皮で覆われる。殻皮には濃淡の放射彩がある。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂底に生息する。

【分布】 北海道南部~九州。

【県内の状況】 館山から銚子まで記録があったが、内湾域に生息する種であり、そのような環境では確認されていない。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



キヌタレガイ

B ヤマホトトギス イガイ科

国：掲載なし

Musculista japonica (Dunker, 1857)

千：無-B-B

【種の特性】 殻長25mm、殻高10cm、殻幅6mm程度の細長い楕円形、薄質。殻頂は前方により、僅かに突出する。殻表は平滑で、光沢を持つ。不明瞭な紫褐色の網目~ジグザク斑がある。やや内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

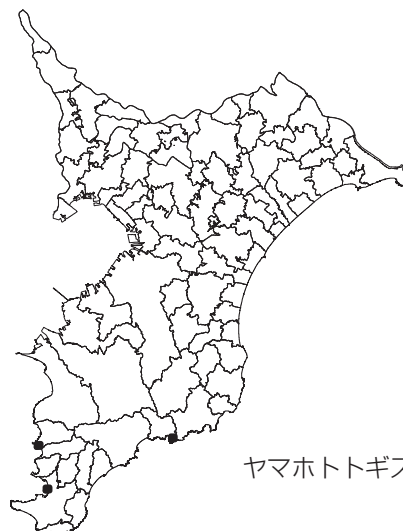
【分布】 房総半島~九州。東南アジア。

【県内の状況】 勝山から銚子にかけての記録がある。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや潮通しの良い砂泥底が永続できるようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ヤマホトトギス

B アケガラス イガイ科

Modiolus sirahensis Jousseau, 1891

国：掲載なし
千：無-B-B

【種の特性】 殻長20mm、殻高10mm、殻幅6.2mm程度の細長い亜方形、薄質。後方に広がり、後背縁は角張る。殻表は平滑で、緑黄色の薄い殻皮を持つが、毛状にならない。やや内湾の上部浅海帯泥底に生息する。

【分布】 東京湾～四国。

【県内の状況】 東京湾で得られた標本が確認されている。

【保護対策】 生息地の内湾泥底に環境負荷が生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】 [参考: Oyama *et al.* (1959)]

【写真】 P.189

(黒住耐二)



アケガラス

B ハボウキガイ ハボウキガイ科

Pinna bicolor Gmelin, 1791

国：掲載なし
千：無-B-B

【種の特性】 殻長35cm、殻高12cm、殻幅5.5cm程度の細長い三角形で、背縁・腹縁とも直線的で、後部は幅広く、斜めの切断状。殻頂は尖り、そこから細くて弱い、不明瞭な10本程度の成長肋が出る。殻はやや薄質で、割れやすい。紫褐色で、濃淡を持つ。やや内湾の上部浅海帯砂泥底に生息する。

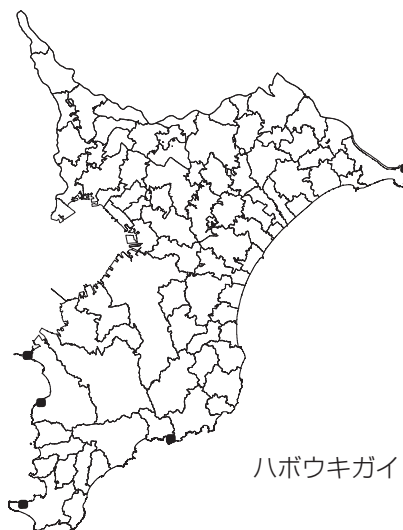
【分布】 房総半島～沖縄。インドー西太平洋。

【県内の状況】 富津市から銚子の間でいくつかの記録があるだけであった。ごく最近館山市で新鮮な殻が得られている。

【保護対策】 本種の生息地である砂泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ハボウキガイ

B マツカサガイ イシガイ科

Pronodularia japonensis (Lea, 1859)

国：準絶滅危惧 (NT)
千：B-B-B

【種の特性】 殻長44mm、殻高28mm、殻幅14mm程度の卵形、中形、厚質、堅固。殻頂は前方に寄り、浸食され、殻縁から突出しない。殻皮は黒褐色で、殻表に「松毬」のような分岐した彫刻を有する。この彫刻は、通常殻全面に明瞭で、後背縁に及ぶ。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起を持たない無鉤型。主に緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底、砂礫底に生息する。淡水産。

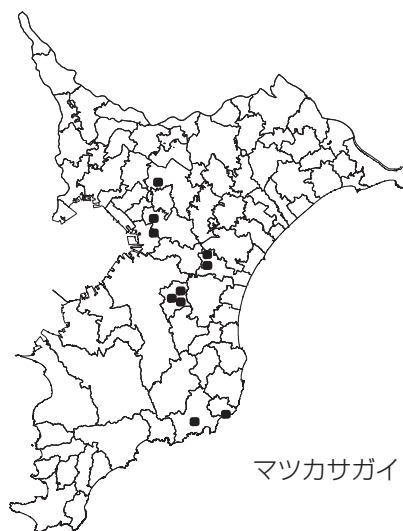
【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 勝浦市、御宿町、長柄町、袖ヶ浦市、手賀沼、阿久川、西方川等から記録がある。千葉市中央区からも記録があるが、ヨコハマシジラガイとの識別がなされていないので、正確な情報は不明である。県内各地の水田の用水路の改修による生息場所の変質により各地で減少している。

【保護対策】 生息地の水路等の水質を改善し、三面コンクリート底に改変することを避け、川底の砂礫底を保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 近藤(1995) / 天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査委員会(編)(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



マツカサガイ

B コボレウメ ツキガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Pillucina neglecta Habe, 1960

【種の特性】 殻長3mm、殻高2.6mm、殻幅1.7mm程度の円形、やや薄質。殻頂は中央に位置し、突出し、後背縁は強くくぼむ。殻頂下内側の歯板は突出しない。殻表には、前後背縁に分岐したやや強い放射状の彫刻を有し、明瞭な成長線がある。光沢はない。濁白色。内湾の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 東京湾で古い死殻が確認されているのみで、生貝の記録を見つげ出すことはできなかった。ただ、微小であることと、ウメノハナガイと混同されている可能性もあり、今後の詳細な調査／検討が必要であろう。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 黒住(2004)

(黒住耐二)



コボレウメ

B チヂミウメ ツキガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Wallucina striata (Tokunaga, 1906)

【種の特性】 殻長10mm、殻高10mm、殻幅7mm程度の円形、やや厚質。殻頂は中央に位置し、突出し、後背縁は僅かにくぼむ。殻表には、成長線が弱い凹凸をつくり、光沢はない。濁白色。内湾の上部浅海带砂泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 富津岬から外房の大原までの記録があり、東京湾でもやや古い死殻が確認されている。生貝は未確認である。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 黒住(2003)

(黒住耐二)



チヂミウメ

B クサビザラ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Cadella delta (Yokoyama, 1922)

【種の特性】 殻長7mm、殻高6mm、殻幅3mm程度の卵形、やや厚質。殻頂は後部により、やや突出する。殻表には明瞭で密な成長肋があり、肋間は狭い。やや内湾の上部浅海带砂泥底に生息する。

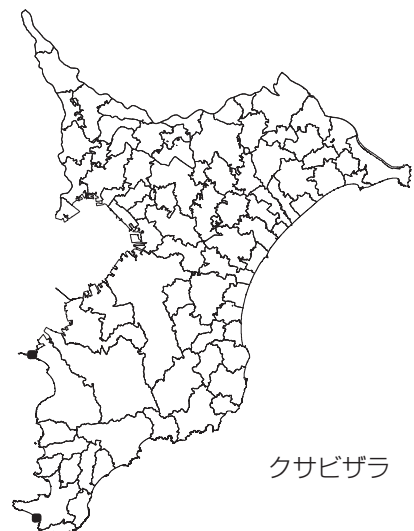
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 東京湾・富津市・平砂浦から古い死殻が確認されている程度であり、現在の生息は確認できていない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 黒住(2003)

(黒住耐二)



クサビザラ

B ダンダラマテ マテガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Solen kurodai Habe, 1964

【種の特性】 殻長5cm、殻高0.7cm、殻幅0.4cm程度の極めて細長い方形で、殻頂は前端に位置し、背側は完全な直線。後端は背側から直角に切断される。後端は少し斜めの切断状。殻色は後端に平行で明瞭な紫紅色の多数の濃部を持つ淡褐色。殻皮は薄く淡黄褐色。やや外海の上部浅海帯細砂底に生息する。

【分布】 房総半島~九州。

【県内の状況】 内房でのみ得られており、富浦町や館山湾では時に比較的多くの新鮮な個体を得ることができる。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底、特にやや外海の藻場に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)

B タカノハガイ ユキノアシタ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Ensiculus cultellus (Linnaeus, 1758)

【種の特性】 殻長40mm、殻高12mm、殻幅5mm程度で、極めて細長い楕円形、薄質。両端は丸く、前部は反りかえる。殻頂は前方により、突出しない。内肋を持たない。前後端は狭く開く。殻表は平滑。殻色は紫紅色の点斑を密に持ち、光沢がある。やや外海の上部浅海帯砂底に生息する。

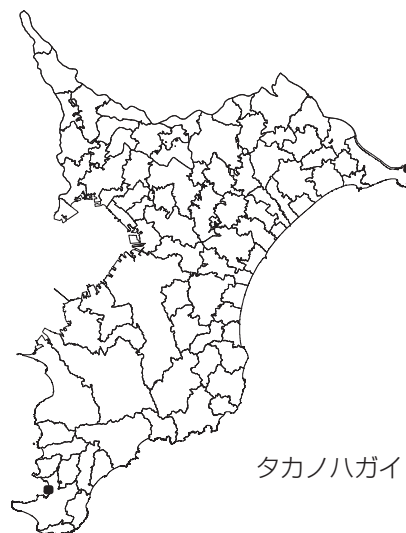
【分布】 房総半島~九州。東アジア。

【県内の状況】 館山湾から記録されているものの、得られている標本は極めて少ない。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 立川ほか(2007)

(黒住耐二)



タカノハガイ

B オオモモノハナ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Macoma (Macoma) praetexta (Martens, 1865)

【種の特性】 殻長30mm、殻高20mm、殻幅8mm程度の垂菱形、やや薄質。後端は丸みを帯びた切断状で、水管を出すために少し左右に歪む。濃い紅色で、年輪状の濃淡がある。殻表には弱い光沢がある。やや外海の上部浅海帯砂泥底に生息する。

【分布】 北海道南部~九州。

【県内の状況】 館山湾から銚子にかけて記録があり、他の内房域や銚子では近年でも新鮮な殻がまとまって得られることもある。ただ、過去にはかなり多く確認されていたようであり、減少は明瞭である。

【保護対策】 本種の生息地であるやや外海の砂泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 立川ほか(2007)

(黒住耐二)



オオモモノハナ

B サビシラトリ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Macoma (Macoma) contabulata (Deshayes, 1854)

【種の特性】 殻長45mm、殻高33mm、殻幅16mm程度の卵形、やや厚質、膨らみが強く、腹縁は丸みを帯びる。殻頂は中央よりやや前方により、頂点となる。後部は余り伸びない。殻表は成長肋によりやや粗面で、濁灰褐色の殻皮を持ち、光沢がない。陶白色。内湾の潮間帯泥底に生息する。

【分布】 東北地方～九州。黄海、中国沿岸。

【県内の状況】 市川市江戸川放水路、木更津市小櫃川河口、銚子からのみ記録がある。江戸川放水路と小櫃川河口では現在も個体群を維持しているが、本県ではここだけのものである。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 本種の生息地である内湾泥底潮間帯を保全することが望ましい。

【引用文献】 大嶋・風呂田(1980) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989) / 岡本(1994) / 池田(1994)

(黒住耐二)



サビシラトリ

B オチバガイ イソシジミ科

国：掲載なし
千：X-X-B

Psammotaea virescens (Deshayes, 1855)

【種の特性】 殻長30mm、殻高17mm、殻幅10mm程度の長楕円形、やや薄質、腹縁は直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表はほぼ平滑で、光沢のある殻皮を持つ。殻色は種々変化し、色斑や放射彩を持つ。殻頂後部に歯丘が明か。内湾の潮間帯泥底に生息する。

【分布】 房総半島～琉球。中国沿岸、東南アジア。

【県内の状況】 これまで房総半島の詳細な記録を見つけたことができません。絶滅したと考えていたが、近年、内房・外房域の河口から生貝や新鮮な死殻が確認され、新たな定着が認められた。そのため、ランクの変更を行った。

【保護対策】 生息地である河口干潟を、現状のまま保全することが望ましい。

【引用文献】 奥谷(1986)

(黒住耐二)



オチバガイ

B ムラサキガイ イソシジミ科

国：掲載なし
千：X-X-B

Soletellina adamsii Reeve, 1857

【種の特性】 殻長12cm、殻高5.5cm、殻幅2.7cm程度の長楕円形、やや厚質、腹縁は直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表はほぼ平滑で、光沢のある殻皮を持つ。殻色は紫色で、白色の輪帯や後部に2本の放射彩を持つ以外、単色。殻頂後部に歯丘が明か。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

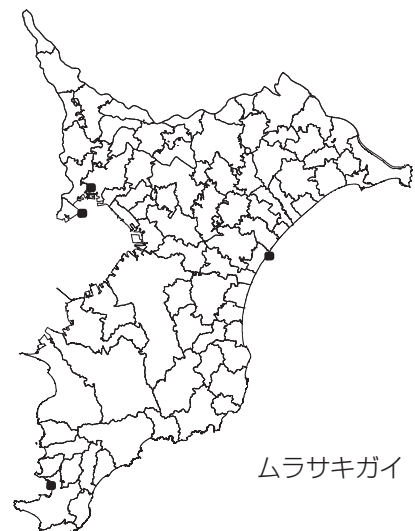
【分布】 房総半島～九州。中国沿岸。

【県内の状況】 船橋ヘルスセンター前等の記録しか確認できず絶滅したと考えていたが、近年、内房域で極めて新鮮な合併幼貝が複数個体確認され、新たな定着が生じたようである。そのため、ランクの変更を行った。

【保護対策】 本種の生息できるやや内湾の砂泥底を確保することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955a) / 黒住(2003)

(黒住耐二)



ムラサキガイ

B ヤマトシジミ シジミ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Corbicula japonica Prime, 1864

千：C-C-B

【種の特性】 殻長36mm、殻高33mm、殻幅21mm程度の亜三角形、やや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を有し、殻皮は漆黒色で、光沢がある。河口域の砂泥底に生息する。汽水産。

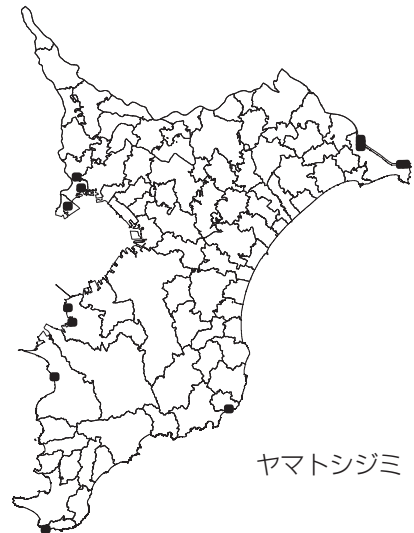
【分布】 北海道～九州。

【県内の状況】 市川市、浦安市、木更津市、*富津市、夷隅町、銚子市等から記録がある。利根川では、未だ本種の漁獲が行われているが、他地域ではほぼ絶滅の状況である。近年、東京湾奥部(東京都側) で得られている本種を外来群と考え、評価の対象としていない。

【保護対策】 本種の生息環境である汽水域の底質に大きな変化のないようにし、併せて幼貝の捕獲を避けることが望ましい。

【引用文献】 小畠(1972) / 秋山・松田(1974) / 秋山(1975) / 稲葉(1975) / 大嶋・風呂田(1980) / 成毛(1985) / 渡辺・成毛(1988) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ヤマトシジミ

B ケマンガイ マルスダレガイ科

国：掲載なし

Gafrarium divaricatum (Gmelin, 1781)

千：X-X-B

【種の特性】 殻長43mm、殻高26mm、殻幅20mm程度の卵円形、厚質、堅固、腹縁は丸みを帯びる。殻頂はやや前方に寄り、突出しない。殻表全面には、分岐した細かい肋を有し、光沢はない。褐色のまだら斑を持つ。やや内湾の砂礫底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。西太平洋。

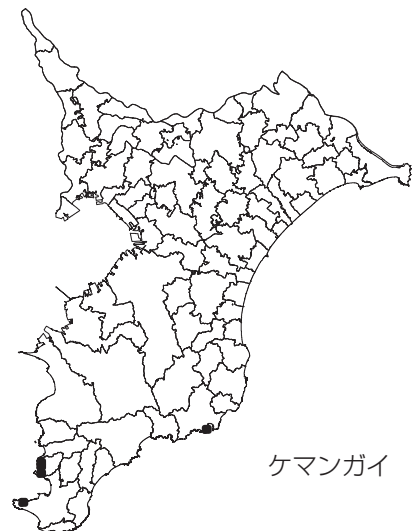
【県内の状況】 *館山市船形等で記録されている。本種は、志摩半島以南に分布するとされるが、相模湾からも記録され、房総半島以南に分布するとされる。極く最近、勝浦市で生貝が得られ、新たな分散が生じているようである。そのため、ランクの変更を行った。

【保護対策】 本種の確認された海岸の保全し、併せて今後の動態をモニタリングすることが望ましい。

【引用文献】 岡田(1965) / 坂井(1989) / 村岡・内藤(1991) / 立川(印刷中)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



ケマンガイ

B イヨスダレ マルスダレガイ科

国：掲載なし

Paphia undulata (Born, 1778)

千：無-X-B

【種の特性】 殻長45mm、殻高20mm、殻幅14mm程度の細長い楕円形で、後端は少し尖る。殻表には、弱く不明瞭な成長肋とやや明瞭な後部から腹縁にかけて密な斜めの条溝があり、光沢も強い。淡紫褐色の地に、細かな赤褐色の網目模様がある。内湾の上部浅海帯泥底生息する。

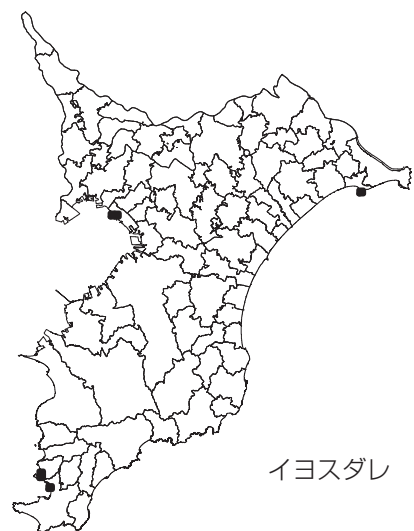
【分布】 房総半島・能登半島～九州。東アジア。

【県内の状況】 東京湾と銚子で確認されていたが、一時ほぼ全く見られなくなっていた。ごく最近館山湾で新鮮な合弁幼貝が確認され、新たな分散が生じたと考えられる。そのため、ランクの変更を行った。

【保護対策】 現在生息の確認されている砂泥底の環境を保全し、併せて今後の動態をモニタリングすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 黒住(2003)

(黒住耐二)



イヨスダレ

B シオツガイ イワホリガイ科

国：掲載なし
千：無-C-B

Petricolirus aequistriatus (Sowerby, 1874)

【種の特性】 殻長35mm、殻高18mm、殻幅14mm程度の細長い亜方形、やや厚質、腹縁は直線的。殻頂は前方により、突出する。殻表には極めて細かく分岐しない放射肋が、密に存在し、光沢はない。殻色は濁灰白色で、内面後端は紫褐色。外海の潮間帯下部から上部浅海帯の砂岩・泥岩中に生息する。

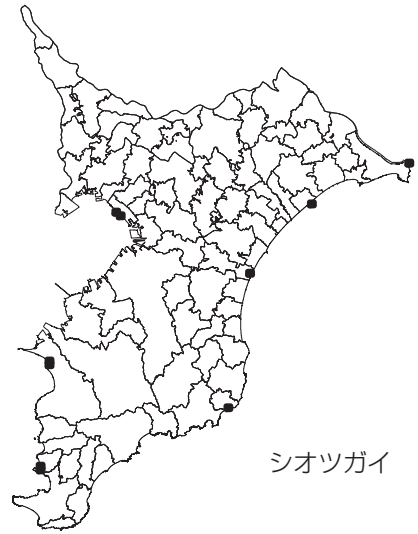
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房域から銚子まで多くの記録があるが、近年の新鮮な個体は未確認である。そのため、ランクの変更を行った。

【保護対策】 本種の生息できる潮間帯岩礁域に砂泥の堆積が生じないようにし、その岩礁息を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



シオツガイ

B ヒメマスオ オオノガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Cryptomya elliptica (A. Adams, 1851)

【種の特性】 殻長15mm、殻高10mm、殻幅6mm程度のやや細長い亜方形、薄質。殻頂は少し前方により、ほとんど突出しない。後腹縁は少し尖る。殻表は、成長肋にそって多少の凹凸のある他は平滑。弾帯受は小さいながら目立つ。殻色は濁白色で、生時は灰褐色の薄い殻皮を持つ。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯砂泥底に生息する。

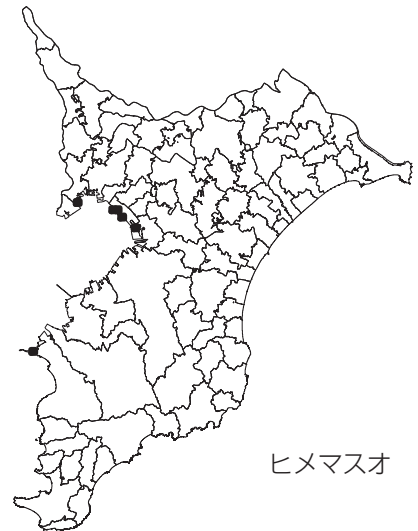
【分布】 北海道南部～九州。東南アジア。

【県内の状況】 東京湾から記録され、近年でも生貝が三番瀬や千葉市から得られている。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の砂泥底環境を保全することが望ましい。

【引用文献】 岡本・黒住(1996)

(黒住耐二)



ヒメマスオ

B シナヤカスエモノガイ スエモノガイ科

国：掲載なし
千：無-B-B

Eximiothracia concinna (Gould, 1861)

【種の特性】 殻長20mm、殻高12mm、殻幅7mm程度の細長い亜方形、薄質、腹縁は直線的。殻頂は中央に位置し、やや突出する。殻表には極めて小さな顆粒を密に持つが、平滑に見え、光沢はない。半透明白色で、生時には、殻縁部に黄褐色の薄い殻皮を持つ。やや外海の上部浅海帯の細砂底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 館山湾の記録と同地での新鮮な死殻が得られている。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



シナヤカスエモノガイ

B オキナガイ ソトオリガイ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Laternula (Laternula) anatina (Linnaeus, 1758)

【種の特性】殻長55mm、殻高25mm、殻幅22mm程度の亜方形、極めて薄質、腹縁は直線的。後部は少し細くなり、後背縁は上向き、後端は裁断状。殻頂はやや前方に寄り、突出し、裂け目がある。殻表は微細な顆粒に被われるが、平滑に見える。殻皮は不明瞭。やや内湾の潮間帯下部から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

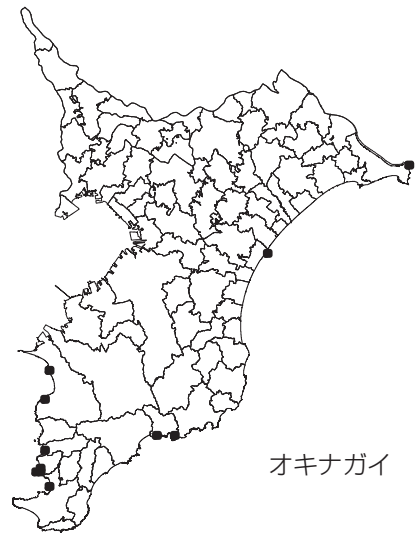
【分布】本州～九州。インド-西太平洋。

【県内の状況】内房から銚子までの各地で記録されている。近年、富浦町多田良で10個体以上の生貝が確認されており、内房から外房のやや内湾の小面積の砂泥底に生息している可能性はある。

【保護対策】本種の生息環境である砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 渡辺・成毛(1988)

(黒住耐二)



オキナガイ

C イボキサゴ ニシキウズ科

国：掲載なし
千：B-B-C

Umbonium (Suchium) moniliferum (Lamarck, 1822)

【種の特性】殻高16mm、殻径22mm程度の低円錐形、やや厚質、堅固。螺塔はやや高い。体層周縁は丸い。臍部の滑層が殻径の半分以上を占める。各色は、通常、灰黒色の密な縞模様。砂泥底の潮間帯に生息する。

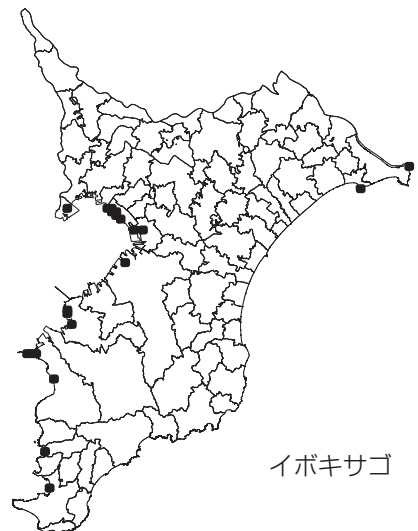
【分布】陸奥湾～九州。

【県内の状況】*千葉市、*市原市、*木更津市、*富津市、銚子等で記録されているが、現在は小櫃川河口干潟に生息するのみである。ただ、まだこの場所では個体群を維持しており、大量発生も認められた。そのため、ランクの変更を行った。相模湾でも危惧とされる。

【保護対策】本種の生息環境である干潟を保全することが望ましい。

【引用文献】石山(1967) / 大嶋・風呂田(1980) / 小島(1982) / 渡辺・成毛(1988) / 秋山(1988) / 坂井(1989) / 池田(1994)

(黒住耐二)



イボキサゴ

C モロハタマキビ タマキビ科

国：掲載なし
千：無-D-C

Lacuna carinifera (A. Adams, 1853)

【種の特性】殻高7mm、殻径6.5mm程度の菱形で、やや厚質、堅固。体層が殻高の大部分を占める。体層周縁と臍孔周辺に強い稜を持つ。臍孔は狭く開くことが多い。殻表は平滑で、少し光沢を有する黄白色の殻皮を持つ。内湾の潮間帯下部から上部浅海帯のアマモ上等に生息する。

【分布】北海道南部～九州。

【県内の状況】富津岬から銚子までの記録があるものの、近年の生貝確認はかなり稀である。2006年改定リストでヘソカドタマキビとしたのは誤りで、モロハタマキビに対象種を変更した。ただ、多少分類学的な混乱が存在するようであり、過去の記録の再確認も必要かもしれない。

【保護対策】本種の生息環境である内湾藻場で大きな改変の所持させないようすることが望ましい。

【引用文献】清水(2001)

(黒住耐二)



モロハタマキビ

C ホウシュノタマ タマガイ科

国：掲載なし
千：無-C-C

Natica gualterana Récluz, 1844

【種の特性】 殻高13mm、殻径12mm程度の球形で、厚質、堅固。臍盤は白色で、やや小さく、それを取り巻くように狭く臍孔が開く。臍孔の周囲は白色で、他は灰褐色、時に斑紋状の色帯を持つ。フタは石灰質で、外唇に沿って1本の溝がある。縫合下にやや密なシワを有する以外平滑で、光沢を持つ。やや外海の潮間帯下部から上部浅海帯の砂底/砂礫底に生息する。

【分布】 房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】 館山湾から小湊にかけて記録が散在するものの、近年でも生貝の確認例は比較的少ないものの、勝浦市では比較的安定して生貝が確認されている。

【保護対策】 本種の生息環境である砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 立川(印刷中)

【写真】 P.189

(黒住耐二)



ホウシュノタマ

C ミクリガイ エゾバイ科

国：掲載なし
千：無-B-C

Siphonalia cassidariaeformis (Reeve, 1846)

【種の特性】 殻高40mm、殻径25mm程度の亜菱形で、厚質、堅固。体層は殻長の3/4を占める。縫合はくびれる。臍帯が発達し、臍孔はない。殻表にはやや太い螺肋を全面に巡らし、肩部は結節となる。殻色は多様であるが、褐色系で、マダラ斑を有することが多い。やや外海の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 陸奥湾～九州。

【県内の状況】 内房から銚子まで広い範囲で確認されていたが、近年激減していた。ただ、九十九里浜で最近、確認されるようになってきており、回復しつつあると考えられる。そのため、ランクの変更を行った。

【保護対策】 有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ミクリガイ

C ムシロガイ オリイレオブバイ科

国：掲載なし
千：C-C-C

Niotha livescens (Philippi, 1849)

【種の特性】 殻高20mm、殻径12mm程度の紡錘形で、厚質、堅固。体層は殻長の2/3を占める。殻表に多くの螺肋と縦肋をもち、粗い顆粒状になる。殻色は、黄白色から濃色の色帯を有する。水管はない。内唇にやや発達した滑層を持つ。内湾からやや外洋の潮間帯から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

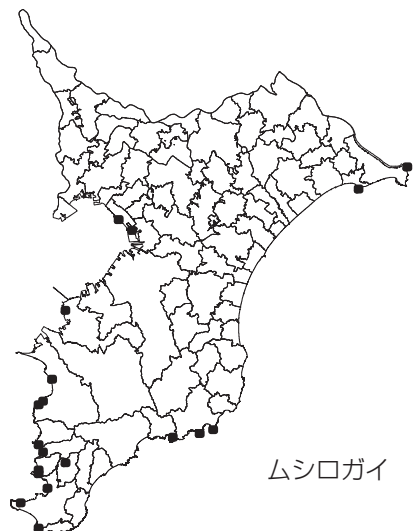
【分布】 東北地方～九州。

【県内の状況】 東京湾から銚子まで広く確認されていた種であり、1950年代の船橋市では干潮線普通種とされていたが、東京湾では絶滅したと考えられる。ただ、近年、富浦町と勝浦市等で生貝が確認されていることから、内房から外房のポケットになった微小な内湾域に残存している。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の砂泥底に負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955a) / 石山(1967) / 小島(1972) / 小島(1982) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989) / 堀越(1990)

(黒住耐二)



ムシロガイ

C シチクガイ タケノコガイ科

Hastula rufopunctata (Smith, 1877)

国：掲載なし
千：無-C-C

【種の特性】 殻高30mm、殻径5mm程度の錐形で、厚質、堅固。体層は殻長の1/3程度で、縫合はくびれない。殻表は平滑で、強い光沢を持つ。灰褐色の地に、縫合下の白帯と濃褐色点斑と周縁部に細い白帯がある。外海の上部浅海帯の砂底に生息する。

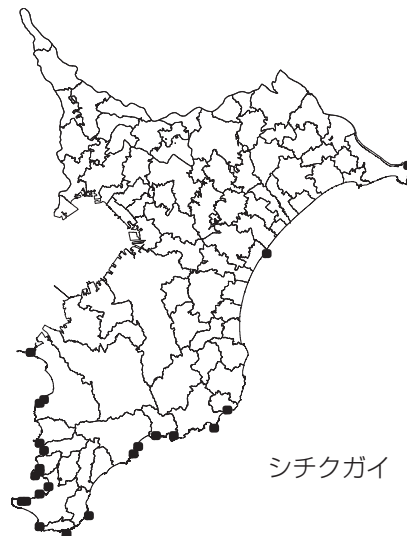
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房から銚子にかけて、多くの記録があるものの、近年では本種の新鮮な死殻も比較的少ない。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



シチクガイ

C モノアラガイ モノアラガイ科

Radix (Radix) auricularia japonica (Jay, 1857)

国：準絶滅危惧 (NT)
千：D-D-C

【種の特性】 殻高25mm、殻径20mm程度の卵形、薄質。体層が全体の4/5を占め、螺層は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表は平滑で、淡黄褐色の半透明。軸唇はねじれる。フタを持たない。低地の水田を中心とした止水域の植物等に付着する。淡水産。類似種に、近年移入された殻表に微細な螺溝を有し、細長い殻形のハブタエモノアラガイがある。

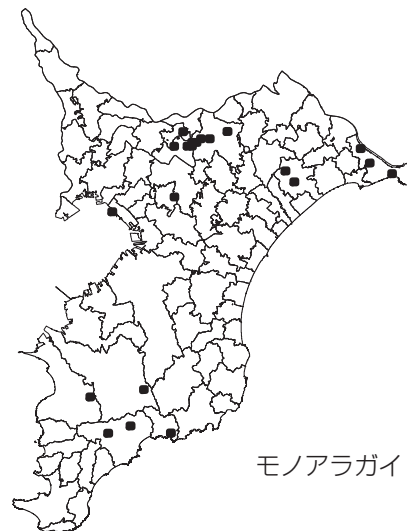
【分布】 北海道～九州。

【県内の状況】 県内各地から記録がある。しかし、千葉市などでは現在ほとんど見られず、県内各地の水田では激減している。現在では、移入の極めて類似した種も多く、同定は慎重にすべきである。最近の確実な記録・標本が極めて少なかったため、ランクを上げた。

【保護対策】 本種の生息する止水環境が富栄養化・水質悪化・極度な乾田化等により変化することのないようにすることが望まれる。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



モノアラガイ

C ミジンマイマイ ミジンマイマイ科

Vallonia pulchellula (Heude, 1882)

国：掲載なし
千：C-C-C

【種の特性】 殻高1mm、殻径1.8mm程度の円盤形、やや厚質、堅固。臍穴は大きく開き、殻径の1/3程度。体層周縁は丸い。縫合は浅い。殻表には、明瞭な突出した成長脈を密に有する。半透明白色。外唇は強く肥厚し、白色。フタを持たない。主に海岸部や河川敷の草地等に生息する。陸産。

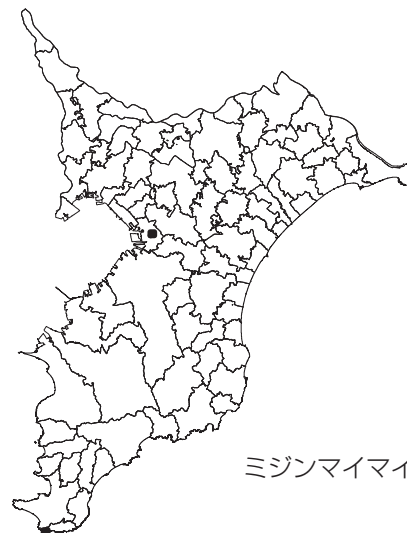
【分布】 関東地方～九州。朝鮮半島、中国沿岸部。

【県内の状況】 白浜町根本から記録がある。県内で確認された地点はわずかであるが、微小なため発見できていないものと考えられる。海岸草地の他、人工的な草地にも分散していることがある。

【保護対策】 本種の生息する海岸部の攪乱の生じる環境が持続されるようにしておくことが望まれる。

【引用文献】 成毛(1999)

(黒住耐二)



ミジンマイマイ

C スナガイ サナギガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Gastrocopta (Sinalbinula) armigerella armigerella (Reinhardt, 1877)

千：C-C-C

【種の特性】 殻高2.2mm、殻径1mm程度の蛹形、やや薄質、堅固。臍穴はわずかに開く。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。半透明白色。外唇は肥厚する。殻口内に多くの歯を持つ。主に海岸部や河川敷の草地等に生息する。陸産。

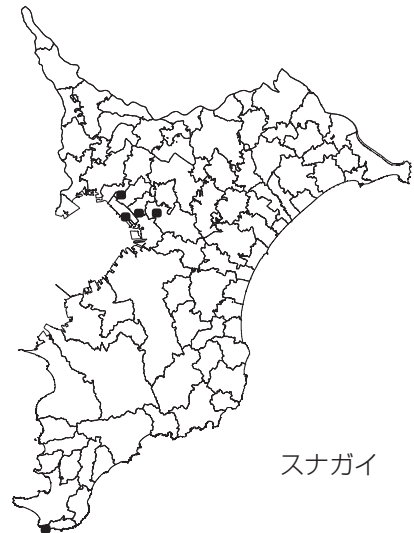
【分布】 本州(関東地方以西)～琉球。

【県内の状況】 白浜町根本、千葉市美浜区稲毛海浜公園・花見川区幕張等から記録がある。県内で確認された地点はわずかであるが、微小なため発見できていないものと考えられる。海岸草地の他、人工的な草地にも分散していることがある

【保護対策】 本種の生息環境である海岸植生が伐採・造成等で改変されず、従来のまま残されることが望ましい。

【引用文献】 黒住・岡本(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



スナガイ

C キセルモドキ キセルモドキ科

国：掲載なし

Mirus reinianus (Kobelt, 1875)

千：C-C-C

【種の特性】 殻高30mm、殻径10mm程度の塔形、厚質、堅固。臍穴は裂け目状に開く。体層周縁は丸い。縫合は浅い。殻表は、ほぼ平滑。淡灰褐色。外唇は肥厚し、白色。殻口内には歯を持たない。キセルガイに似るが、右巻。森林のリター下に生息する。陸産。

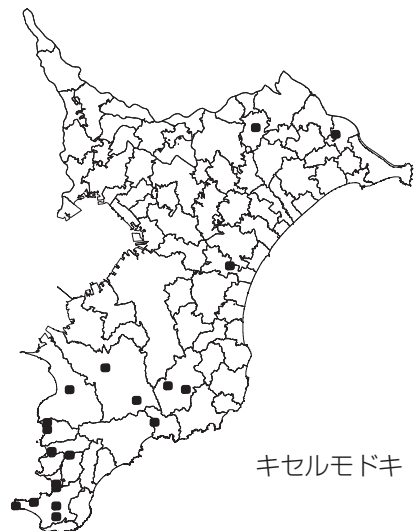
【分布】 本州(東北地方以南)～九州。

【県内の状況】 館山市、君津市、富山町、鋸山、富津市、大多喜町、大網白里町等から記録があり、清澄山の標本も所蔵されている。比較的環境の良い森林に生息し、確認される地点での個体数は少ない。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにしておくことが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / 笹生(1983) / 成毛(1985) / 前田ほか(1990) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



キセルモドキ

C コシダカシタラガイ ベッコウマイマイ科

国：掲載なし

Coneuplecta (Sitalina) circumcincta (Reinhardt, 1883)

千：B-C-C

【種の特性】 殻高2.5mm、殻径1.6mm程度の高い円錐形、薄質。体層周縁に丸みを帯びた角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、光沢はなく、殻表に数本の螺旋状肋を持つ。外唇は肥厚・反転しない。林床のリター下に生息する。陸産。

【分布】 本州(関東地方以西)～九州。

【県内の状況】 天津小湊町内浦山、千葉市緑区高田町から記録がある。微小なため確認地点が少ないものと考えられるが、環境の良い低地の森林に生息している。調査が進むにつれ、確認された地点が増加したので、ランクを下げた。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 黒住・岡本(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



コシダカシタラガイ

C ナガオカモノアラガイ オカモノアラガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

千：C-C-C

【種の特性】 殻高12mm、殻径7mm程度の長卵形、背腹に扁平、著しく薄質。螺塔は極めて小さく、体層がほとんどを占める。半透明淡黄褐色。殻表にはやや光沢を有し、平滑。殻口縁は肥厚・反転しない。低地の止水域の草本に付着する。陸産だが、水辺に生息するので、淡水産の種と同時に得られる。淡水産のモノアラガイ類に殻形態が近似するが、軸唇が肥厚せず、ねじれず、生体の眼は触角の先端にある。

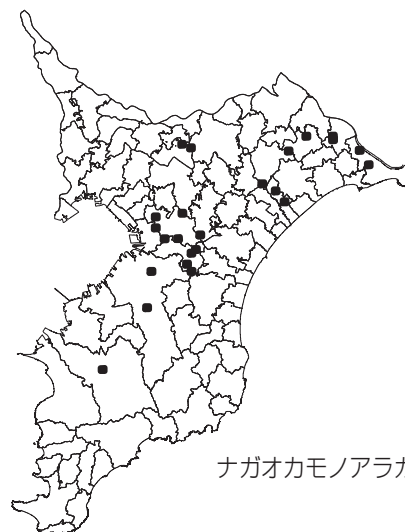
【分布】 関東地方～九州。

【県内の状況】 君津市、市原市、印旛沼、千葉市若葉区・緑区、山田町、東庄町、銚子市、光町等から記録がある。止水環境の改変で、県内各地で減少しているが、まだ残存している地域もある。

【保護対策】 本種の生息環境である淡水域の水際がこけや草本で覆われ、乾燥しないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 黒住・岡本(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ナガオカモノアラガイ

C キヌビロードマイマイ ナンバンマイマイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Nipponochloritis pumila (Gude, 1902)

千：C-C-C

【種の特性】 殻高12.5mm、殻径18mm程度の扁平な球形、著しく薄質。殻表に密な毛状突起を有する。栗褐色。螺塔はやや高まり、体層は大きく、殻口縁は肥厚・反転しない。生殖器の鞭状器が細長く、陰茎付属肢が小さい。林床の倒木下等に生息する。陸産。キヌビロードマイマイとカントウキヌビロードマイマイの亜種関係には再検討が必要とされ、今回、対象として種レベルのキヌビロードマイマイとした。

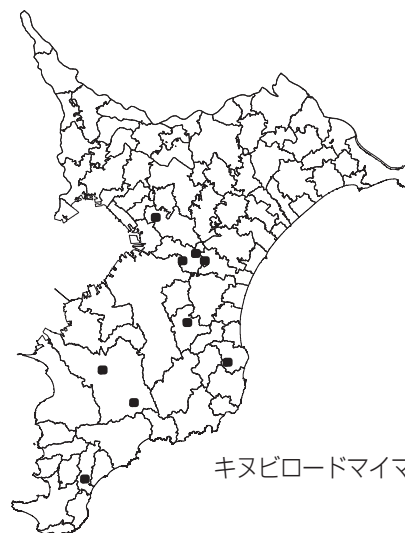
【分布】 関東地方。

【県内の状況】 丸山町、君津市、岬町、長南町、千葉市緑区から記録がある。これまでに、ヒメビロードマイマイとして報告されたものは本種と考えられる。次種との識別は殻形態では困難な場合も多い。自然の良く残っている森林に生息する。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる大径の倒木を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / Sorita (1986a) / 黒住・岡本(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



キヌビロードマイマイ

C キヨスミビロードマイマイ ナンバンマイマイ科

国：情報不足 (DD)

Nipponochloritis oscitans kiyosumiensis Azuma, 1982

千：C-C-C

【種の特性】 殻高14mm、殻径19mm程度の扁平な球形、著しく薄質。殻表に疎な毛状突起を有する。濃褐色。螺塔はほぼ平巻で、体層は大きく、殻口縁は肥厚・反転しない。生殖器の鞭状器が極めて小さく、陰茎付属肢は大きい。林床の倒木下等に生息する。陸産。

【分布】 千葉県(房総丘陵)。

【県内の状況】 鋸南町、丸山町、天津小湊町、君津市、市原市、勝浦市、陸沢町から記録がある。ケハダビロードマイマイやキヌビロードマイマイ(前田・大熊, 1972)として報告されたものは本種と考えられる。自然の良く残っている森林に生息する。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる大径の倒木を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 前田・大熊(1972) / 稲葉(1975) / 成毛(1985) / Sorita(1986b) / 黒住・岡本(1994a) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



キヨスミビロードマイマイ

C トウキョウコオオベソマイマイ オナジマイマイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Aegista tokyoensis Sorita, 1980

千：C-C-C

【種の特性】 殻高6mm、殻径9mm程度のソロバン玉形、やや薄質。螺塔はやや高い。体層周縁の角は弱い。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇は肥厚、反転する。林床のリター下に生息する。陸産。

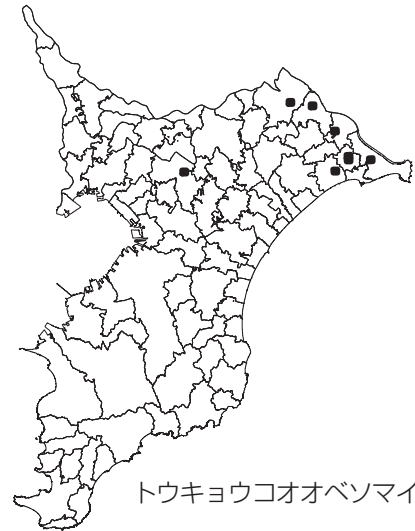
【分布】 関東地方東部。

【県内の状況】 佐倉市、佐原市、小見川町、東庄町、銚子市、旭市、海上町から記録がある。コオオベソマイマイの名で佐原市と小見川町から報告されたものは、本種と考えられる。またチョウシコオオベソマイマイは同種とされる。下総台地の斜面林に生息するが、環境の改変により個体数を減少させている。例えば銚子市では、絶滅の可能性もあるとされる。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や礫を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 渡辺・成毛(1988) / 成毛(1994) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



トウキョウコオオベソマイマイ

C キュウシュウクビキレガイ クビキレガイ科

国：掲載なし

Truncatella pfeifferi Martens, 1861

千：C-C-C

【種の特性】 殻高7mm、殻径3mm程度の円筒形で、厚質、堅固。成貝では初期螺塔を自ら失う。殻は淡紅褐色。体層は殻長の1/3程度。殻表には、強く明瞭な30本程度の縦肋を持つ。外唇は肥厚する。内湾から外洋の潮間帯上部の礫間等に生息する。汽水産。別名ヤマトクビキレガイ。

【分布】 東北地方～九州。朝鮮半島南部。

【県内の状況】 富津市、鴨川市から記録があり、富浦町西浜で少し古い死殻が、千葉市美浜区いなげの浜からも近年生息が確認されている。近年の生息確認は極めて少ないが、千葉市の人工海浜でも確認され、多少は分散できるようである。

【保護対策】 本種の生息地である潮上帯が極度に乾燥することのないような状況に保つておくことが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1955b) / 稲葉(1975) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



キュウシュウクビキレガイ

C ハマシイノミガイ オカミミガイ科

国：掲載なし

Melampus nuxeataneus Kuroda, 1947

千：C-C-C

【種の特性】 殻高13mm、殻径7mm程度の卵円形、やや厚質。臍穴は閉じ、縫帯はない。螺塔はやや高く、刻まれない。殻表は平滑で、光沢はやや強く、栗色で、種々の色帯を持つことがある。外唇はほとんど肥厚せず、内側に5個程度の歯を持つ。内唇に2歯と軸唇に1歯の強い歯を持つ。やや内湾から外洋の飛沫帯の岩礫地等に生息する。汽水産。

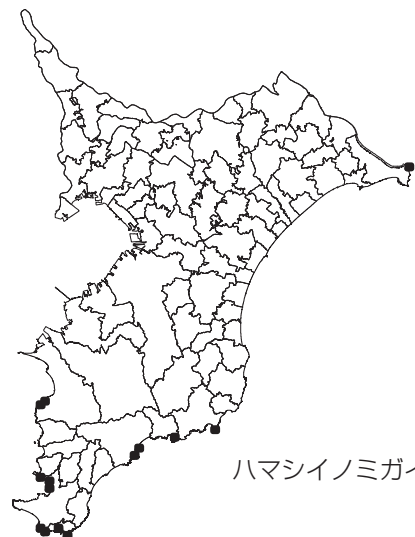
【分布】 房総半島～琉球。台湾。

【県内の状況】 内房から銚子までの記録がある。死殻であるが、近年、館山市、富浦町、白浜町からも本種が得られている。内房から外房各地にわずかに生存しているものと考えられる。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の岩礫地を保全し、併せて泥の堆積が生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 前田ほか(1990) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ハマシイノミガイ

C ナギサノシタタリ オカミミガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Microtralia alba (Gassies, 1865)

千：C-C-C

【種の特性】 殻高4.9mm、殻径2.6mm程度の卵円形、薄質。臍穴は閉じ、縫帯はない。螺塔は高い。殻表は平滑で、光沢のある半透明白色。外唇は肥厚せず、歯はない。内唇に弱い1-2歯と軸唇に1歯を持つ。やや内湾から外洋の潮間帯上部の転石下に生息する。汽水産。

【分布】 北海道南部～琉球。西太平洋。

【県内の状況】 勝浦市から記録があり、近年千葉市美浜区いなげの浜からも確認された。近年の生息確認は極めて少ないが、千葉市の人工海浜でも確認され、多少は分散できるようである。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の岩隙地を保全し、併せて泥の堆積が生じないようにすることが望ましい。

【引用文献】 成毛(1985) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



ナギサノシタタリ

C ヨコハマシジラガイ イシガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Inversium jokohamensis (Iheling, 1893)

千：C-C-C

【種の特性】 殻長58mm、殻高36mm、殻幅20mm程度の卵形、大型、厚質、堅固。殻頂は前方に寄り、浸食され、殻縁から突出しない。後縁は通常伸びる。殻皮は黒褐色で、殻表の分岐した彫刻は弱く、通常、後背縁では不明瞭。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起を持つ有鉤型。主に緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底、砂礫底に生息する。マツカサガイと同所的に生息することもある。淡水産。

【分布】 北海道南部以南、近畿地方までの本州。

【県内の状況】 夷隅町、御宿町、茂原市、長柄町、阿久川、小櫃川、夷隅川、室戸川等から記録があり、袖ヶ浦市の標本も収蔵されている。ニセマツカサガイや *Inversidens* sp. と表記されているのも本種である。県内各地の水田の用水路の改修による生息場所の変質により各地で減少しているが、マツカサガイよりは多い。

【保護対策】 生息地の水路・湖沼等の水質を改善し、生息環境の底質を保全することが望ましい。

【引用文献】 天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査委員会(編)(1996) / Kondo, T.(1998)

(黒住耐二)



ヨコハマシジラガイ

C ベニガイ ニッコウガイ科

国：掲載なし

Pharaonella sieboldii (Deshayes, 1855)

千：無-C-C

【種の特性】 殻長5cm、殻高2.3cm、殻幅0.7cm程度の細長い楕円形、後部は伸び、後端は切断状となり、尖る。殻表は平滑でやや光沢を有する。殻頂から腹縁後部に不明瞭な白帯を持つことがある以外は、紅色の単色。やや外海の上部浅海帯細砂底に生息する。

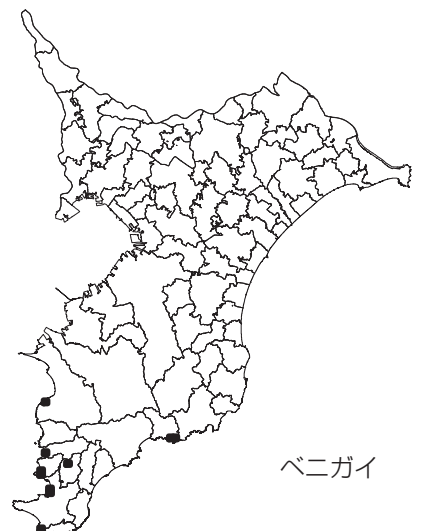
【分布】 北海道南部～九州。

【県内の状況】 内房から小湊までの地域で記録があり、一時激減していたが、近年時々生貝が得られている。

【保護対策】 本種の生息地であるやや外海の砂泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ベニガイ

C トゲウネガイ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-C-C

Quadrans parvitas Iredale, 1931

【種の特性】 殻長10mm、殻高8mm、殻幅4mm程度の短い亜菱形、厚質。殻頂は後部により、突出せず、頂点となる。殻表には細く密な成長肋があり、後背縁に2-3本のやや密な鱗片状突起を持った放射肋がある。白色。やや外海の上部浅海带砂底に生息する。

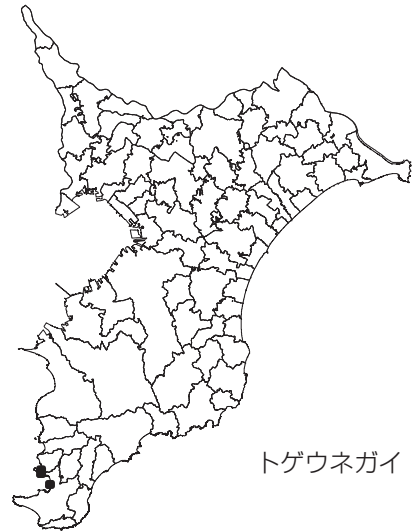
【分布】 房総半島～九州。インド～西太平洋。

【県内の状況】 館山湾から記録されているが、内房域からもやや新鮮な殻が得られている。

【保護対策】 本種の生息地であるやや外海の砂泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



トゲウネガイ

C サギガイ ニッコウガイ科

国：掲載なし
千：無-C-C

Macoma (Rexithaerus) sector Oyama, 1950

【種の特性】 殻長5cm、殻高3.5cm、殻幅1.4cm程度の亜方形、やや薄質で、脆い。腹縁と背縁は平行的で、腹縁は直線的。後背縁は明瞭に区切られ、後腹縁部は尖る。殻頂は後方により、僅かに突出する。殻表は、平滑で、光沢を有する。白色。内湾を除く上部浅海带砂泥底に生息する。

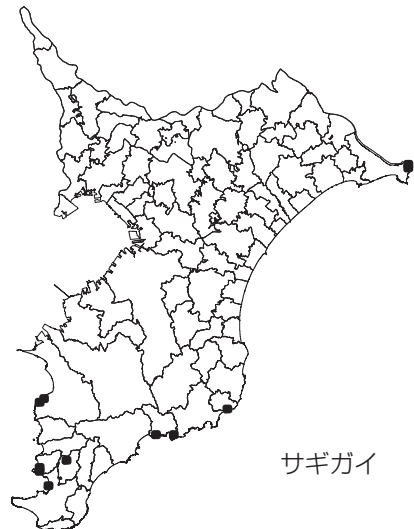
【分布】 サハリン～九州、中国。

【県内の状況】 東京湾・内房から銚子まで記録があり、現在でも九十九里浜を中心に合併の新鮮な殻が得られる。しかし、東京湾等では絶滅した可能性が高い。

【保護対策】 本種の生息地であるやや外海の砂泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001) / 黒住(2003)

(黒住耐二)



サギガイ

C イソシジミ イソシジミ科

国：掲載なし
千：C-C-C

Nuttallia japonica (Reeve, 1857)

【種の特性】 殻長50mm、殻高40mm、殻幅17mm程度の卵形、薄質、腹縁は丸みを帯びる。左右殻のふくらみは異なり、左殻が良くふくらむ。殻頂はやや前方により、頂点となる。殻表はほぼ平滑で、光沢のある殻皮を持つ。殻色は淡紫色で、後部に2本の白色の放射肋を持つ以外、単色。殻頂後部に歯丘が明か。やや内湾の潮間帯下部の砂泥底に生息する。

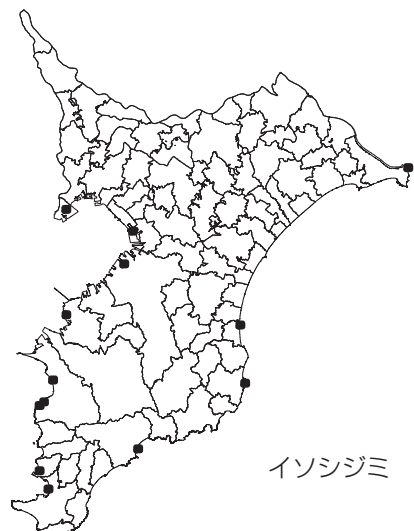
【分布】 南千島、北海道～九州。黄海、サハリン。

【県内の状況】 千葉市、*市原市、*木更津市(ワスレイソシジミでも報告)、*富津市、一宮町、銚子等から記録されている。小櫃川河口でわずかに確認されるほかは、他の東京湾では絶滅し、外房の河口域、一宮川河口や夷隅川ではまだ個体群を維持している。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 生息地である河口干潟を、現状のまま保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 石山(1967) / 小嶋(1972) / 秋山・松田(1974) / 大嶋・風呂田(1980) / 渡辺・成毛(1988) / 池田(1994)

(黒住耐二)



イソシジミ

C ナミノコガイ フジノハナガイ科

国：掲載なし
千：C-C-C

Donax (Latona) cuneta (L., 1758)

【種の特性】 殻長24mm、殻高16mm、殻幅9mm程度の三角形、やや厚質、腹縁は直線的。殻頂は後方により、頂点となる。殻表はほぼ平滑で、光沢があるが、後背部は顆粒状。殻色は種々の放射彩を持つ。外洋の潮間帯下部の淘汰の良い砂底に生息する。

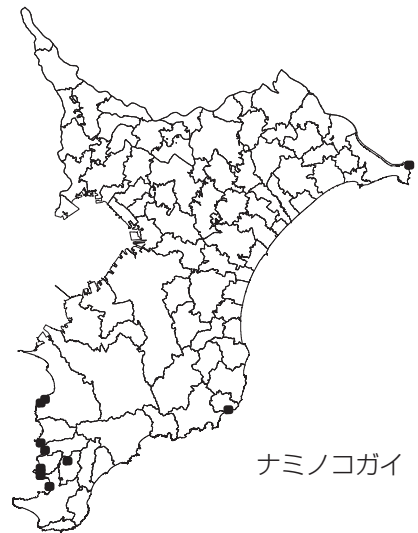
【分布】 房総半島～琉球。インドー西太平洋。

【県内の状況】 *富浦町多田良、*館山市坂田、銚子等から記録され、現在でも内房の砂底にわずかに生息している。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 石山(1967) / 渡辺・成毛(1988) / 池田(1994)

(黒住耐二)



ナミノコガイ

C ニホンマメシジミ マメシジミ科

国：掲載なし
千：C-C-C

Pisidium nipponense Kuroda, 1928

【種の特性】 殻長3mm、殻高2.2mm、殻幅1.7mm程度の卵三角形、薄質。殻頂は後方に寄り、殻縁から突出する。殻は半透明黄白色だが、殻表に付着物を有する場合が多い。殻表は弱い成長肋を持つ他は、平滑。主に湧水等の砂礫底に生息する。淡水産。本属の種の分類は未だ未確定なところが多く、今回の同定も確実ではない。しかし、本属の種は、関東地方の低地部では分断された分布をしている。

【分布】 本州(近畿地方以東)。

【県内の状況】 千葉市若葉区和泉町、我孫子市から記録がある。微小なために発見地点が少ないものと考えられ、下総台地の湧水からまだ生息地点は増加すると考えられる。しかし、湧水に生息するので、枯渇等による環境変化が懸念される。本州の分類学的検討は未了で、今後種名の変更が生じるかもしれない。

【保護対策】 本種の生息する湧水環境をかわれないように配慮し、周辺が伐採等で開かれないことが望まれる。

【引用文献】 黒住・岡本(1996)

(黒住耐二)



ニホンマメシジミ

C ウスハマグリ マルスダレガイ科

国：掲載なし
千：無-C-C

Pitar japonicum Kuroda & Kawamoto in Kawamoto, 1956

【種の特性】 殻長30mm、殻高26mm、殻幅20mm程度の卵三角形、やや厚質、腹縁は丸みを帯びる。殻頂はやや前方に寄り、突出しない。殻表には成長肋を持つが、やや平滑な粗面。白色で、生時には泥を殻表に付着させる。やや外海の上層浅海帯砂底に生息する。

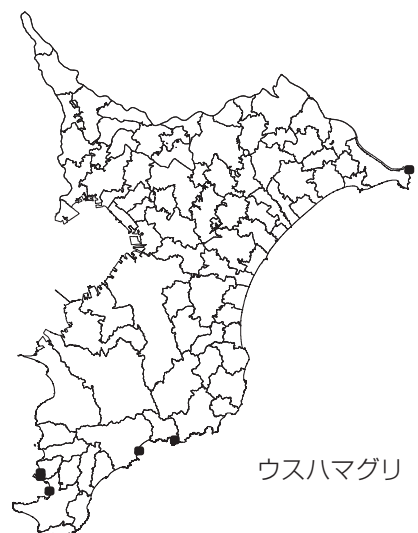
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房から銚子まで記録されているものの、富浦町等で新鮮な殻が得られるだけという程度にまで減少している。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ウスハマグリ

C ヒナガイ マルスダレガイ科

Dosinia (Dosinorbis) bilunulata (Gray, 1838)

国：掲載なし
千：無-C-C

【種の特性】 殻長8cm、殻高7.5cm、殻幅2.6cm程度の円形だが、後端と後腹部が僅かに角張り、厚質。前背縁の小月面はさらに板状に発達した成長肋で明瞭に区切られる。後背縁の楕面は明瞭に区分され、板状成長肋が著しい。殻表中央部は平滑で、光沢を持つ。青白色の地に、明らかな褐色放射彩を持つ。外海の上部浅海带砂底に生息する。

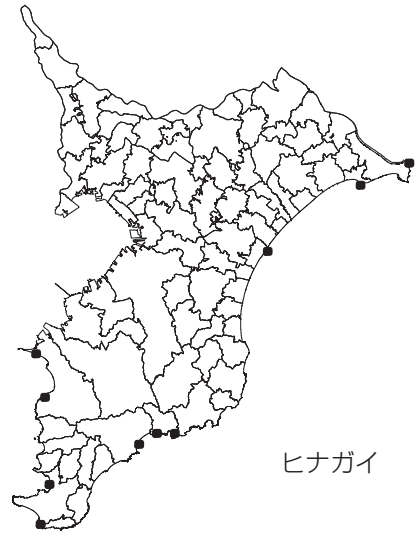
【分布】 房総半島～九州。

【県内の状況】 内房から銚子までの記録される。九十九里浜各地で時に生貝が打ち上がる。ただ、その個体数はかなり少ない。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



ヒナガイ

C オキシジミ マルスダレガイ科

Cyclina sinensis (Gmelin, 1791)

国：掲載なし
千：C-C-C

【種の特性】 最大で殻長50mm、殻高50mm、殻幅30mm程度の円形、厚質、堅固、腹縁は丸い。殻頂は中央に位置し、突出する。殻表には細かい成長肋と放射肋を持ち、光沢はない。黄褐色の殻皮があり、殻縁は紫色。内湾の潮間帯泥底に生息する。

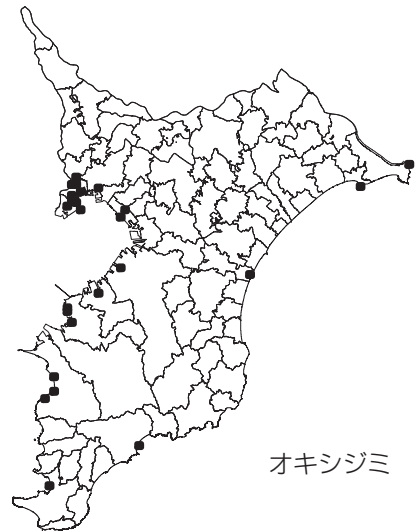
【分布】 房総半島～九州。中国沿岸。

【県内の状況】 市川市、浦安市、千葉市、*市原市、袖ヶ浦市、木更津市、*富津市、*館山市等から記録がある。東京湾沿岸のほとんどの地域は埋め立てられ、絶滅したが、江戸川放水路や小櫃川河口で個体群を維持している。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 本種の生息地の潮間帯泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 石山(1967) / 小島(1972) / 秋山・松田(1974) / 大嶋・風呂田(1980) / 風呂田(1980) / 岡本(1994) / 池田(1994) / Fukuda(1994)

(黒住耐二)



オキシジミ

C ハナグモリ ハナグモリ科

Glaucanome chinensis Gray, 1828

国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
千：C-C-C

【種の特性】 殻長20mm、殻高12mm、殻幅9mm程度の亜方形、薄質、腹縁は直線的で中央はわずかに窪む。殻頂はやや前方に寄り、突出する。殻表には細かい成長肋を持ち、やや粗面。緑黄褐色の殻皮があり、光沢はない。内湾の潮間帯泥底に生息する。

【分布】 房総半島～九州。黄海。

【県内の状況】 市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖、千葉市幕張干潟、木更津市小櫃川河口から記録がある。東京湾沿岸のほとんどの地域は埋め立てられ、絶滅したが、江戸川放水路や小櫃川河口で個体群を維持している。

【保護対策】 本種の生息地である内湾泥底潮間帯を保全することが望ましい。

【引用文献】 秋山・松田(1974) / 大嶋・風呂田(1980) / 風呂田(1980) / 秋山(1988) / 岡本(1994) / Fukuda(1994)

(黒住耐二)



ハナグモリ

C クチベニガイ コダキガイ科

国：掲載なし
千：C-C-C

Solidicorbula erythrodon (Lamarck, 1818)

【種の特性】 殻長27mm、殻高18mm、殻幅18mm程度の長卵形、極めて厚質、堅固。腹縁は直線的。後部は細くなり、尖る。殻頂はやや前方に寄り、突出する。殻表は成長肋を有する。右殻が左殻より大きく、後者を包み込む。白色で、内面の殻縁は紅色に縁取られる。やや外洋の潮間帯下部から上部浅海帯の淘汰の良い砂底に生息する。

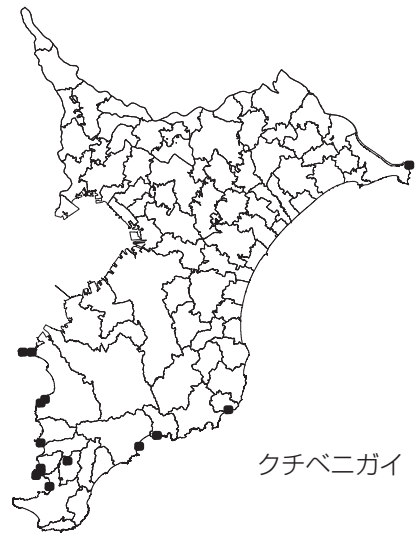
【分布】 房総半島～九州。黄海、中国沿岸。

【県内の状況】 *富津市富津岬、*富浦町多田良、館山市坂田、銚子等から記録がある。近年でも、比較的新鮮な死殻が、富浦町原岡、館山市北条等で確認されており、内房の砂泥底にまだ少数は残存しているようである。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 小島(1972) / 渡辺・成毛(1988) / 坂井(1989) / 堀越(1990)

(黒住耐二)



クチベニガイ

C ソトオリガイ ソトオリガイ科

国：掲載なし
千：C-C-C

Laternula (Exolaternula) navicula (Reeve, 1863)

【種の特性】 殻長45mm、殻高20mm、殻幅15mm程度の垂方形、極めて薄質、腹縁は直線的。後部は細ならず、後端は裁断状。殻頂はやや前方に寄り、突出し、裂け目がある。殻表は微細な顆粒に被われるが、平滑に見える。殻皮は明瞭で、濁灰色。内湾の潮間帯の砂泥底に生息する。

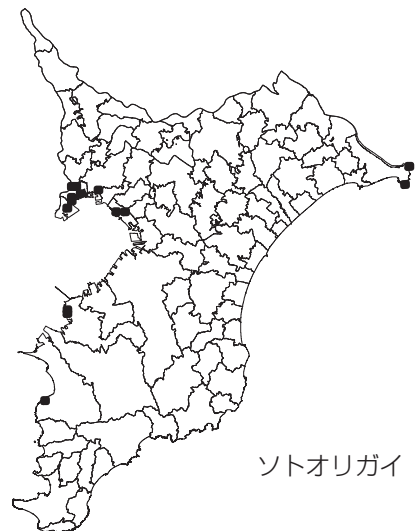
【分布】 北海道～九州。黄海、中国沿岸、サハリン。

【県内の状況】 市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖、千葉市美浜区幕張、木更津市小櫃川河口、銚子等から記録がある。江戸川放水路、小櫃川河口では個体群を維持している。相模湾では危惧とされる。

【保護対策】 本種の生息地の泥の多い干潟を保全することが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1963) / 稲葉(1965) / 秋山・松田(1974) / 風呂田(1980) / 渡辺・成毛(1988) / 岡本(1994) / 池田(1994) / Fukuda(1994)

(黒住耐二)



ソトオリガイ

D マルタニシ タニシ科

国：準絶滅危惧 (NT)
千：D-D-D

Cipangopaludina chinensis Gray in Griffith and Pidgeon, 1834

【種の特性】 殻高60mm、殻径45mm程度の卵円形、やや薄質、体層が全体の2/3を占め、臍穴はわずかに開く。縫合は深い。殻頂は通常浸食される。殻皮はやや光沢のある緑黄褐色。体層はほぼ平滑。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。赤褐色で革質のフタを持つ。低地部の水田等の止水域の泥底に生息する。淡水産。本種は弥生時代以降、関東地方に持ち込まれたと考えられており、今回学名を変更した。

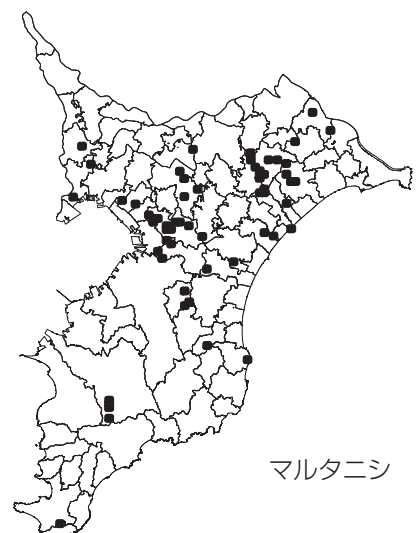
【分布】 北海道～琉球。中国。

【県内の状況】 県内各地から記録がある。しかし、県内各地の水田では激減している。

【保護対策】 本種の主な生息環境である水田で高濃度の農薬散布を避け、冬季にも多少の湿度の保たれる極度の乾田化を行わないことが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 田庄・岡本(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



マルタニシ

D カワグチツボ ワカウラツボ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Iravaida (Fluviocingula) elegantula (A. Adams, 1863)

千：D-D-D

【種の特性】 殻高6mm、殻径3.6mm程度の紡錘形で、薄質。殻皮は帯緑黄褐色だが、付着物や浸食により黒色に見える場合も多い。殻表には点刻列を有する。縫合は深い。臍穴は狭く開く。外唇はわずかに肥厚する。内湾奥部の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

【分布】 東北地方～九州。中国。

【県内の状況】 市川市、浦安市、船橋市、習志野市、千葉市から記録がある。埋立てのため、潮間帯下部の生息地が消滅したが、上部浅海帯に残存している。しかし、江戸川放水路、新浜湖・三番瀬奥部行徳沖、谷津干潟では、未だ潮間帯から上部浅海帯にかけて高密度で生息している。

【保護対策】 本種の生息環境である内湾の砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 風呂田(1980) / 岡本(1994) / Fukuda(1994) / 風呂田ほか(1996) / 成毛(1999) / 風呂田・鈴木(1999) (黒住耐二)



カワグチツボ

D ムシヤドリカワザンショウ カワザンショウガイ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Angustasiminea parasitologica (Kuroda, 1958)

千：D-D-D

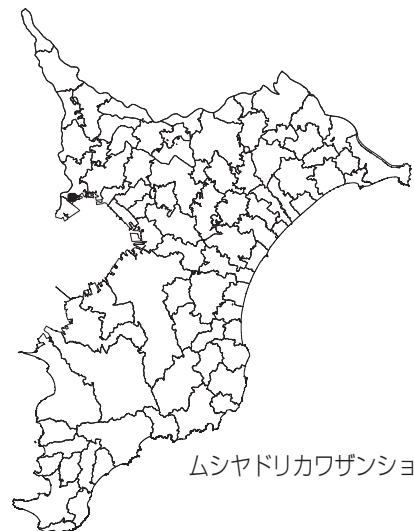
【種の特性】 殻高3.7mm、殻径2.5mm程度の円錐形で、厚質、堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや浅い。若いうちは、殻は光沢のある栗色で、縫合下に明瞭な黄白色帯を巡らす。殻表は平滑。臍穴は閉じる。潮間帯のアシ原に生息する。汽水産。

【分布】 東北地方～九州。

【県内の状況】 市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖、木更津市小櫃川河口、富津市、利根川河口から記録がある。潮間帯上部のアシ原に生息し、生息地は限られるが、個体群を維持している場所もある。

【保護対策】 本種の生息環境である潮上帯のアシ原と海岸前縁の草本群落に人為的攪乱が及ばないようにし、両者が連続し続けるようにすることが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / Fukuda(1994) / 成毛(1999) (黒住耐二)



ムシヤドリカワザンショウ

D ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ) ミズゴマツボ科

国：準絶滅危惧 (NT)

Stenothyra edogawensis (Yokoyama, 1927)

千：D-D-D

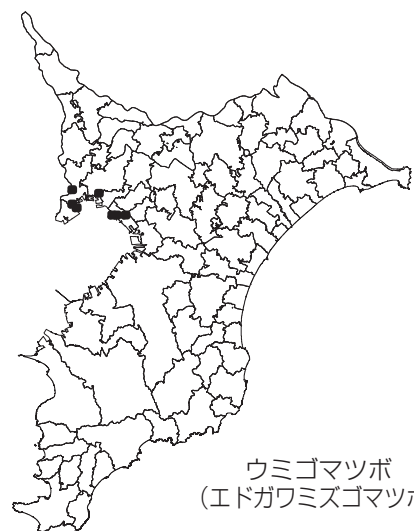
【種の特性】 殻高2.5mm、殻径1.2mm程度の卵円形で、小形、やや厚質、やや堅固。通常、螺塔部は残存する。体層が殻高の2/3を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、粗い点刻からなる螺状溝を持つ。内湾奥部の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

【分布】 東北地方～九州。

【県内の状況】 市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖・三番瀬奥部行徳沖、千葉市美浜区検見川、木更津市小櫃川河口から記録がある。千葉市では埋め立てのため、絶滅した可能性が高い。小櫃川河口からはミズゴマツボで報告されたものは本種と考えられ、1975年には確認されていたが、1987年には見られなくなっている。前2地域では、未だ潮間帯から上部浅海帯にかけて高密度で生息している。

【保護対策】 本種の生息地の泥底を保全することが望ましい。

【引用文献】 秋山・松田(1974) / 稲葉(1975) / 風呂田(1980) / 秋山(1988) / 岡本(1994) / Fukuda(1994) / 岡本・黒住(1994) / 黒住(1996) / 風呂田ほか(1996) / 成毛(1999) (黒住耐二)



ウミゴマツボ
(エドガワミズゴマツボ)

D キヌボラ オリイレヨフバイ科

国：掲載なし
千：D-D-D

Reticunassa japonica (Lischke, 1874)

【種の特性】 殻高16mm、殻径8mm程度の高円錐形で、やや薄質、堅固。体層は殻長の1/2で、縫合は深く、螺塔はやや膨らむ。殻表に多くの螺肋と縦肋をもち、細かな顆粒状。殻色は、黄白色で濃色の色帯を有する。水管は短い。内唇の滑層は発達しない。内湾からやや外洋の潮間帯から上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 東北地方～九州。台湾。

【県内の状況】 船橋市、*富津市富津岬、*館山市坂田・富崎、銚子等から記録されているが、やや小形なため発見率が低く、県内に広く分布していたと考えられる。ただ、1950年代の船橋市では干潮線普通種とされているが、東京湾でも激減していることは確実である。各地の小湾部に残っている可能性がある。

【保護対策】 本種の生息環境であるやや内湾の砂泥底が維持されることが望ましい。

【引用文献】 石山(1967) / 小島(1972) / 渡辺・成毛(1988) / 堀越(1990) / 岡本・黒住(1996)

(黒住耐二)



キヌボラ

D モスソガイ エゾバイ科

国：掲載なし
千：無-D-D

Volutharpa ampullacea perryi (Jay, 1855)

【種の特性】 殻高40mm、殻径35mm程度の球形で、薄質。体層は殻長のほとんどを占め、螺塔部は僅かにくびれる。3/4を占める。縫合はくびれる。臍帯・臍孔はない。殻表は平滑で、生時は緑褐色のピロード状の殻皮を被る。やや内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。

【分布】 伊勢湾～北海道。オホーツク海。

【県内の状況】 東京湾をタイプ産地とし、全県から記録されていたが、東京湾の近年の記録は見られない。

【保護対策】 有機スズ等の環境ホルモンとなる物質の規制を継続し、本種の生息地に様々な負荷のかからないようにすることが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)



モスソガイ

D オオタキコギセル キセルガイ科

国：掲載なし
千：D-D-D

Euphaedusa digonoptyx digonoptyx (Bottger, 1877)

【種の特性】 殻高13mm、殻径3mm程度の全体に細い紡錘形、やや薄質、栗色の殻皮を持つ。殻表の成長肋は明瞭。殻口は垂三角形で、殻口縁は体層から遊離する。上板は明らかで、下板は奥まり、長く、上板近くで奥へ潜り込み、下軸板は通常見えない。腔壁は主壁と右側面の上下2個の点状の壁からなる。多少攪乱された低地の林の林床のリター下に生息する。陸産。

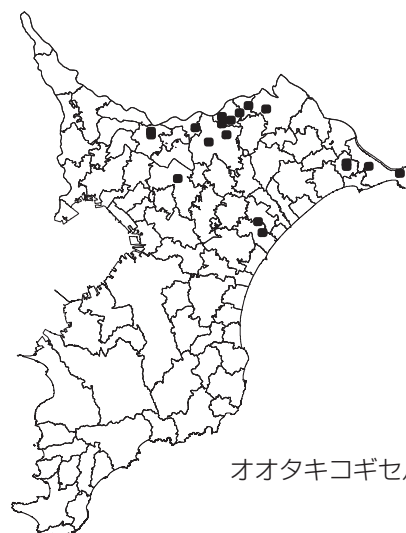
【分布】 東北地方、関東地方、中部地方。

【県内の状況】 成東町、成田市、印西市、栄町、佐原市、下総町、銚子市、海上町から記録がある。下総台地の斜面林等に生息するが、環境の改変により個体数を減少させている。例えば銚子市では、絶滅の可能性もあるとされる。

【保護対策】 本種の生息する自然度の高い森林で伐採や下草刈り等により林床が乾燥しないようにし、併せて隠れ家となる倒木や立ち枯れ木を存在させておくことが望ましい。

【引用文献】 稲葉(1975) / 成毛(1985) / 渡辺・成毛(1988) / 成毛(1993) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



オオタキコギセル

D イシガイ イシガイ科

国：掲載なし
千：D-D-D

Unio douglasiae Gray in Griffith Griffith & Pidgeon, 1834 f. *nipponensis* Martens, 1877

【種の特性】殻長60mm、殻高28mm、殻幅20mm程度の長卵形、厚質、堅固。殻頂は前方に寄り、殻縁から突出する。殻皮は黒褐色で、殻表は弱い成長肋を有する。主に緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底、砂礫底に生息する。淡水産。

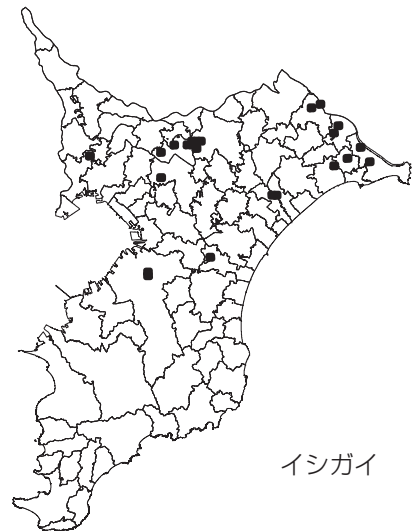
【分布】北海道～九州。朝鮮半島、中国。

【県内の状況】手賀沼、成田市、小見川町、東庄町、銚子市、利根川、海上町、亀成川等から記録がある。しかし、水田脇の用水路の改変により多くの場所で生息不可能になっている。

【保護対策】生息地の水路・湖沼等の水質を改善し、生息環境の底質を保全することが望ましい。

【引用文献】稲葉(1975) / 成毛(1985) / 天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査委員会(編)(1996) / 成毛(1999)

(黒住耐二)



イシガイ

D エゾヒバリガイ イガイ科

国：掲載なし
千：無-D-D

Modiolus kurilensis Bernard, 1983

【種の特性】殻長9cm、殻高6.5cm、殻幅4cm程度の三角形、やや薄質。殻頂はほぼ前端に位置し、前縁は短く、尖る。腹縁は中央部で僅かに湾入する。殻表後部によく発達した毛状の殻皮を持ち、前腹部には毛はない。やや内湾の上部浅海帯砂泥底などに生息する。

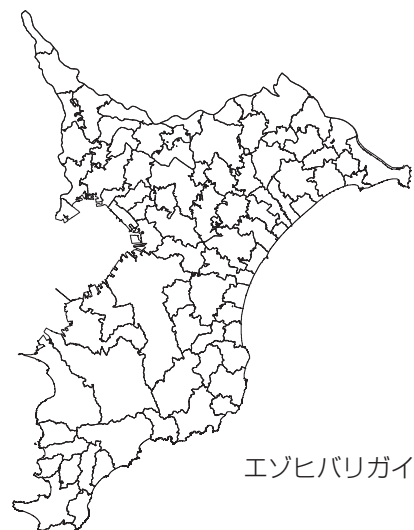
【分布】東京湾～北海道。ベーリング海。

【県内の状況】東京湾から銚子で確認されているが、東京湾では絶滅したと考えられる。

【保護対策】生息地であるやや遮蔽された岩礁域が保全されることが望ましい。

【引用文献】波部・伊藤(1965) / 清水(2001)

(黒住耐二)



エゾヒバリガイ

D ミゾガイ ユキノアシタ科

国：掲載なし
千：無-D-D

Siliqua pulchella (Dunker, 1852)

【種の特性】殻長30mm、殻高11mm、殻幅4mm程度で、極めて細長い楕円形、薄質。前部は反りかえらない。殻頂はは前方により、突出しない。内面前部に明瞭な肋を持つ。前後端は狭く開く。殻表は平滑。淡紫色で、弱い光沢がある。やや内湾の上部浅海帯細砂底に生息する。

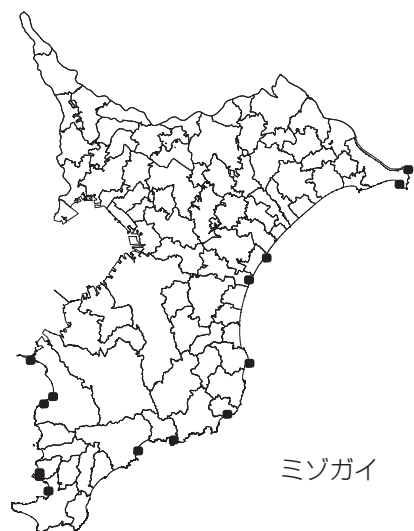
【分布】房総半島～九州。東アジア。

【県内の状況】内房から銚子まで、広く分布し、比較的多くの記録がある。過去にはかなり多かった種であるが、細砂底を好み、近年では生息する海岸が限られている。

【保護対策】本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】清水(2001)

(黒住耐二)



ミゾガイ

D ワスレガイ マルスダレガイ科

国：掲載なし
千：無-D-D

Cyclosunetta menstrualis (Menke, 1843)

【種の特性】 殻長6.5cm、殻高5.5cm、殻幅2cm程度の卵形、後部が僅かに尖る。極めて厚質。殻頂は少し前方に位置し、直線的な前背縁と僅かなくぼみで区分される。後背縁は内面側におれ込む。殻表は平滑で、年輪状の濃部を持つ紫褐色。殻皮は薄いが光沢を持つ。外海の上部浅海帯の砂底に生息する。

【分布】 福島県～九州。

【県内の状況】 内房から銚子まで、分布記録があるが、現在では時々九十九里浜で生貝が打ち上がる程度である。

【保護対策】 本種の生息できる淘汰の良い外海の砂浜を保全することが望ましい。

【引用文献】 清水(2001)

(黒住耐二)

